

よこ い おお き ど い せき  
横井・大木戸遺跡

—店舗建設に伴う発掘調査報告書—

二〇二一年七月

株式会社大測量・甲州市教育委員会・公益財団法人山梨文化財研究所

2021年7月

株式会社大測量  
甲州市教育委員会  
公益財団法人山梨文化財研究所

よこ い おお き ど い せき  
横井・大木戸遺跡

—店舗建設に伴う発掘調査報告書—

2021年7月

株式会社大栄測量  
甲州市教育委員会  
公益財団法人山梨文化財研究所

## 例 言

1. 本書は、山梨県甲州市塩山下於曾・熊野地内に所在する、横井・大木戸遺跡（塩山下於曾大木戸306-1ほか）の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、店舗建設に伴う本調査であり、株式会社大栄測量の委託を受けた公益財団法人山梨文化財研究所が発掘調査ならびに整理作業を実施した。
3. 現地における発掘調査は、令和元年5月9日より開始し、同年7月20日まで実施した。
4. 本書の執筆は、甲州市教育委員会指導のもと、第3章中の石器（石鏃・石斧）については保坂康夫、それ以外は宮澤公雄が、編集は宮澤が行った。
5. 本書に掲載の写真は宮澤が、航空写真は株式会社テクノプランニングが撮影した。
6. 発掘調査および整理作業において一部の調査・業務について、以下の機関に委託ならびに協力を得た。  
基準点・航空写真測量 株式会社テクノプランニング

石材鑑定 河西 学

（公益財団法人 山梨文化財研究所）

7. 本書ならびに発掘調査に関わる記録図面・写真・出土遺物等は、甲州市教育委員会が保管している。
8. 本遺跡の発掘調査および整理作業にあたっては、以下の諸機関・各位から多大なるご指導・ご協力を賜った。ここに記して深く感謝の意を表する次第である。  
甲州市教育委員会、山梨県観光文化部文化振興文化財課、入江俊行、河西 学、櫛原功一、橋爪強策、平野 修、矢沢裕次
9. 参考文献は、執筆・編集者順に第4章末にまとめて掲載した。
10. 本書で用いた遺構名称は、それぞれの発掘調査報告書に依拠しており、あえて統一は図っていない。

## 凡 例

1. 遺跡全体におけるX・Y座標は、世界測地系平面直角座標第Ⅷ系のX = -33,900,000、Y = 20,960,000（北緯35度41分39秒、東経138度43分53秒）を基点（X = 0、Y = 0）とした座標値である。各遺構平面図中に示す方位は、すべて座標北を示している。

なお、真北方向角は0度8分06秒である。

2. 遺構・遺物実測図の縮尺は、原則として以下の通りである。

遺 構	堅穴住居 (SI) — 1/30、1/60
	堅穴状遺構 (TA) — 1/60
	溝跡 (SD) — 1/30、1/40、1/60
	土坑 (SK) — 1/30
	ピット (SP) — 1/30
遺 物	土 器 — 1/3、1/4
	土製品 — 1/2
	金属製品 — 1/2
	石製品 — 1/1、1/3

3. 遺構図版中で使用したスクリーントーンの凡例は以下の通りである。

	礫断面		焼土・焼土範囲
	コンクリート		粘土範囲

4. 遺構図版中の遺物分布図のマークは以下の通りである。ただし、マークの向きは平面図については北

向き、垂直分布図は垂直方向を基準としている。

- ◆ 縄土土器 ● 土師器 ▲ 須恵器 ■ 陶器・磁器
- 土製品 △ 石器・石製品 ★ 古銭・金属製品
- ◇ その他

5. 遺物図版中で使用したスクリーントーンの凡例は、以下の通りである。

 須恵器断面  陶器断面

6. 遺構同一図版中の標高は、原則として統一しているが、一部異なるものもあり明記してある。
7. 出土遺物分布図中の出土遺物実測図は、任意の縮尺であり統一していない。また、接合関係を表現した線のうち、実線は接合関係にあるもの、破線は同一個体と判断されるが直接接合しないものを表す。
8. 遺構図版中および遺物観察表中の色調名は、農林水産省技術会議事務局監修 1990『新版 標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄）によっている。
9. 本書で用いた地図は、国土地理院発行地形図「塩山」（1:25,000）、甲州市発行の甲州市全図（1:10,000）・甲州市都市計画基本図（1:2,500）である。
10. 本調査においては、以下の文献において概要を報告しているが、本書をもって正式な報告とする。  
宮澤公雄 2019「大木戸遺跡」『山梨考古』第154号 山梨県考古学協会

## 本文目次

例言	第1節 竪穴住居跡 (SI) .....	10
凡例	第2節 竪穴状遺構 (TA) .....	13
第1章 序 説 .....	第3節 溝跡 (SD) .....	13
第1節 調査に至る経緯 .....	第4節 土坑・ピット (SK・SP) .....	15
第2節 調査経過 .....	第5節 遺構外出土遺物 .....	16
第3節 調査方法 .....	第4章 総 括 .....	61
第4節 遺跡概要 .....	第1節 発見された遺構について .....	61
第5節 基本層序 .....	第2節 墨書土器について .....	63
第2章 遺跡の立地と環境 .....	おわりに .....	64
第1節 遺跡の地理的位置 .....	報告書抄録	
第2節 遺跡の歴史的環境 .....	奥付	
第3章 遺構と遺物 .....		

## 表 目 次

第1表 周辺の遺跡一覧表 .....	9	第5表 土製品観察表 .....	23
第2表 土坑一覧表 .....	17	第6表 石製品観察表 .....	23
第3表 ビット一覧表 .....	18	第7表 金属製品観察表 .....	23
第4表 土器観察表 .....	19		

## 図 版 目 次

第1図 遺跡位置図 .....	2	第22図 SD02・05 .....	40
第2図 周辺の遺跡・遺構配置図 .....	4	第23図 SD03・04 .....	41
第3図 遺跡全体図 .....	5	第24図 SD06・07 .....	42
第4図 基本層序 .....	6	第25図 SK・SP(1) .....	43
第5図 周辺の遺跡 .....	8	第26図 SK・SP(2) .....	44
第6図 SI01(1) .....	24	第27図 SK・SP(3) .....	45
第7図 SI01(2) .....	25	第28図 SK・SP(4) .....	46
第8図 SI02・03・05(1) .....	26	第29図 SK・SP(5) .....	47
第9図 SI02・03・05(2) .....	27	第30図 SK・SP(6) .....	48
第10図 SI02・03・05(3) .....	28	第31図 SK・SP(7) .....	49
第11図 SI02・03・05(4)・SI04(1) .....	29	第32図 SK・SP(8) .....	50
第12図 SI04(2) .....	30	第33図 SK・SP(9) .....	51
第13図 SI06・07(1) .....	31	第34図 出土遺物(1) .....	52
第14図 SI06・07(2) .....	32	第35図 出土遺物(2) .....	53
第15図 SI06・07(3) .....	33	第36図 出土遺物(3) .....	54
第16図 SI08(1) .....	34	第37図 出土遺物(4) .....	55
第17図 SI08(2) .....	35	第38図 出土遺物(5) .....	56
第18図 SI09(1) .....	36	第39図 出土遺物(6) .....	57
第19図 SI09(2) .....	37	第40図 出土遺物(7) .....	58
第20図 SI09(3)・TA01 .....	38	第41図 出土遺物(8) .....	59
第21図 SD01 .....	39	第42図 出土遺物(9) .....	60

## 写真図版目次

- |      |                       |      |                                |
|------|-----------------------|------|--------------------------------|
| 図版 1 | 1. 調査区航空写真 (1)        |      | 8. SI07 完掘                     |
|      | 2. 調査区航空写真 (2)        | 図版 7 | 1. SI07 遺物出土状況 (1)             |
| 図版 2 | 1. 調査開始前状況            |      | 2. 同 遺物出土状況 (2)                |
|      | 2. SI01 完掘            |      | 3. 同 遺物出土状況 (3)                |
|      | 3. SI01 遺物出土状況 (1)    |      | 4. 同 遺物出土状況 (4)                |
|      | 4. 同 遺物出土状況 (2)       |      | 5. 同 刀子出土状況                    |
|      | 5. 同 遺物出土状況 (3)       |      | 6. SI07 掘り方                    |
|      | 6. 同 刀子出土状況           |      | 7. SI08 完掘                     |
|      | 7. SI01 カマド完掘         |      | 8. SI08 遺物出土状況 (1)             |
|      | 8. SI01 掘り方           | 図版 8 | 1. SI08 遺物出土状況 (2)             |
| 図版 3 | 1. SI02・03 完掘         |      | 2. 同 遺物出土状況 (3)                |
|      | 2. SI02・03 遺物出土状況 (1) |      | 3. SI08 カマド完掘                  |
|      | 3. 同 遺物出土状況 (2)       |      | 4. 同 カマド内遺物出土状況                |
|      | 4. 同 遺物出土状況 (3)       |      | 5. SI08 掘り方                    |
|      | 5. 同 遺物出土状況 (4)       |      | 6. SI09 完掘                     |
|      | 6. SI02 牽引金出土状況       |      | 7. SI09 遺物出土状況 (1)             |
|      | 7. 同 環出土状況            |      | 8. 同 遺物出土状況 (2)                |
|      | 8. SI02 カマド完掘         | 図版 9 | 1. SI09 遺物出土状況 (3)             |
| 図版 4 | 1. SI02 カマド内遺物出土状況    |      | 2. 同 遺物出土状況 (4)                |
|      | 2. SI02・03 掘り方        |      | 3. 同 墨書土器出土状況                  |
|      | 3. SI04 完掘            |      | 4. SI09 カマド完掘                  |
|      | 4. SI04 遺物出土状況 (1)    |      | 5. 同 カマド内遺物出土状況                |
|      | 5. 同 遺物出土状況 (2)       |      | 6. SI09 掘り方                    |
|      | 6. 同 遺物出土状況 (3)       |      | 7. TA01 完掘                     |
|      | 7. 同 環出土状況            |      | 8. TA01 遺物出土状況 (1)             |
|      | 8. 同 鉄製品出土状況          | 図版10 | 1. TA01 遺物出土状況 (2)             |
| 図版 5 | 1. SI04 カマド完掘         |      | 2. SD01                        |
|      | 2. SI04 カマド内遺物出土状況    |      | 3. SD01 遺物出土状況 (1)             |
|      | 3. SI04 掘り方           |      | 4. 同 遺物出土状況 (2)                |
|      | 4. SI05 完掘            |      | 5. 同 遺物出土状況 (3)                |
|      | 5. SI05 遺物出土状況 (1)    |      | 6. SD02・SK18・19・SP14・15 遺物出土状況 |
|      | 6. 同 遺物出土状況 (2)       |      | 7. SK18・19 遺物出土状況              |
|      | 7. 同 遺物出土状況 (3)       |      | 8. SP14・15 遺物出土状況              |
|      | 8. SI05 掘り方           | 図版11 | 1. SD03 (中央)・04                |
| 図版 6 | 1. SI06 完掘            |      | 2. SD03 (西側)                   |
|      | 2. SI06 遺物出土状況 (1)    |      | 3. SD03 (中央) 遺物出土状況 (1)        |
|      | 3. 同 遺物出土状況 (2)       |      | 4. 同 遺物出土状況 (2)                |
|      | 4. 同 遺物出土状況 (3)       |      | 5. SD05・06                     |
|      | 5. SI06 カマド完掘         |      | 6. SD05 遺物出土状況 (1)             |
|      | 6. SI06 カマド内遺物出土状況    |      | 7. 同 遺物出土状況 (2)                |
|      | 7. SI06 掘り方           |      | 8. 同 遺物出土状況 (3)                |

- 図版12 1. SD06 遺物出土状況  
2. SD07・SP36  
3. SK01  
4. SK01 遺物出土状況  
5. SK05 遺物出土状況  
6. SK09  
7. SK09 遺物出土状況  
8. SK11 遺物出土状況

- 図版13 1. SK15  
2. SK16  
3. SK17  
4. SK20～23  
5. SK28  
6. SK31  
7. SK32  
8. SK32 遺物出土状況 (1)

- 図版14 1. SK32 遺物出土状況 (2)  
2. SP24  
3. SP24 遺物出土状況  
4. SP30  
5. SP30 遺物出土状況 (1)

6. 同 遺物出土状況 (2)  
7. SP44  
8. SP44 遺物出土状況

- 図版15 1. 2区完掘  
2. 3区完掘  
3. 基本層序  
4. 表土剥ぎ  
5. 調査風景 (1)  
6. 調査風景 (2)  
7. 見学会風景 (1)  
8. 見学会風景 (2)

図版16 出土遺物 (1)

図版17 出土遺物 (2)

図版18 出土遺物 (3)

図版19 出土遺物 (4)

図版20 出土遺物 (5)

図版21 出土遺物 (6)

図版22 出土遺物 (7)

図版23 出土遺物 (8)

図版24 出土遺物 (9)

# 第1章 序 説

## 第1節 調査に至る経緯

甲州市塩山下於曾・熊野地区は、笛吹川と重川によって形成された扇状地上にあり、現在は果樹を中心とした農業が盛んに行われている。また、その一方で近年道路整備が行われた結果、郊外型の商業施設の建設も進められており、急速に開発が進行している地区でもある。

株式会社ローソンは、塩山東バイパスと市道下塩後22号線交差点北西の地点に店舗建設を計画した。計画地は埋蔵文化財包蔵地である横井・大木戸遺跡の範囲内にあたり、過去には道路建設に先立って発掘調査が実施され、多くの遺構、遺物が発見されている。とくに計画地南側隣接地は、平成27年に市道下塩後22号線建設に伴い発掘調査を実施し、平安時代の竪穴住居30軒ほどが発見されたこともあり、甲州市教育委員会ではこの計画を受け、平成30年11月22日～29日に試掘調査を実施した。

試掘調査の結果、竪穴建物をはじめ、土坑・ピットなどが確認され、設定したすべてのトレンチから遺構・遺物を検出した。出土した遺物は平安時代の土師器が主体であることから、当地内は平安時代の集落跡の一部と考えられた。このため、開発に当たって、遺跡が破壊される場合には、事前に記録保存（発掘調査）等の措置を講じる必要があると判断、事業者に通告した。

平成31年1月、事業主体である株式会社ローソンより公益財団法人山梨文化財研究所に対し、当該開発予定地の発掘調査依頼があり、甲州市教育委員会指導の下協議した結果、事業地の開発業務を担う株式会社大栄測量と公益財団法人山梨文化財研究所の間で委託契約を締結するとともに、甲州市教育委員会を指導機関として、株式会社大栄測量、公益財団法人山梨文化財研究所の三者による埋蔵文化財に関する取り扱いの協定書を締結し、発掘調査および整理作業にあたることとした。

発掘調査は、令和元年5月9日より開始し、同年7月20日に発掘調査を終了、同月22日に調査事務所などを撤収した。

### 調査体制

**調査主体** 公益財団法人 山梨文化財研究所  
**調査担当者** 宮澤公雄（公益財団法人 山梨文化財研究所）

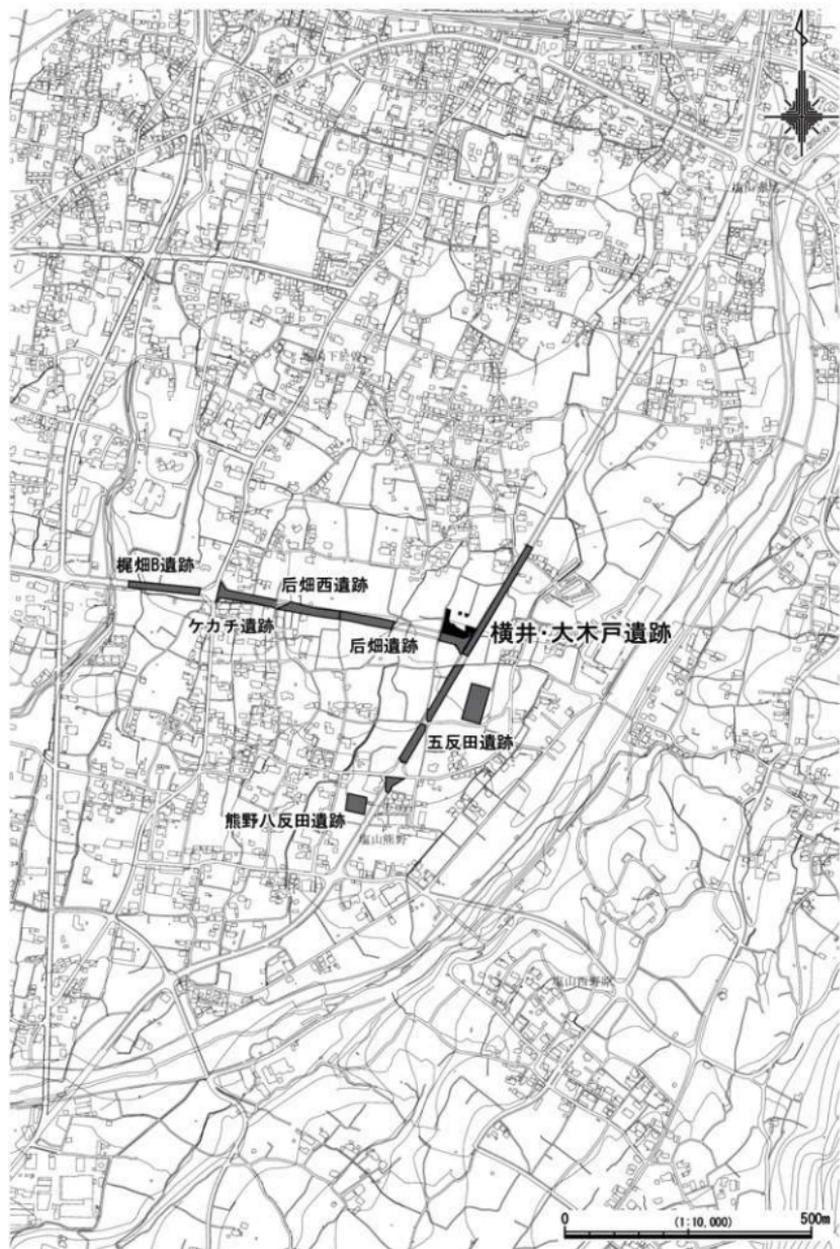
**発掘調査参加者** 岩崎誠至、河西町男、窪田信一、河野次男、武井美智子、近山辰男、筒井 聡、出井 光、深沢 修、望月一正、森原智恵子、渡辺三男

**整理作業参加者** 岩崎崎佐子、岡 昭子、梶原 薫、川口三和、佐野真雪、田中真紀美、林 紀子、保坂康夫

**事務局** 河西 学、数野雅彦、松井明子、横田杏子

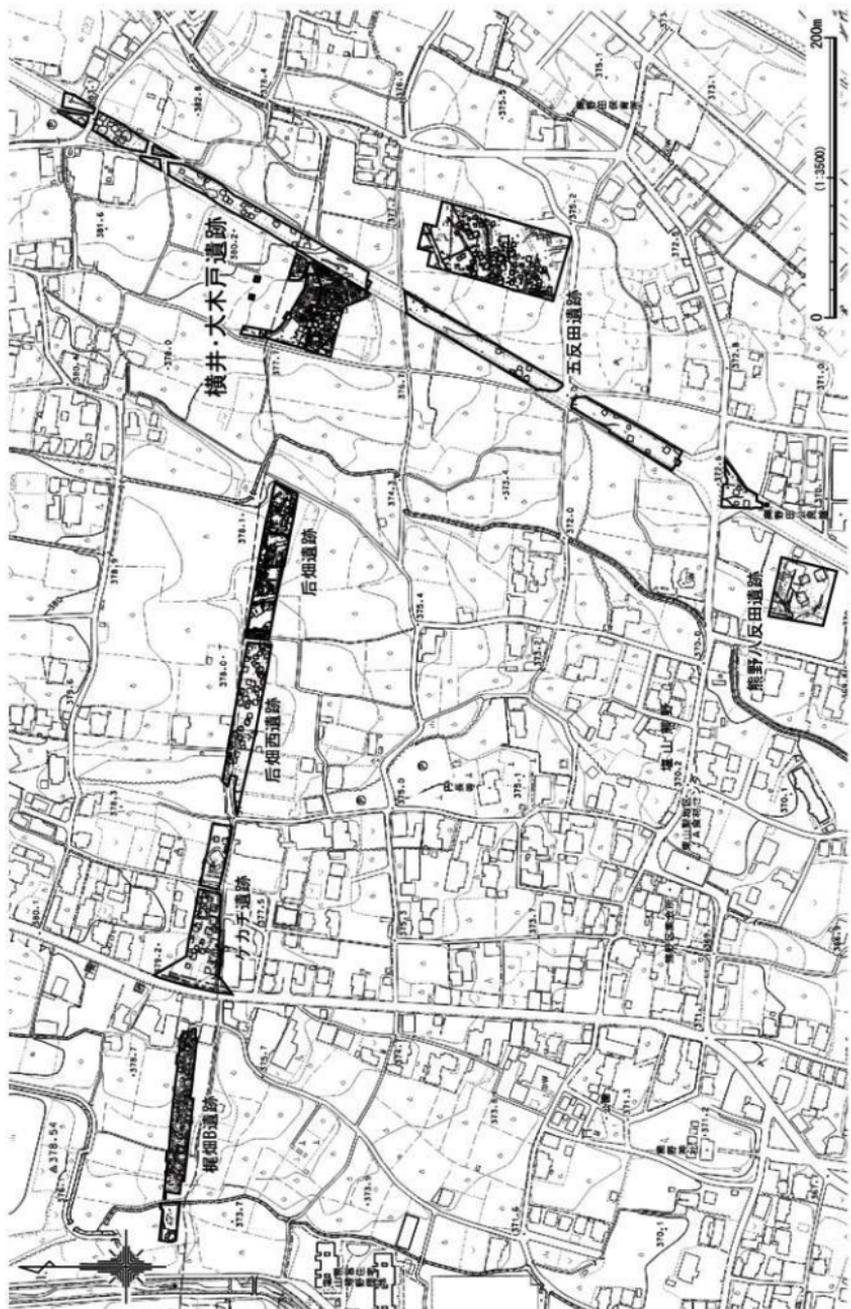
## 第2節 調査経過

- 5月9日 発掘調査開始 機材・調査事務所搬入、1区東側より重機による表土剥ぎ開始
- 5月10日 表土剥ぎ、遺構確認作業、1区東地区にて住居跡らしいプラン確認
- 5月11日 表土剥ぎ、遺構確認作業、遺構調査、SI01～03調査開始
- 5月13日 畑境石垣撤去作業、1区南遺構確認作業
- 5月14日 畑境石垣撤去作業、グリッド杭打設
- 5月16日 1区南遺構確認作業
- 5月17日 1区北西・2・3区表土剥ぎ、遺構調査
- 5月18日 遺構調査、本日にて重機による表土剥ぎ・掘削土整地作業終了
- 5月20日 遺構確認作業、南東より攪乱掘り下げ
- 5月24日 SI01遺物出土状況写真撮影・デジタル写真測量・遺物取り上げ、SI02・03調査・重複を確認
- 5月25日 SI01 カマドセクション写真撮影、図面作成、SI02・03セクション写真撮影
- 5月27日 SI01完掘写真撮影、SI02・03遺物出土状況写真撮影・デジタル写真測量・遺物取り上げ、SK01遺物出土状況写真撮影
- 5月28日 SI02遺物出土状況写真撮影・デジタル写真測量・遺物取り上げ、SK01セクション写真撮影・図面作成・エレベーション図作成・遺物出土状況写真撮影・デジタル写真測量・遺物取り上げ・完掘写真撮影、SK02・SP01セクション写真撮影、SP02・03セクション写真撮影
- 5月30日 SK03セクション写真撮影、SI02カマドセクション写真撮影・図面作成、SK02・SP01完掘写真撮影、SK04～07・SP04～06セクション写真撮影、SI02カマド内遺物出土状況写真撮影・デジタル写真測量、SK08遺物出土状況写真撮影・完掘写真撮影
- 6月1日 SK09・SP07～09セクション写真撮影、

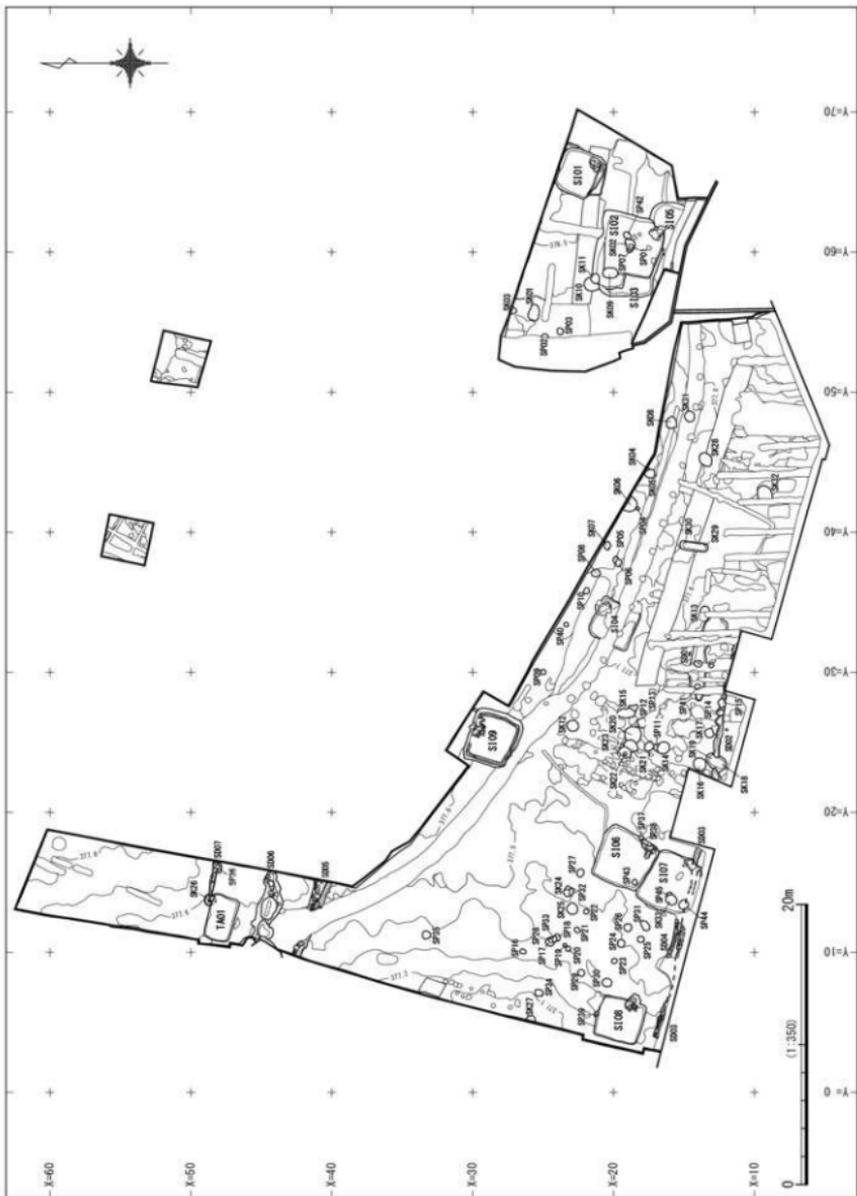


第1図 遺跡位置図

- SK02・SP01・07完掘写真撮影、SI04セクション写真撮影
- 6月3日 SK10・11セクション写真撮影、SI04遺物出土状況写真撮影・デジタル写真測量・遺物取り上げ、SK12・13セクション写真撮影、SK09遺物出土状況写真撮影・デジタル写真測量・遺物取り上げ、SK11遺物出土状況写真撮影・デジタル写真測量・遺物取り上げ、SK08完掘写真撮影
- 6月4日 SI02-03・SK02-09～11・SP01完掘写真撮影・デジタル写真測量、SI04 カマドセクション写真撮影、SI02カマド平面デジタル写真測量、SD01セクション写真撮影、SK14・SP09～11セクション写真撮影
- 6月6日 SI04カマド内遺物出土状況写真撮影・デジタル写真測量・遺物取り上げ、SK12・13・SP09・10完掘写真撮影、SD01遺物出土状況写真撮影・デジタル写真測量・遺物取り上げ、完掘写真撮影、SI04カマド煙道セクション写真撮影、SK15・SP12・13セクション写真撮影
- 6月7日 SI04完掘写真撮影
- 6月8日 1区南西遺構確認作業
- 6月11日 SK14・SP11～13完掘写真撮影、SK16・17セクション写真撮影、SK15完掘写真撮影、SD02・SK18・19・SP14・15セクション写真撮影、SI05～07掘り下げ、SK20～23セクション写真撮影
- 6月13日 SI04 完掘デジタル写真測量、SI05セクション写真撮影
- 6月14日 SP16～21・30セクション写真撮影、SD03セクション写真撮影、SP23～26・31完掘写真撮影、SP30遺物出土状況写真撮影・デジタル写真測量
- 6月17日 SI06-07セクション写真撮影、SP28・29・31～33セクション写真撮影、SP24遺物出土状況写真撮影・デジタル写真測量
- 6月18日 SK24・25・SP16～22・27・28・32・33完掘写真撮影
- 6月21日 SP30・34完掘写真撮影、SD03完掘写真撮影・平面光波測量、SD03（西側）・SD04セクション写真撮影、SI06・07遺物出土状況写真撮影・デジタル写真測量・遺物取り上げ、SI08調査開始・掘り下げ
- 6月22日 SD03セクション写真撮影、SI07遺物出土状況写真撮影、SD03（中央）遺物出土状況写真撮影・デジタル写真測量、SD03（中央）・SD04完掘写真撮影、SD03 完掘写真撮影、SI06カマドセクション写真撮影、SI08掘り下げ
- 6月25日 SI07カマドセクション写真撮影、SI08セクション写真撮影、SI06カマド内遺物出土状況写真撮影・デジタル写真測量、SI09調査開始
- 6月27日 SI08遺物出土状況写真撮影・デジタル写真測量、SI06・07完掘写真撮影、SI09調査区拡張
- 6月28日 SD05セクション写真撮影、SI08カマドセクション写真撮影、SD06・07・SP36・37セクション写真撮影、SP37・38完掘写真撮影
- 7月1日 SI08カマド内遺物出土状況写真撮影・デジタル写真測量・遺物取り上げ・完掘写真撮影、SD07・SP36完掘写真撮影、SK26セクション写真撮影、SD05・SD06遺物出土状況写真撮影
- 7月2日 SP40セクション写真撮影、SI09遺物出土状況写真撮影・デジタル写真測量、TA01セクション写真撮影、SD05・06・SK26完掘写真撮影、SK27セクション写真撮影
- 7月5日 TA01遺物出土状況写真撮影・遺物取り上げ・完掘写真撮影、SK28～31・SP41セクション写真撮影、SI09カマドセクション写真撮影
- 7月6日 SK32セクション写真撮影、SK29・30遺物出土状況写真撮影・完掘写真撮影、SK31完掘写真撮影、SI09カマド内遺物出土状況写真撮影・デジタル写真測量、SK28遺物出土状況写真撮影、SP41 完掘写真撮影、SI09完掘写真撮影、SK32遺物出土状況写真撮影、遺跡見学会
- 7月8日 SK32完掘写真撮影、2・3区完掘写真撮影、SP42セクション写真撮影、SI02掘り方セクション写真撮影
- 7月9日 航空写真測量
- 7月12日 SI09カマド掘り方完掘写真撮影・デジタル写真測量、SI02カマド掘り方完掘写真撮影・デジタル写真測量、SI06カマド掘り方完掘写真撮影・デジタル写真測量、SI04掘り方セクション写真撮影
- 7月13日 掘り方セクション写真撮影、SI04・08掘り方完掘写真撮影・デジタル写真測量、SK27完掘写真撮影
- 7月16日 SP43完掘写真撮影、住居掘り方掘り下げ
- 7月18日 SK34・SP44セクション写真撮影
- 7月19日 SP44遺物出土状況写真撮影・デジタル写真測量、SI01掘り方セクション写真撮影、SI02掘り方完掘写真撮影・デジタル写真測量、SP45セクション写真撮影
- 7月20日 SK33・SP45完掘写真撮影、SI05掘り方セ



第2図 周辺の遺跡遺構配置図



第3図 道路全体図

クション写真撮影、SI01遺物出土状況写真撮影・デジタル写真測量、SI06-07掘り方発掘写真撮影・デジタル写真測量、発掘調査終了

7月22日 機材・調査事務所撤収

### 第3節 調査方法

事業対象地内のうち、建物、掘削を要する地点など地下の遺構に影響がある範囲を発掘調査の対象範囲とした。

調査対象地内には、対象地南側のL字形に広く掘削を伴う地区、対象地北東側の狭小に掘削を伴う2か所の計3か所があり、南側の調査対象地を1区、北東側の狭小な2か所のうち西側を2区、東側を3区と称して発掘調査を実施した。1区の調査面積970㎡、2区9㎡、3区12㎡である。

調査区設定の後、1区東側より重機により表土を除去し、引き続き人力による遺構確認作業を行った。確認された遺構は、構築年代の新しいものから順次調査を行ったが、一部新旧関係が不明な重複した遺構については同時に調査を行い、土層断面観察により新旧関係の判断をした。

出土した遺物は、遺構内のものについては微細なものを除き、遺構外出土のものについてもある程度の大きさをもち、原位置が明らかかなものは光波測量機器を用いて個別に取り上げを行った。また、遺物微細図はデジタルカメラによる測量を実施した。遺構図の作製は、光波測量機による測量とデジタルカメラによる測量(デジタル写真測量)、手作業による実測を併用した。

重機による表土剥ぎ終了後、調査区全体を被うように国土座標にあわせて南北方向をX軸、東西方向をY軸とするメッシュをかけ、南西隅を基点とした世界測地系平面直角座標第Ⅴ系の $X = -33,900,000$ 、 $Y = 20,960,000$ (北緯35度41分39秒、東経138度43分53秒)を基点( $X = 0$ 、 $Y = 0$ )とし、調査区内に10mメッシュの杭打ちを行った。

また、調査では、光波測量機による遺物の取り上げ、

遺構図の図化を行ったため、東西、南北とも1mのグリッドとして両軸とも整数を用いて表現している。

### 第4節 遺跡概要

横井・大木戸遺跡は、笛吹川と重川に挟まれた甲州市塩山下於熊・熊野地区に位置しており、両河川によって形成された南にゆるやかに傾斜する扇状地の微高地上に立地している。遺跡は、東西200m、南北350mの範囲として甲州市教育委員会の遺跡地区に登録されている。

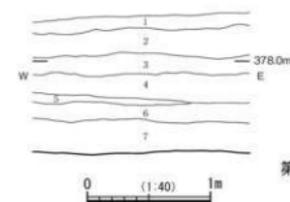
本遺跡は、2度にわたる道路建設に先立って発掘調査が実施されており、古くは縄文時代前期の住居跡や土器をはじめとして、平安時代に至る遺構・遺物が多数発見されている。

本調査区の東側を縦貫する国道411号線(通称塩山東バイパス)建設に先立つ発掘調査では、縄文時代前期の竪穴住居10軒、中期の竪穴住居4軒、古墳時代前期の竪穴住居1軒、平安時代の竪穴住居21軒などを確認している。また、本調査区南を横断する市道下塩後22号線の発掘調査では、平安時代の竪穴建物31軒を検出し、遺構内からは石製鈴帯や墨書土器などが発見されている。

今回の本地点の発掘調査では、平安時代後期の竪穴住居9軒、竪穴状遺構1棟、溝跡7条、土坑33基、ピット45基が発見された。発見された遺構のすべては1区より検出されたもので、2・3区の調査では、耕作に伴う攪乱が顕著で、出土遺物も平安時代の土師器小破片が数点出土したに過ぎず、遺構も検出されなかった。

### 第5節 基本層序

横井・大木戸遺跡は笛吹川と重川によって形成された複合扇頂地上の微高地に古地し、南に向かい緩やかに傾斜しており、遺跡西側は千赤於川によって西側の扇状地とは区切られている。調査地点は、果樹園として利用されており、遺構確認前までの土層堆積はそれほど厚いものではない。



#### 基本層序

- 1層 黒褐色砂質土層(10YR2/3) 表土層
- 2層 暗褐色砂質土層(10YR3/2) 白色粒子、褐色粒子を少量、1~2mm大の花崗岩類風化層を多く含む。
- 3層 暗褐色砂質土層(7.5YR3/2) 白色粒子、褐色粒子を多く、1~5mm大の花崗岩類風化層を少量含む。
- 4層 黒褐色砂質土層(7.5YR3/2) 白色粒子、赤褐色粒子を多く、褐色粒子を少量含む。(遺物包含層)
- 5層 黒褐色砂質土層(10YR2/3) 白色粒子、褐色粒子を多く、褐色砂質土小アゴロクを含む。(遺物包含層)
- 6層 褐色砂質土層(7.5YR4/4) 白色粒子を多量に赤褐色粒子を少量含む、1~5mm大の花崗岩類風化層を多量に混入する。(地山上)
- 7層 褐色砂質土層(7.5YR4/6) 白色粒子を少量、1~3mm大の花崗岩類風化層を多く含む。(地山上)

第4図 基本層序

第4図は、調査区中央付近、X=31、Y=21グリッドの土層堆積図である。第1層は表土層。第2・3層は暗褐色砂質土層で花崗岩類風化礫を多く含んでいる。第4・5層は黒褐色砂質土層で遺物包含層となる。第

6層以下は花崗岩類が砂粒となった褐色砂質土層で、地山土となる。第6層上面が遺構確認面となる。本地点は、畑境の南端にあたり堆積土は厚いが、調査区南側などは表土下50cmほどで遺構確認面となっている。

## 第2章 遺跡の立地と環境

### 第1節 遺跡の地理的位置

本遺跡が所在する山梨県甲州市は、甲府盆地の北東部に位置する。本市は、平成17年11月に旧塩山市、旧東山梨郡勝沼町、旧同郡大和村の3市町村が合併して誕生したものである。東は北都留郡丹波山村・小菅村・大月市、南・西は山梨市、北は埼玉県秩父市と接している。市域の北から北東にかけては山岳地帯となり、南西は平坦な複合扇状地となる。塩山の地名は、塩山地区北西部に位置する塩ノ山にちなんでいる。

本遺跡は、秩父山地に源を発し、山梨市域北部の山間を南流し、甲府盆地に扇状地を形成する笛吹川と大菩薩嶺の東麓に源を発し、市域東部を南流する重川の両河川によって形成された複合扇状地の重川に近い微高地上に立地する。この扇状地は、両河川によって運ばれた花崗岩類の砂粒によって形成されている。

遺跡周辺は、花崗岩類の堆積物により、水はけのよい地質となっており、山梨県内でも有数の果樹地帯として知られ、桃、葡萄を中心に盛んに栽培が行われている。

市域における商業地は、本遺跡西側を縦貫する市道上に於曾81号線（通称塩山バイパス）を中心として急速に発展を遂げてきたが、市内とくにJR塩山駅周辺の渋滞回避のため、平成20年には国道411号線のバイパスである大菩薩ライン（通称塩山東バイパス）が建設されている。塩山バイパス周辺には市立病院をはじめとして、多くの商業施設が相次いで建設されたが、塩山東バイパスとの連絡道路がほとんどなく、その必要性から市道下塩後22号線が建設された。平成29年には塩山東バイパスまで延伸され、この市道の完成によって、交通の利便性が確保されるとともに、本遺跡周辺には商業施設が相次いで建設されることとなった。

### 第2節 遺跡の歴史的環境

甲州市塩山地区は、多くの遺跡の存在が知られているが、西側に隣接する山梨市域も含めた笛吹川と重川によって形成された扇状地上は、とくに濃密な遺跡分布を示す地域として知られている。

縄文時代の遺跡は扇状地上にも分布はみられるもの

の、JR中央線北側の台地上に重要な遺跡が展開している。縄文時代前期の遺跡としては、獅子之前遺跡（第5図1-106）がある。重川右岸段丘上に立地し、平成元年から塩山東バイパス建設に先立ち発掘調査が実施され、前期の諸磯式期の堅穴住居7軒などが検出された。扇状地上の立地とは異なるが、塩山東バイパス建設に伴う本遺跡の発掘調査では、前期の住居跡10軒、中期の住居跡4軒などが発見されている。

縄文時代中期には著名な遺跡が多く知られる。塩山下栗野の安道寺遺跡（同1-119）は灌漑水利事業に伴い発掘調査が実施され、中期の住居跡19軒、土器埋設遺構2基などが検出された。17号住居の住居内土坑からは、曽利1式の深鉢形土器とそれを覆った土器の破片が検出されている。

その他、重部原遺跡、柳田遺跡、殿原遺跡など、中期を主体とする遺跡が台地上に展開している。

塩山バイパス建設に先立ち昭和52年に発掘調査が実施された町田遺跡（同1-16）は扇状地上の塩川右岸に立地し、中期の住居跡8軒などが発見されている。

塩山上塩後の千手院前遺跡（同1-59）は扇状地上に立地し、前期の住居跡2軒、中期の住居跡14軒、後期の住居跡1軒などが検出された。

弥生時代の遺跡は、縄文時代の遺跡に比してその数を減じ、ほとんどが扇状地上に立地するようになるが、調査例がほとんどなく、その実態は不明である。

弥生時代末から古墳時代の遺跡分布をみると、扇状地上に大きな広がりを見せるようになる。本遺跡西に隣接する坂之上・后畑遺跡（同1-29）では弥生時代末の住居2軒が検出されている。塩山バイパスおよび塩山警察署建設などに伴う発掘調査が実施された西田遺跡（同1-6）は、弥生時代後期の住居跡1軒、古墳時代前期の住居跡60軒以上、同時期の方形周溝墓5基などが検出された。塩山東バイパス建設に伴い発掘調査が実施された、五反田遺跡（同1-30）、下西畑遺跡（同1-41）などにおいても、前期の遺構が確認されている。前者では前期の堅穴住居6軒、後者では同じく前期の方形周溝墓4基が検出されている。また、五反田遺跡南に隣接し、学校給食センター建設に伴って発掘調査



第5図 周辺の遺跡

第1表 周辺の遺跡一覧表

甲州市塩山				甲州市勝沼				
No	遺跡名	時代	No	遺跡名	時代	No	遺跡名	時代
1-1	前田遺跡	縄文	1-71	屋敷込A遺跡	縄文(中)・平安	1-221	仏師原原址	
2	牛奥遺跡	縄文	72	武士原前遺跡	縄文・平安	222	網野前五佐衛門屋敷	
3	縄ヶ上遺跡	縄文(前～中)	73	北原遺跡		223	十組屋敷	
4	西福遺跡	平安	74	諏訪神社遺跡		224	武田兵庫助屋敷	
5	住進木平遺跡	縄文(中)	76	屋敷込B遺跡	縄文(前)・奈良・平安	甲州市勝沼		
6	西田遺跡	縄文(中)・古墳・奈良	77	欠通遺跡	縄文・平安	No	遺跡名	時代
7	東田遺跡	縄文(中)	78	天神前遺跡	縄文(前)	2-1	大塚南遺跡	縄文
8	芦原田遺跡	縄文(中)	79	巻巻遺跡	縄文・近世	2	大塚北遺跡	平安
9	下整田遺跡	縄文	80	勝越遺跡		3	松原遺跡	平安
10	村北遺跡	奈良・平安	81	中堀A遺跡		4	若林遺跡	縄文
11	向原遺跡	奈良・平安	82	中堀B遺跡		5	山富士塚	中世・近世
12	扇田A遺跡	縄文(中)	83	宮之下遺跡		6	上野経塚	中世
13	扇田B遺跡	奈良・平安	84	天神遺跡		7	天神遺跡	縄文
14	扇田C遺跡	縄文・奈良・平安	85	中原遺跡	縄文・平安	8	塚穴古墳	古墳
15	十王前遺跡	平安	86	松葉田遺跡	縄文・平安	9	姥屋敷遺跡	縄文
16	町田遺跡	縄文	87	滝之上前遺跡	縄文(中)	10	下立石西遺跡	縄文・弥生
17	栗郷平遺跡		104	梅ノ木遺跡		11	下立石東遺跡	縄文・弥生
18	清水田遺跡	奈良・平安	105	中村遺跡	縄文	12	下立石遺跡	縄文
19	遠形遺跡	弥生(後)～古墳	106	獅子之前遺跡	縄文(前)・弥生・平安	15	上中居遺跡	
20	知久田遺跡		107	小山平南遺跡	縄文(前・中)・平安	17	大門後遺跡	平安
21	上塩後堤遺跡		108	札之辻A遺跡	平安	18	坂上遺跡	平安
22	中道遺跡	平安	109	札之辻東B遺跡	縄文(前)・平安	62	大塚経塚	
23	熊野前田遺跡	平安	110	観音堂東遺跡	縄文・平安	63	塚穴遺跡	
24	熊野八反田遺跡	平安	111	八森田西遺跡	縄文(中)・平安	67	立正寺境内	近世
25	熊野神社遺跡	弥生(後)～古墳	112	青田A遺跡	平安	68	休息経塚	
26	梶山A遺跡	古墳・奈良・平安	113	青田B遺跡	縄文(中)・平安	69	本立寺後	近世
27	梶山B遺跡	古墳・奈良・平安	114	中原遺跡	平安	70	大聖院跡	近世
28	ヶヶ子遺跡	古墳・平安	115	身洗田遺跡	平安	山梨市		
29	坂之上・后畑遺跡	平安	116	御旗前田遺跡	縄文(中)	No	遺跡名	時代
30	五反田遺跡	古墳・平安	117	洗在家遺跡	縄文(前・中)・平安	3-37	堂屋敷遺跡	縄文・平安
31	石骨A遺跡	縄文・平安	118	宮之前遺跡	平安・中世	38	添田遺跡	縄文
32	石骨B遺跡		119	安守寺遺跡	縄文(前・中)・平安	39	久保田遺跡	縄文
33	横井・大木戸遺跡	平安	122	牛久保遺跡		76	西久保遺跡	縄文・平安
34	池田遺跡	中世	123	中湧遺跡	縄文	77	下ノ原遺跡	縄文
35	下於曾八反田遺跡	平安	179	三山塚		80	西ノ窪遺跡	縄文・平安
36	正泉A遺跡	古墳・平安	180	切付平遺跡		81	天神原南遺跡	縄文・平安
37	正泉B遺跡		181	嬰切塚	中世・近世	83	十王堂遺跡	奈良・平安
38	榎遺跡	縄文	182	おせん稲荷塚		84	中沢遺跡	平安
39	影井遺跡	縄文(中)・平安	183	おまん稲荷塚		85	神明遺跡	奈良・平安
40	久保田遺跡	平安	184	下萩原茂明塚	平安	86	下弥助遺跡	縄文・平安
41	下西畑遺跡	縄文・弥生(後)～古墳	185	鈴の宮塚		87	天神原北遺跡	縄文・平安
42	横塚遺跡	中世	189	お文珠稲荷塚		88	相畑南遺跡	古墳
43	受地遺跡	平安	190	梅ノ木塚		89	相畑南遺跡	中世
44	林原遺跡	縄文・平安・中世	191	栗塚稲荷塚		90	唐土遺跡	古墳・中世
45	天神原遺跡	縄文(中)・平安	192	塚塚		91	飛沢遺跡	中世・近世
46	宮沢遺跡	縄文(中)・古墳・平安	197	西野原煉瓦工場跡	近代	92	狐塚遺跡	平安
47	宇賀屋敷遺跡	奈良・平安・中世	199	田草川氏屋敷		93	御屋敷南遺跡	縄文・平安
49	西畑A遺跡	平安・中世	201	西の原の堡	中世	94	御屋敷北遺跡	平安
50	於曾屋敷遺跡	平安・中世	202	深沢氏屋敷		95	阿弥陀堂遺跡	縄文・古墳・奈良・平安
51	神之木遺跡	縄文(中)・古墳・平安	204	中村氏遺跡		96	天神原遺跡	平安
52	西畑B遺跡	縄文(中)・中世	205	風間氏屋敷		97	宮ノ西遺跡	古墳・中世
53	相ノ川遺跡	縄文・古墳・平安	206	依田宮内依衛門屋敷		103	大橋遺跡	平安・中世
54	南畑遺跡	弥生	207	田辺氏屋敷	中世	104	樋口遺跡	古墳・平安・中世
56	福荷林遺跡		208	池田氏屋敷	中世	105	河野氏屋敷	中世・近世
57	宮之前遺跡		209	宇賀屋敷		106	新町東遺跡	縄文
58	清水尻遺跡	縄文・古墳・平安	210	於曾屋敷		107	三ヶ所遺跡	平安・中世
59	千手院前遺跡	縄文	211	八代氏屋敷		108	鍛冶屋久弥遺跡	古墳
61	高林遺跡		212	保坂氏屋敷		109	東後原遺跡	縄文・奈良・平安
62	塚山前遺跡	縄文(中)	213	於曾三郎屋敷		127	原遺跡	古墳
63	金山遺跡	平安・中～近世	214	橋爪氏屋敷		128	榎木遺跡	古墳
64	青木水遺跡		215	吉原清佐衛門屋敷		129	上之別八王子遺跡	平安
65	番匠屋敷		216	平塚		130	三ヶ所梨木遺跡	平安
66	上三狐神遺跡		217	武田信春船跡	中世	131	榎木遺跡	平安
68	向獄寺庭園	近世	218	村田氏屋敷	中世	132	ふじ塚古墳	古墳
69	向獄寺大方土跡	近世	219	古原氏屋敷		151	ふじ金吾屋敷跡	中世
70	乙川戸前遺跡	縄文・平安	220	網野氏屋敷		175	達方屋敷	中世

が実施された熊野八反田遺跡(同1-24)からは、前期の竪穴住居5軒、自然流路を利用した祭祀の痕跡などが確認されている。本市域においては、古墳はわずかに知られるのみである。かつて塩山地区には古墳が存在したとされることもあったが、明確な事例は確認されていない。勝沼地区の鬮掛川右岸の台地上には塚穴古墳(同2-8)が現存する。古墳の内容は不明であるが、後期古墳であると思われる。周辺にも数基ではあるが古墳が存在する。

奈良時代に属する遺跡は、扇状地上に限られ、塩山西広門田地区、山梨市下井尻地区に分布の中心がみられる。

平安時代になると遺跡分布は扇状地全体に広がりを見せる。また、台地上にも分布域は及ぶが、その多くは縄文時代の遺跡との複合遺跡である。

本遺跡周辺は、道路および商業施設建設に伴って多くの発掘調査が実施され、大きな成果を上げている。先にも触れたとおり、塩山東バイパス建設に先立つ本遺跡の発掘調査では、平安時代の住居跡21軒、市道下塩後22号線建設に伴う調査では31軒の住居跡が発見されている。本遺跡南東に隣接する五反田遺跡では、塩山東バイパスの建設に伴う発掘調査で11軒、商業施設建設に先立つ調査では73軒にもおよび住居跡、掘立柱建物などが検出されている。

本遺跡の西側に隣接する后畑遺跡の調査では、当該

期の竪穴住居58軒などが調査され、さらに西側に位置するケチ遺跡(同1-28)では、竪穴住居49軒が検出され、調査区の中央部に位置する住居からは、焼成前に仮名で和歌が刻まれた「和歌刺書土器」が出土した。

このように、本遺跡周辺には平安時代後期の集落が広範囲かつ濃密に展開していたことが明らかであり、「和名類聚抄」記載される「於曾郷」の一角をなしていた可能性が高い。

中世の遺跡は、山梨県内の様相と比しても極めて多く、恵林寺をはじめ、向嶽寺、放光寺などの有力な中世寺院も数多く建立されており、当該地域が政治・経済の中心域であったことを裏付けている。扇状地上には守護館や在地豪層の屋敷が分布し、山岳地域には鉾山遺跡が分布する。

JR塩山駅の南に位置する於曾屋敷(同1-210)は、二重土塁をもつ方形の屋敷で、東西115m、南北153mほどの規模をもつ。通称西街道の脇にあり、この街道沿いには風間氏屋敷(同1-205)、依田宮内左衛門屋敷(同1-206)、田辺氏屋敷(同1-207)など、金山関係者の屋敷群が多く設けられている。千野地区に所在する武田信春館跡(同1-217)は、甲斐守護館と目されており、東西約100m、南北約147mの方形を呈し、周囲には水路が巡る。その他、中村氏屋敷(同1-204)、八代氏屋敷(同1-211)、保坂氏屋敷(同1-212)などの館跡も知られている。

## 第3章 遺構と遺物

### 第1節 竪穴住居跡(SI)

SI01(第6・7図)

位置 X=22、Y=65グリッド

主軸 N-67°-W

**遺構概要** 本調査区の東端に位置し、南西にSI02・03・05が隣接する。遺構北西隅は調査区外へ延びる。規模は東西3.2m、南北3.3m、深さ東側24cm、西側24cm、南側20cm、北側22cmを測る方形を呈する小規模な竪穴住居跡である。南側壁のプランがやや不整形となる。カマドは、南東コーナーに設置されており、構築材である石材は残存していなかった。長軸0.74m、幅1.2mの規模で、深さは床面から11cmほどの掘り込みをもつ。その他、柱穴、周溝等の付属施設は確認されていない。

**遺物出土状況**(第7図)

出土遺物はわずかであり、土師器は少なく、縄文土器も混入している。西壁際から基部先端を欠損した刀

子出土した。カマド内には土師器甕の破片が散乱していた。

**出土遺物**(第34図)

第34図1は土師器甕で、口縁部は急激に外反するが、肥厚したものではない。同2は基部先端を欠損した刀子で、基部には木柄の痕跡が残存する。

**時期** 10世紀後半代か

SI02(第8～11図)

位置 X=19、Y=60グリッド

主軸 N-84°-W

**遺構概要** 調査区の東側、中央付近に位置し、西側にSI03と南東側にSI05と重複し、いずれをも切っている。また、SK02、SP01・07・42とも重複し切っている。SK09は本遺構の北西隅で重複するが、新旧関係は不明である。北東にSI01が隣接する。規模は、東西4.2m、南北4.5mを測り、深さ東側42cm、西側35cm、南側

42cm、北側44cmを測る方形プランを呈する。カマドは、石組みで南東壁の隅に構築されており、両袖とも2石ずつ残存していた。規模は、長さ1.16m、幅1.2m、床面からの深さは6cmほどである。その他、柱穴、周溝等の付属施設は確認されていない。

#### 遺物出土状況(第9・10図)

出土遺物は土師器環を中心として、多量に出土している。環類は遺構内全体に分布しているが、東壁寄りによく分布している。環類に比べ甕の出土は少ないが、カマド付近を中心に出土している。輪の羽口先端の破片が北西隅付近より、牽引金の破片が出土している。

#### 出土遺物(第34・35図)

第34図3～21、第35図1～4は土師器環である。外面下半部をヘラ削りするものがわずかにみられるが(第34図3～5)、多くは回転ナデのみで調整されている。同14～20は底部が高台状にやや突出する。第35図2・3は脚高台の肩部を欠損する脚部である。同4はやや大形の土師器壺、同5は土師器皿、6・7は土師器耳皿である。同8・9は土師器甕で、8の口縁部は緩やかに外反する。同10は羽釜。同11～13は灰軸陶器で、壺(同11)、段皿(同12・13)がみられる。段皿のうち前者は小形で段が不明瞭であり、後者は大形で段が明瞭なものである。同14は輪羽口の先端の破片で、被熱発泡している。同15は牽引金で、茎部および半分ほどを欠損する。

時期 10世紀後半代

#### SI03(第8～11図)

位置 X=19、Y=58グリッド

主軸 N-84°-W

**遺構概要** 調査区の東側、中央付近に位置し、遺構は東側で重複するSI02に削平されている。南東にSI05、北東にSI01が隣接。SK09とは北西側で、SK10・11と住居北西隅で重複。本遺構がSK09を切り、構築されていることは断面観察によって明らかであり、SK11より出土した灰軸陶器が本遺構から出土していることから、SK11を切っているものと思われる。遺構の中央から南東にかけてはSI02に削平を受けており、現存する規模は、東西推定4.0m、南北4.3mを測り、深さ東側26cm、西側26cm、南側29cm、北側31cmを測り方形を呈するものと思われる。遺構南側床面は、7cmほど高くなっている。カマドは遺構東側に設けられていたものと思われ、残存していない。その他、柱穴、周溝等の付属施設は確認されていない。

#### 遺物出土状況(第9・10図)

遺構のほとんどもをSI02に削平されているため、出土遺物もわずかである。西壁付近を中心に土師器環が出土している。北西隅付近からは金属製品が出土しており、鑊子と思われる製品が2点出土している。

#### 出土遺物(第35・36図)

第35図16～19は土師器環で、同16は口唇部に煤痕がみられる。第36図1・2は鉄製品で、鑊子と思われる。同1は直接接合関係にないが、隣接して出土しており、同様な先端形態をとることから同一個体であると判断した。同2も断面が弧状となり、同1と同様な形態となることから、鑊子として報告する。

時期 10世紀後半代

#### SI04(第11・12図)

位置 X=19、Y=33グリッド

主軸 N-27°-E

**遺構概要** 調査区の北側、中央付近に位置し、北にSP40、北東にSP08・10、東にSP05・06が隣接する。住居中央を東西方向に畑地の溝に、南東隅およびカマド北側も攪乱を受けている。規模は、東西2.9m、南北3.0mを測り、深さ東側10cm、西側6cm、南側10cm、北側11cmを測り、方形プランを呈する。カマドは、北壁の中央よりやや東側に位置する。石組みのカマドであったと思われるが、用材は残存していなかった。規模は、長さ0.92m、幅0.8m前後、床面からの深さは8cmを測る。その他、柱穴、周溝等の付属施設は確認されていない。

#### 遺物出土状況(第12図)

遺構中央を大きく攪乱されていることもあり、出土遺物はそれほど多くはない。北西側で用途不明な鉄製品が、カマド西側からは砥石が出土。カマド内からは土師器甕が2個の小破片となって出土している。

#### 出土遺物(第36図)

第36図3～7は土師器環で、口縁部は玉縁状となり、外面下半にヘラ削りを施す。同8・9は土師器甕で、口縁部の断面は規矩形を呈する。整形はいずれも内外面ともにハケ調整している。同10は用途不明の鉄製品で、一辺のみ端部が残存し、断面端部がやや湾曲する。同11は砂岩製の砥石であり、残存する4面すべてに使用痕跡がみられる。

時期 10世紀前半代

#### SI05(第8～11図)

位置 X=16、Y=62グリッド

主軸 不明

**遺構概要** 調査区の東端に位置する。北西でSI02と重複し、切られる。南側は道路用地の擁壁によって削平されており、確認された遺構は北東隅付近の一部に過ぎない。現存する規模は、東西3.8m、南北2.2m、深さ東側31cm、西側36cm、南側32cm、北側35cmである。遺構の一部が確認されたのみでプランも明確ではない。カマドは確認されておらず、調査区外にあるものと思われる。その他、柱穴、周溝等の付属施設も確認されていない。

#### 遺物出土状況 (第9・10図)

遺構の確認範囲が狭小であったために、出土遺物もわずかである。出土遺物には土師器環・皿・甕がある。

#### 出土遺物 (第36図)

第36図12は土師器皿で底部を欠損する。同13は脚高高台の破片資料で、坏であると思われる。同14は土師器甕で、口縁部は緩やかに外反する形態をとる。外面は縦方向のハケ、内面はナデおよび指頭痕がみられる。

時期 10世紀前半代

#### SI06 (第13~15図)

位置 X=19、Y=16グリッド

主軸 N-65°-W

**遺構概要** 調査区の南西の南側に位置する。南側でSI07とわずかに重複し、切られている。東側でSP37・38を切り、SP43と重複、南にSD03・04、北西にSK24・25、SP22・27・32、南西にSP26・31が隣接する。規模は、東西3.9m、南北3.9m、深さ東側25cm、西側15cm、南側23cm、北側24cmを測る方形を呈する。カマドは、東壁南東隅に設置されている。石組カマドで、南側袖に3石残存していたが、北側袖の用材はすべて取り払われていた。規模は、長さ1.0m、幅は1.1m、深さは8cmである。その他、柱穴、周溝等の付属施設は確認されていない。

#### 遺物出土状況 (第14・15図)

出土遺物は豊富であったが、小破片となったものがほとんどであり、実測可能な資料は南東隅に構築されたカマド付近を中心としている。カマド内からは土師器環・甕のほか、鉄滓が出土している。

#### 出土遺物 (第36・37図)

第36図15は須恵器甕胴下半部の破片で、外面は並行タタキ、内面は横ハケ調整の痕跡を残す。同16~18は土師器環で前二者は外面下半に手持ちヘラ削りを施す。いずれも口縁部は玉縁状となる。同19は土師器甕で、明瞭に屈曲する断面矩形の口縁部をもつ。第37図1は緑陶器碗の上半部小破片資料。同2は鉄滓で

ある。

時期 10世紀前半代

#### SI07 (第13~15図)

位置 X=16、Y=14グリッド

主軸 N-67°-W

**遺構概要** 調査区南西の南側に位置する。北側でわずかに接するSI06を切り、SK33、SP44・45と重複、南側で覆土の一部をSD03に切られている。西にSP25・26・31と重複、南側は調査区外に延び、道路擁壁によって削平されている。規模は、東西4.2m、南北現存長3.8m、深さ東側22cm、西側17cm、南側22cm、北側23cmを測り、方形プランを呈するものと思われる。カマドは、東壁の中央よりやや南東寄りに設けられており、袖石等は残存していなかった。長さ0.74m、幅0.92m、床面からの掘り込みは、わずかにくぼむ程度である。その他、柱穴、周溝等の付属施設は確認されていない。

#### 遺物出土状況 (第14・15図)

出土遺物は豊富で、遺構内全体より出土しているが、図示可能な資料はカマドの敷設された東側と、西側に分かれる。カマド内からの出土遺物はわずかであるが、南東隅付近からは土師器甕が出土している。住居中央よりやや北西において、刀子の完形品が出土した。

#### 出土遺物 (第37図)

第37図3~11は土師器環である。同8・10・11のみ外面下半に手持ちヘラ削りを施す。後二者はやや他に比して古式であり、混入品かもしれない。いずれも墨書土器であるが判読不明。同12~15は土師器皿で、同15は脚高高台が付く。同16~20は土師器甕で、口縁部付近で外反するもの(同16~18)、口縁部先端付近のみわずかに外反するもの(同19)、胴上半より逆八字状に外反するもの(同20)がある。同21・22は灰黒陶器碗と皿である。同23は刀子の完形品で、使用のためであろうか刃部は研ぎ減りしている。

時期 10世紀後半代

#### SI08 (第16・17図)

位置 X=19、Y=5グリッド

主軸 N-75°-W

**遺構概要** 調査区の南西隅に位置し、北壁で重複するSP39を切る。南にSD03、東にSP30が隣接する。規模は、東西3.1m、南北3.3m、深さ東側25cm、西側8cm、南側15cm、北側18cmを測る方形プランを呈する。カマドは、東壁の中央よりやや南東に設けられていた。煙道部がやや突出する形態を呈する。長さ1.32

m、幅0.96m、深さは4cmの規模である。他の遺構同様、石組みカマドであると思われるが、袖石は1石も残存していなかった。

#### 遺物出土状況(第17図)

小規模な遺構ではあるが、カマド脇となる南壁、南東隅付近に完形の土師器環が並べ置いたように出土している。また、北西隅付近からも土師器環が1点ではあるが、完形品が出土している。カマド内からは土師器甕のほか、土師器環片が数点出土している。その他、破片資料はカマド前面および南西隅付近に集中している。

#### 出土遺物(第38図)

第38図1～8は土師器環で、すべて外面下半を手持ちヘラ削り整形、底部は回転糸切後に外周部のみヘラ削りするもの(同1・3・5)と全面をヘラ削りするもの(同4・6～8)がある。同4は体部外面に墨書をもつが判読不明。同5も墨書土器で、体部外面上半に「奉」、底部に「大川」と書かれている。同9・10は土師器皿で、口縁部は肥厚する。同11は口縁部が肥厚する土師器甕で、内外面ともハケメ調整されている。

時期 10世紀前半代

#### SI09(第18～20図)

位置 X=28、Y=25グリッド

主軸 N-19°-E

**遺構概要** 調査区の中央北側に位置し、南東にSP09、南にSK12が隣接する。南西隅付近の上半部を畑地の溝によって削平されている。規模は、東西3.9m、南北3.5m、深さ東側40cm、西側31cm、南側36cm、北側43cmを測り、方形プランを呈する。他のSIに比べ、遺構の残存状況は良好であった。北側壁のカマド付近を除き、周溝が巡る。周溝は東側幅22cm、深さ13cm、南側幅23cm、深さ14cm、西側幅24cm深さ13cmである。カマドは北壁の中央よりやや東に設けられていた。石組みカマドであるが、用材は西側袖に1石のみ残存し、他は取り払われていた。掘り込みの規模は、長さ1.03m、幅1.35m、深さは床面より5cmほどである。

#### 遺物出土状況(第19図)

遺構の残存状況に比して、出土遺物の点数は多いものの、小破片となったものがほとんどである。遺構の南東隅付近に集中する傾向がみられる。西壁側南寄りにて墨書土器の破片が3点、南側では鉄滓が2点、住居南東側において、置きカマドが出土している。カマド内からは土師器甕および環の小破片が数点出土したに過ぎない。

#### 出土遺物(第38・39図)

第38図12～17は土師器環で、多くは体部下半に手持ちヘラ削りを施す。同13は内面に暗文を施す。同16～18は墨書土器で、同16は体部外面、同17・18は底部に墨書されるが、いずれも判読不明。同21～23は土師器甕で、大形のもの(同21・22)と小形のもの(同23)がある。第39図1は置きカマドの破片資料で、内外面ともハケメ調整されている。同2・3は鉄滓。

時期 10世紀前半代

## 第2節 竪穴状遺構(TA)

#### TA01(第20図)

位置 X=47、Y=12グリッド

主軸 N-76°-W

**遺構概要** 調査区の北西に位置し、SK26と重複。東にSD07、SP36、南にSD06が隣接する。規模は、東西3.2m、南北1.9m、深さ東側13cm、西側9cm、南側11cm、北側12cmを測り、長方形プランを呈する。カマドや柱穴などの付属施設は確認されておらず、性格不明なため、竪穴状遺構として調査し、ここに報告する。

#### 遺物出土状況(第20図)

出土遺物はわずかで、土師器、陶器など合わせても十数点が出土したにすぎない。

#### 出土遺物(第39図)

第39図4は須恵器環、同5は土師器環で、いずれも下半部を欠損する。土師器環の口縁部はやや玉縁状となっている。

時期 10世紀後半代

## 第3節 溝跡(SD)

#### SD01(第21図)

位置 X=13、Y=28-X=12、Y=33グリッド

主軸 N-76°-W

**遺構概要** 調査区の中央南側に位置する。SP41と重複。北東にSK13、南西にSD02、SK17、SP14・15が隣接する。遺構は、東西に等間隔で掘られた後世の攪乱により大きく破壊されていた。全長6.3m、幅1.0～1.5m、深さ18～22cm。溝断面は、船底形を呈する。

#### 遺物出土状況(第21図)

遺構の残存状況が悪く、出土遺物は少ないが、遺構の東端と中央付近に分布の塊りがみられる。東端からは土師器環・甕・羽釜が、中央付近では土師器甕の出土が認められた。

#### 出土遺物(第39図)

第39図6は土師器環で、焼歪みが認められる。同7

～9は土師器甕で口縁部が急激に外反するもの(同7)と、緩やかに外反するもの(同8)がみられる。同9の底部には木葉痕を明瞭に残す。同10・11は羽釜で、いずれも下半部を欠損する。同12は灰軸陶器甕の破片資料で、下半を欠損する。

時期 11世紀前半代

#### SD02 (第22図)

位置 X=12、Y=22～X=11、Y=32グリッド

主軸 N-84°-W

遺構概要 調査区の中央南側に位置する。西側は調査区外へ延び、東側南半は道路擁壁によって削平され、東側は攪乱によって切られている。SK18・19、SP14・15と重複し、北側にSK16・17、SP41、SD01が隣接する。現存長9.6m、幅0.4m、深さ20cmほどを測る。溝断面は、U字状を呈する。

遺物出土状況 (第22図)

覆土内から出土した遺物は少なく、いずれも小破片である。

出土遺物 (第39図)

第39図13・14は土師器杯で、いずれも下半を欠く小破片である。同15は小形甕の口縁部資料。同16は灰軸陶器甕の上半部資料である。

時期 10世紀後半代

#### SD03 (第23図)

位置 X=17、Y=4～X=13、Y17=グリッド

主軸 N-77°-W

遺構概要 調査区の南西端に位置する。東端および遺構の南側の多くは道路擁壁によって削平され、現存しない。東側にSI07を切るが、SI07の掘り下げ時は本遺構の存在に気付かず、SI07の土層断面観察によって遺構の切り合いが明らかとなった。北側にSI08、SP25・31、SD04が隣接する。現存長13.9m、幅0.4m前後、深さ11～19cm。溝断面は、U字状を呈する。

遺物出土状況 (第23図)

覆土内からは多くの土器が出土しているが、いずれも小破片である。溝底部には砂礫とともに微細となった土師器が堆積していたことから、本遺構を水が流れたことは明らかである。遺構中央付近と東端において鉄釘および棒状鉄製品が出土している。土師器は小破片のため図示できるものはほとんどなく、東端において土師器杯下半部が出土している。

出土遺物 (第40図)

第40図1は土師器杯の破片資料で、体部外面に墨書

されるが、判読不明。同2・3は和釘で、同2は管折釘、同3は錆に覆われ頭部形状不明。同4は鉄鐵の身部か。同5は細い棒状を呈するが、横断面形状は弧状となり、用途不明。同6は透明黒曜石製の無茎凹基鐵である。両面全面が加工され、素材面や自然面は残っていない。先端部と基部両端を欠損する。先端部正面に、衝撃剥離である縦溝状剥離がみられる。しかし、残存部分の形態から、両縁が内湾して基部端が外側に外反する形態であることが推定される。こうした形態は、経験的にはあるが、山梨県内の縄文時代前期後半から中期、さらには後期にかけての石鐵には見かけない。早期か晩期の可能性を推定したい。

時期 平安時代か

#### SD04 (第23図)

位置 X=16、Y=9～X=15、Y=12グリッド

主軸 N-76°-W

遺構概要 調査区の南西に位置する。東西とも攪乱に切られる。南にSD03が並行し、東にSI07、北にSP25・31、北西にSI08が隣接する。現存長2.7m、幅0.23m、深さ14cm。溝断面は、U字状を呈する。

遺物出土状況 (第23図)

出土遺物はわずかで、土師器の小破片が数点出土したに過ぎない。いずれも小破片のため図示できるものはない。

時期 平安時代か

#### SD05 (第22図)

位置 X=42、Y=9～X=40、Y=15グリッド

主軸 N-68°-W

遺構概要 調査区の北西端に位置する。遺構中央を畑地の攪乱溝によって寸断され、東西両端は調査区外に延びている。北にSD06が隣接する。現存長5.6m、幅0.57～1.0m、深さ17～23cmを測り、西側が溝幅を減じている。溝断面は、北側は平坦であるが、南側は船底形を呈する。

遺物出土状況 (第22図)

平安時代の土師器を中心に遺構内全体から出土しているが、いずれも小破片であり、図示できない。遺構東側から打製石斧1点が出土している。

出土遺物 (第40図)

第40図7は灰色粘板岩ホルンフェルス製の、分銅形打製石斧である。両面とも周辺加工で、中央部を大きく抉る加工が施されている。刃部は、斜刃の両刃である。斜刃の一端で突出側の刃部に、両面に摩耗が見ら

れる。特に図裏面側の摩擦が激しく、こちら側を外に向けて、横斧状に着柄されていたと考えられる。基部側は折れ面であるが、打製石斧の基部端はしばしば折り取り加工がなされているため、本例も使用による折れや欠損ではなく、意図的な折り取りと見たい。分銅形打製石斧は、山梨県内では縄文時代晩期にしか確認されておらず、晩期のものと推定したい。

時期 平安時代か

#### SD06 (第24図)

位置 X=45, Y=10~X=44, Y=15グリッド

主軸 N-80°-W

遺構概要 調査区の北西端に位置する。東西端とも調査区外へと延びている。北にTA01、SK26、SP36、SD07が隣接し、南にSD05が並走している。現存長5.0m、幅0.8~1.6m、深さ36cmを測る。溝断面はU字状を呈するが、溝底部に水流によって土坑状の窪みが3か所確認され、窪み内には砂礫が層状をなして堆積していた。

#### 遺物出土状況 (第24図)

出土遺物はわずかで、微細なため図示できるようなものはない。

時期 不明

#### SD07 (第24図)

位置 X=48, Y=13~X=48, Y=16グリッド

主軸 N-80°-W

遺構概要 調査区の北西端に位置する。東側は調査区外に延びる。西端でSK26、東端でSP36と重複し、いずれをも切っている。南西にTA01が隣接する。現存長3.0m、幅0.15~0.24m、深さ8cm。溝断面は、U字状を呈する。出土遺物はない。

時期 不明

### 第4節 土坑・ピット (SK・SP)

本調査によって、33基の土坑 (SK) と45基のピット (SP) が発見された。土坑とピットの区分は、プラン確認の段階で径50cmほどを境界として大きいものを土坑、小さいものをピットとした。ただし、プラン確認の段階で遺構名称を付したため、調査の進捗によって当初予想したプランと異なる遺構もあった。よって、調査結果をもって両者を区分したのではないため、名称と区分基準に齟齬が生じている場合がある。個々の遺構データについては、第2・3表にまとめた。

ここでは、いくつかの特徴的な遺構について概観する。

#### 土坑 (第25~30図)

土坑は、調査区全体に広く分布しているが、調査区東側に分布が集中する傾向がみられる。

SK01は調査区の北東端SI02・03の北側、X=25、Y=55グリッドに位置する。長径1.14m、短径0.73mの不正楕円形を呈する。深さは0.07mと非常に浅い。遺構確認段階において土器が確認されたため、遺構のプラン確認を実施したがプラン確認が困難であったため、浅い遺構となった。土坑内の底面より0.1mほど浮いた状態で形状を保った土師器環が6点ほど出土した。環は西側の4点が伏せられた状態、東側の2点は正位で確認された。その他、破片資料となった土師器環も多く出土している。第40図8~14は土師器環で、同10は口縁部にタール痕が付着しており、灯明皿として使用されたものであろう。同15は脚高台皿で、脚部を欠損する。いずれも10世紀末から11世紀前半代の所産である。

SK09は調査区の北東端、X=20、Y=58グリッドに位置し、SI02・03の発掘の際に確認されたものであるが、新旧の関係は不明である。覆土中からは土師器環の破片が出土している。第40図18~21は土師器環で、同19は口縁部が内彎し、他の形態とは異なる。時期は10世紀後半代。

SK11は調査区の北東端、X=21、Y=58グリッドに位置する。覆土内からは灰軸陶器の破片が出土し、接合関係にある同一個体の破片資料がSI02・03より出土しており、両遺構によって切られていることが判明した。第40図22は口縁部が玉縁状となる土師器環、同23は土師器皿で、内面口縁部直下に稜を有する。同24は灰軸陶器碗で、東山72号窯式期のものである。10世紀後半代の所産である。

SK14は調査区のほぼ中央よりやや南寄りのX=16、Y=24グリッドに位置する。北側で重複するSP11を切っている。覆土中からは土師器環が数点出土している。第40図25~27は土師器環で、前二者は口縁部が玉縁状となる。同28は小形の鉢である。10世紀後半代の所産。

SK32は調査区の南東、X=9、Y=42グリッドに位置する。西半を掘乱しによって削平されている。南北0.97m、東西現存長0.96m、深さ0.39mを測る。西半を削平されているため明確ではないが、楕円形のプランを呈するものと思われる。土坑底部には花崗岩類

の砂粒が堆積しており、水害等によって埋没したものだと思われる。土坑底部からは土師器の小破片とともに須恵質の土錘が出土している。第41図6は口縁部が玉縁状となる土師器坏の上半部資料。同7は片方の端部を欠損する須恵質の土錘である。外面は灰褐色、断面はセピア色を呈する。外面はナデ整形されている。同6の土師器坏は、10世紀後半代のものである。

#### ピット (第25～33図)

ピットも調査区全体に散在的に分布するが、調査区南西隅付近に集中する状況がみられる。調査区南西隅から検出されたSP39・30・23・24・26などは、列状を成すものの、建物跡の柱穴配置となるようなあり方を示す例は確認できなかった。

SP24は調査区の南西隅付近、X=19、Y=10グリッドに位置する。西側にはSI08、東側にはSI06があり、SP23・25・26が隣接する。長径0.47 m、短径0.42 m、深さ0.19 mを測る、楕円形プランを呈する。覆土中に置きカマドの小破片となって多数出土した。第41図19は置きカマドの胴部破片資料である。同上部に楕円形の孔を穿っている。

SP30は調査区の南西隅、X=20、Y=7グリッドに位置する。長径0.68 m、短径0.6 m、深さ0.46 mの円形プランを呈する。ピット内からは土師器坏・甕、須恵器甕の小破片とともに、灰軸陶器長頸瓶が破片となって出土した。第41図21は灰軸陶器長頸瓶の資料であり、頸部を欠くものの胴部はほぼ復元可能であった。

SP44は、調査区南西寄りの南端、X=15、Y=13グリッドに位置する。長径0.67 m、短径0.65 m、深さ0.36 mの円形プランを呈する。SI07の掘り方調査

時に確認されたもので、SI07に遺構上部を削平されている。ピット内からは、土師器坏破片を中心に58点、灰軸陶器1点が出土した。第42図1～6は土師器坏で、器壁の厚いもの(同1～3)と、薄いもの(同6)がみられる。同7は灰軸陶器碗底部破片資料である。土師器坏は10世紀末から11世紀前半代のものである。

#### 第5節 遺構外出土遺物

第42図8～10は縄文土器深鉢破片資料で、縄文時代前期諸磯式に属する。同11は須恵器甕の破片資料で、内面の中央付近を中心に摩耗の痕跡が認められる。墨痕などはみられず、破片周辺も整形したような痕跡は認められない。同12・13は土師器坏の口縁部資料で、両者とも口縁部は玉縁状となる。同14・15は灰軸陶器の碗・皿である。同16は緑軸陶器小型碗である。同17は円盤状土製品で、碁石か。同18は土鈴の上半資料で、近世のものかと思われる。同19は黒灰色粘板岩ホルンフェルス製の横刃形石器である。素材は、背面に広く円礫面を残す大型横長剥片である。円弧状の背部には、上端部分に両面加工が施されている。縄文時代前期前半の珪質頁岩製などの削器には、背部に同様な加工が広範囲に施されるものがある。石材は違うものの、横刃形石器がその系譜にあることを推定させる。正面左側の2枚の剥離は背部加工の剥離面を切っており、ステップ状剥離で器体端部を整形したものと推定させる。刃部は直刃で、剥片刃縁部をあてている。非加工であるが、部分的に使用による刃こぼれと思われる小剥離が両面に不規則に見られる。前期後半から中期にかけてのものと考えられる。

第2表 土坑一覧表

[ ]の中の数値は残存値 単位:m

縄:縄文 土:土師 須:須恵 陶磁:陶磁器 土製:土製品 石:石製品 金:金属製品 黒曜:黒曜石

遺構名	位置(X-Y)	形態	上端		下端		深さ	主軸	出土遺物(点数)	備考
			長さ×短径	長さ×短径	長さ×短径	長さ×短径				
SK01	25-55	不整楕円	1.14×0.73	1.03×0.62	0.07	N-79° -W	縄2 土:61			
SK02	18-60	不整楕円	0.87×0.66	0.56×0.45	0.22	N-44° -E			SI02と重複し、SP01に切られる	
SK03	27-55	—	0.54×[0.35]	0.21×[0.13]	0.20	—	土:2		北側調査区外に延びる	
SK04	17-44	—	[0.49]×[0.37]	0.45×0.25	0.15	N-35° -E			SK05を切り北側調査区に延びる	
SK05	17-44	不整楕円	0.70×0.60	0.30×0.20	0.28	N-9° -W	土:7		SK04に切られる	
SK06	18-41	—	1.10×[0.70]	0.88×[0.62]	0.13	—	縄1 土:2		北側調査区外に延びる	
SK07	20-39	不整	0.58×0.48	0.39×0.36	0.19	N-84° -E				
SK08	15-47	楕円	0.80×0.70	0.23×0.16	0.38	N-80° -W	縄1 土:5		覆乱に切られる	
SK09	20-58	不整楕円	1.08×0.72	0.60×0.33	0.40	N-2° -W	土:60		SI02・03と重複	
SK10	21-57	楕円	1.17×0.98	0.87×0.42	0.30	N-13° -W	土:23		SI03と重複し、SK11を切る	
SK11	21-58	楕円	0.72×0.59	0.34×0.31	0.25	N-73° -E	土:14 陶磁:1		SI03と重複し、SK10に切られる	
SK12	22-26	楕円	0.84×0.79	0.70×0.61	0.10	N-20° -E	土:2			
SK13	13-34	—	0.66×[0.44]	[0.61]×[0.42]	0.05	—			西側覆乱に切られる	
SK14	16-24	楕円	0.94×0.82	0.50×0.37	0.31	N-39° -W	土:31		SP11を切る	
SK15	19-27	不整	1.32×0.65	0.93×0.45	0.29	N-4° -W	土:5			
SK16	13-23	楕円	0.90×0.86	0.73×0.66	0.23	N-14° -E	土:9 陶磁:1			
SK17	13-25	不整	0.64×[0.57]	0.43×0.35	0.15	N-67° -E	土:6			
SK18	12-23	楕円	1.02×0.93	0.78×0.63	0.21	N-34° -E	土:21 須:1 陶磁:1		SK19を切り、SD02と重複	
SK19	13-23	—	[1.08]×0.81	0.62×[0.55]	0.20	N-54° -E	土:1		SK18に切られ、SD02と重複	
SK20	18-25	円	1.28×1.21	1.14×1.06	0.22	—	土:35 陶磁:1		SK21を切る	
SK21	18-24	楕円	1.03×[0.94]	0.88×[0.80]	0.40	N-19° -E	土:30 粘土塊:1		SK22・23を切り、SK20・覆乱に切られる	
SK22	19-24	—	0.97×[0.66]	0.82×[0.55]	0.46	N-21° -E	土:36 陶磁:1		SK21・覆乱に切られる	
SK23	19-24	—	[0.46]×0.31	[0.22]×[0.18]	0.14	—			SK21・覆乱に切られ、SK22と重複	
SK24	23-14	不整楕円	0.56×0.44	0.29×0.21	0.27	N-44° -E			SP32を切る	
SK25	22-13	不整楕円	0.79×0.76	0.52×0.49	0.20	N-42° -E				
SK26	48-13	楕円	0.78×0.70	0.63×0.62	0.07	N-77° -W	土:6		TA01と重複し、SD07に切られる	
SK27	25-5	—	0.64×[0.34]	0.50×[0.27]	0.21	—			西側調査区外に延びる	
SK28	13-45	楕円	1.07×0.84	0.34×0.32	0.46	N-51° -E	縄2		覆乱に切られる	
SK29	14-38	楕円	1.38×0.61	1.09×0.43	0.27	N-7° -E	土:10		SK30を切る	
SK30	14-39	—	0.62×[0.55]	[0.45]×0.43	0.21	N-7° -E	土:8		SK29に切られる	
SK31	16-48	不整円	0.76×0.72	0.38×0.30	0.45	N-47° -E				
SK32	9-42	—	0.97×[0.96]	0.45×0.39	0.39	N-71° -E	縄4 土:63 陶磁:3 土製:1		西側覆乱に切られる	
SK33	15-13	不整楕円	0.81×0.72	0.38×0.21	0.29	N-15° -E	土:39		SI07と重複し、SP45を切る	

第3表 ビット一覧表

[ ] 中の数値は残存値 単位:m

縄:縄文 土:土師 須:須恵 土須:土師質須恵 土製:土製品 石:石製品 金:金属製品 黒曜:黒曜石

遺構名	位置(X-Y)	形態	上端		下端		深さ	出土遺物(点数)	備 考
			長さ×短径	長さ×短径	長さ×短径	長さ×短径			
SP01	18-60	楕円	0.44×0.28	0.22×0.16	0.47	土:13		SI02と重複し、SK02・SP07を切る	
SP02	24-53	—	0.53×[0.26]	0.16×[0.08]	0.22			西側境乱に切られる	
SP03	23-54	不整円	0.50×0.42	0.23×0.22	0.21				
SP04	18-41	楕円	0.26×0.22	0.09×0.09	0.11				
SP05	19-38	不整楕円	0.53×0.38	0.29×0.13	0.14	土:1		SP06を切る	
SP06	19-37	不整楕円	0.51×0.42	0.28×0.17	0.22			SP05に切られる	
SP07	18-60	不整楕円	0.49×[0.19]	0.21×[0.11]	0.12			SI02と重複し、SP01に切られる	
SP08	21-37	不整楕円	0.64×0.53	0.31×0.29	0.26	土:3			
SP09	24-30	不整円	0.36×0.34	0.28×0.23	0.10	土:2			
SP10	21-35	不整円	0.44×0.40	0.27×0.23	0.11				
SP11	16-24	—	0.52×[0.30]	0.33×[0.21]	0.15	土:1 陶磁:1		SK14に切られる	
SP12	18-26	不整円	0.31×0.31	0.16×0.11	0.18			SP13を切る	
SP13	17-26	—	0.34×[0.26]	0.13×[0.07]	0.18			SP12に切られる	
SP14	12-27	不整楕円	0.54×0.40	0.32×0.14	0.31	縄:1 土:73 陶磁:3 金:1		SD02と重複	
SP15	12-27	不整楕円	0.59×0.52	0.42×0.38	0.27	土:10 陶磁:2		SD02と重複	
SP16	26-10	楕円	0.45×0.34	0.15×0.13	0.23	土:1			
SP17	24-10	不整円	0.66×0.64	0.37×0.35	0.24	土:1		SP28・33を切る	
SP18	23-11	不整楕円	0.49×0.42	0.35×0.23	0.14	土:2		SP33を切る	
SP19	23-10	不整円	0.27×0.26	0.11×0.09	0.30				
SP20	23-10	楕円	0.38×0.36	0.23×0.19	0.27	土:4			
SP21	22-11	楕円	0.43×0.36	0.20×0.17	0.18	土:3			
SP22	21-12	円	0.37×0.35	0.16×0.15	0.16	土:1			
SP23	19-9	円	0.40×0.37	0.26×0.15	0.21	土:4			
SP24	19-10	楕円	0.47×0.42	0.42×0.33	0.19	土:17			
SP25	18-10	楕円	0.48×0.43	0.19×0.14	0.26	土:1			
SP26	18-11	不整円	0.55×0.54	0.26×0.25	0.36	土:2 須:1			
SP27	22-15	楕円	0.59×0.48	0.43×0.32	0.15	土:1			
SP28	24-10	不整円	[0.32]×0.31	0.09×0.06	0.36			SP33を切り、SP17に切られる	
SP29	22-8	不整楕円	0.49×0.45	0.38×0.31	0.25	土:2			
SP30	20-7	楕円	0.68×0.60	0.30×0.24	0.46	土:7 須:3 陶磁:8			
SP31	17-11	不整楕円	0.80×0.50	0.13×0.09	0.28	土:12			
SP32	22-14	—	0.47×[0.35]	0.14×0.12	0.17			SK24に切られる	
SP33	24-10	—	0.33×[0.23]	0.17×[0.17]	0.27			SP17・18・28に切られる	
SP34	25-7	不整楕円	0.57×0.48	0.51×0.40	0.22				
SP35	33-11	不整円	0.56×0.56	0.35×0.33	0.18	土:2			
SP36	48-15	—	0.68×[0.29]	0.53×[0.18]	0.13	土:3		SD07に切られる	
SP37	18-18	不整楕円	0.46×[0.26]	0.32×[0.18]	0.17			SI06に切られ、SP38を切る	
SP38	18-18	楕円	0.19×0.14	0.07×0.06	0.26			SI06・SP37に切られる	
SP39	21-5	楕円	0.34×0.27	0.12×0.08	0.11			SI08に切られる	
SP40	23-33	楕円	0.35×0.31	0.25×0.17	0.10				
SP41	14-28	不整円	0.40×0.37	0.23×0.23	0.18			SD01と重複	
SP42	19-61	不整楕円	0.60×0.44	0.53×0.38	0.06			SI02と重複	
SP43	18-14	楕円	0.41×0.36	0.21×0.14	0.17	土:1		SI06と重複	
SP44	15-13	不整円	0.67×0.65	0.18×0.17	0.36	土:58 陶磁:1		SI07と重複	
SP45	16-14	—	0.44×[0.20]	0.38×[0.17]	0.04	土:1		SI07と重複し、SK33に切られる	



種名	学名	体長	翼長	尾長	脚長	嘴長	嘴幅	嘴高	色相	脚上	着衣	備考
3005	36	12	14	14	14	14	14	14	内白(0577.1) 外白(0575.1)	脚 白+赤+白色子 雲母	黒	内白+赤+白色子 雲母
3005	36	13	14	14	14	14	14	内白(0577.2) 外白(0575.2)	脚 白+赤+白色子 雲母	黒	内白+赤+白色子 雲母	
3005	36	15	14	14	14	14	14	内白(0578.1) 外白(0576.1)	脚 白+赤+白色子 雲母	黒	内白+赤+白色子 雲母	
3005	36	16	14	14	14	14	14	内白(0579.1) 外白(0577.1)	脚 白+赤+白色子 雲母	黒	内白+赤+白色子 雲母	
3006	36	17	14	14	14	14	14	内白(0580.1) 外白(0578.1)	脚 白+赤+白色子 雲母	黒	内白+赤+白色子 雲母	
3006	36	18	14	14	14	14	14	内白(0581.1) 外白(0579.1)	脚 白+赤+白色子 雲母	黒	内白+赤+白色子 雲母	
3006	36	19	14	14	14	14	14	内白(0582.1) 外白(0580.1)	脚 白+赤+白色子 雲母	黒	内白+赤+白色子 雲母	
3006	37	1	14	14	14	14	14	内白(0583.1) 外白(0581.1)	脚 白+赤+白色子 雲母	黒	内白+赤+白色子 雲母	
3007	37	3	14	14	14	14	14	内白(0584.1) 外白(0582.1)	脚 白+赤+白色子 雲母	黒	内白+赤+白色子 雲母	
3007	37	4	14	14	14	14	14	内白(0585.1) 外白(0583.1)	脚 白+赤+白色子 雲母	黒	内白+赤+白色子 雲母	
3007	37	5	14	14	14	14	14	内白(0586.1) 外白(0584.1)	脚 白+赤+白色子 雲母	黒	内白+赤+白色子 雲母	
3007	37	6	14	14	14	14	14	内白(0587.1) 外白(0585.1)	脚 白+赤+白色子 雲母	黒	内白+赤+白色子 雲母	
3007	37	7	14	14	14	14	14	内白(0588.1) 外白(0586.1)	脚 白+赤+白色子 雲母	黒	内白+赤+白色子 雲母	
3007	37	8	14	14	14	14	14	内白(0589.1) 外白(0587.1)	脚 白+赤+白色子 雲母	黒	内白+赤+白色子 雲母	
3007	37	9	14	14	14	14	14	内白(0590.1) 外白(0588.1)	脚 白+赤+白色子 雲母	黒	内白+赤+白色子 雲母	
3007	37	10	14	14	14	14	14	内白(0591.1) 外白(0589.1)	脚 白+赤+白色子 雲母	黒	内白+赤+白色子 雲母	
3007	37	11	14	14	14	14	14	内白(0592.1) 外白(0590.1)	脚 白+赤+白色子 雲母	黒	内白+赤+白色子 雲母	
3007	37	12	14	14	14	14	14	内白(0593.1) 外白(0591.1)	脚 白+赤+白色子 雲母	黒	内白+赤+白色子 雲母	
3007	37	13	14	14	14	14	14	内白(0594.1) 外白(0592.1)	脚 白+赤+白色子 雲母	黒	内白+赤+白色子 雲母	
3007	37	14	14	14	14	14	14	内白(0595.1) 外白(0593.1)	脚 白+赤+白色子 雲母	黒	内白+赤+白色子 雲母	
3007	37	15	14	14	14	14	14	内白(0596.1) 外白(0594.1)	脚 白+赤+白色子 雲母	黒	内白+赤+白色子 雲母	
3007	37	16	14	14	14	14	14	内白(0597.1) 外白(0595.1)	脚 白+赤+白色子 雲母	黒	内白+赤+白色子 雲母	
3007	37	17	14	14	14	14	14	内白(0598.1) 外白(0596.1)	脚 白+赤+白色子 雲母	黒	内白+赤+白色子 雲母	
3008	38	2	14	14	14	14	14	内白(0599.1) 外白(0597.1)	脚 白+赤+白色子 雲母	黒	内白+赤+白色子 雲母	
3008	38	3	14	14	14	14	14	内白(0600.1) 外白(0598.1)	脚 白+赤+白色子 雲母	黒	内白+赤+白色子 雲母	
3008	38	4	14	14	14	14	14	内白(0601.1) 外白(0599.1)	脚 白+赤+白色子 雲母	黒	内白+赤+白色子 雲母	
3008	38	5	14	14	14	14	14	内白(0602.1) 外白(0600.1)	脚 白+赤+白色子 雲母	黒	内白+赤+白色子 雲母	
3008	38	6	14	14	14	14	14	内白(0603.1) 外白(0601.1)	脚 白+赤+白色子 雲母	黒	内白+赤+白色子 雲母	
3008	38	7	14	14	14	14	14	内白(0604.1) 外白(0602.1)	脚 白+赤+白色子 雲母	黒	内白+赤+白色子 雲母	
3008	38	8	14	14	14	14	14	内白(0605.1) 外白(0603.1)	脚 白+赤+白色子 雲母	黒	内白+赤+白色子 雲母	
3008	38	9	14	14	14	14	14	内白(0606.1) 外白(0604.1)	脚 白+赤+白色子 雲母	黒	内白+赤+白色子 雲母	
3008	38	10	14	14	14	14	14	内白(0607.1) 外白(0605.1)	脚 白+赤+白色子 雲母	黒	内白+赤+白色子 雲母	
3008	38	11	14	14	14	14	14	内白(0608.1) 外白(0606.1)	脚 白+赤+白色子 雲母	黒	内白+赤+白色子 雲母	
3009	38	12	14	14	14	14	14	内白(0609.1) 外白(0607.1)	脚 白+赤+白色子 雲母	黒	内白+赤+白色子 雲母	



通称名	国産品番号	種別	部材・部位	口法	音高	楽器	色調	加工	含有物	備考
SK14	40	26	上調器	(7.0)	3.2	ウレタン	黒色(2.006.0)	黒色(2.006.0)	黒色(2.006.0)	黒色(2.006.0)
SK18	41	1	ウレタン部	(11.2)	8.0	ウレタン	黒色(2.006.2) 黒色(2.007.2)	黒色(2.006.2) 黒色(2.007.2)	黒色(2.006.2) 黒色(2.007.2)	黒色(2.006.2) 黒色(2.007.2)
SK19	41	2	上調器	(11.0)	1.8	ウレタン	黒色(2.006.2)	黒色(2.006.2)	黒色(2.006.2)	黒色(2.006.2)
SK21	41	3	上調器	(11.0)	1.8	ウレタン	黒色(2.006.2)	黒色(2.006.2)	黒色(2.006.2)	黒色(2.006.2)
SK23	41	4	上調器	(11.0)	2.2	ウレタン	黒色(2.006.2)	黒色(2.006.2)	黒色(2.006.2)	黒色(2.006.2)
SK29	41	5	上調器	(8.0)	2.3	ウレタン	内上(2.006.0) 黒色(2.007.2) 外上(黒色(2.007.2))	内上(2.006.0) 黒色(2.007.2) 外上(黒色(2.007.2))	内上(2.006.0) 黒色(2.007.2) 外上(黒色(2.007.2))	黒色(2.006.0) 黒色(2.007.2) 外上(黒色(2.007.2))
SK32	41	6	上調器	(13.0)	1.9	ウレタン	内上(黒色(2.006.0) 外上(2.007.2) 外上(黒色(2.007.2)))	内上(黒色(2.006.0) 外上(2.007.2) 外上(黒色(2.007.2)))	内上(黒色(2.006.0) 外上(2.007.2) 外上(黒色(2.007.2)))	黒色(2.006.0) 黒色(2.007.2) 外上(黒色(2.007.2))
SK33	41	8	上調器	(11.0)	8.0	ウレタン	黒色(2.006.0)	黒色(2.006.0)	黒色(2.006.0)	黒色(2.006.0)
SK33	41	9	上調器	(14.0)	2.0	ウレタン	内上(黒色(2.006.0) 外上(黒色(2.007.2) 外上(黒色(2.007.2)))	内上(黒色(2.006.0) 外上(黒色(2.007.2) 外上(黒色(2.007.2)))	内上(黒色(2.006.0) 外上(黒色(2.007.2) 外上(黒色(2.007.2)))	黒色(2.006.0) 黒色(2.007.2) 外上(黒色(2.007.2))
SK33	41	10	上調器	(17.0)	1.6	ウレタン	黒色(2.006.0)	黒色(2.006.0)	黒色(2.006.0)	黒色(2.006.0)
SK39	41	11	上調器	(11.0)	1.6	ウレタン	黒色(2.006.0)	黒色(2.006.0)	黒色(2.006.0)	黒色(2.006.0)
SK40	41	11	上調器	(11.0)	1.6	ウレタン	黒色(2.006.0)	黒色(2.006.0)	黒色(2.006.0)	黒色(2.006.0)
SK44	41	13	上調器	(11.0)	1.3	ウレタン	黒色(2.006.0)	黒色(2.006.0)	黒色(2.006.0)	黒色(2.006.0)
SK45	41	15	上調器	(8.0)	14.0	ウレタン	黒色(2.006.0)	黒色(2.006.0)	黒色(2.006.0)	黒色(2.006.0)
SK45	41	16	ウレタン部	(11.7)	14.0	ウレタン	黒色(2.006.0)	黒色(2.006.0)	黒色(2.006.0)	黒色(2.006.0)
SK45	41	17	上調器	(11.7)	12.0	ウレタン	黒色(2.006.0)	黒色(2.006.0)	黒色(2.006.0)	黒色(2.006.0)
SK45	41	18	上調器	—	4.8	ウレタン	黒色(2.006.0)	黒色(2.006.0)	黒色(2.006.0)	黒色(2.006.0)
SK45	41	19	上調器	—	—	ウレタン	黒色(2.006.0)	黒色(2.006.0)	黒色(2.006.0)	黒色(2.006.0)
SK45	41	20	ウレタン部	—	—	ウレタン	黒色(2.006.0)	黒色(2.006.0)	黒色(2.006.0)	黒色(2.006.0)
SK46	41	21	ウレタン部	—	—	ウレタン	黒色(2.006.0)	黒色(2.006.0)	黒色(2.006.0)	黒色(2.006.0)
SK44	42	1	上調器	(12.0)	5.7	4.0	ウレタン	黒色(2.006.0)	黒色(2.006.0)	黒色(2.006.0)
SK44	42	2	上調器	(11.0)	5.8	3.2	ウレタン	黒色(2.006.0)	黒色(2.006.0)	黒色(2.006.0)
SK44	42	3	上調器	(11.0)	4.9	2.0	ウレタン	黒色(2.006.0)	黒色(2.006.0)	黒色(2.006.0)
SK44	42	4	上調器	(11.0)	2.3	ウレタン	黒色(2.006.0)	黒色(2.006.0)	黒色(2.006.0)	黒色(2.006.0)
SK44	42	5	上調器	(11.0)	—	—	ウレタン	黒色(2.006.0)	黒色(2.006.0)	黒色(2.006.0)
SK44	42	6	上調器	(13.0)	—	—	ウレタン	黒色(2.006.0)	黒色(2.006.0)	黒色(2.006.0)
SK44	42	7	ウレタン部	—	(7.0)	(3.6)	ウレタン	黒色(2.007.2)	黒色(2.007.2)	黒色(2.007.2)
SK44	42	8	ウレタン部	—	—	—	ウレタン	黒色(2.007.2)	黒色(2.007.2)	黒色(2.007.2)
SK44	42	9	ウレタン部	—	—	—	ウレタン	黒色(2.007.2)	黒色(2.007.2)	黒色(2.007.2)
SK44	42	10	ウレタン部	—	—	—	ウレタン	黒色(2.007.2)	黒色(2.007.2)	黒色(2.007.2)
SK44	42	11	ウレタン部	—	—	—	ウレタン	黒色(2.007.2)	黒色(2.007.2)	黒色(2.007.2)
SK44	42	12	上調器	(16.0)	—	(4.8)	ウレタン	黒色(2.006.0)	黒色(2.006.0)	黒色(2.006.0)
SK44	42	13	上調器	(13.7)	—	(2.0)	ウレタン	黒色(2.006.0)	黒色(2.006.0)	黒色(2.006.0)
SK44	42	14	ウレタン部	(12.7)	6.2	(3.6)	ウレタン	黒色(2.007.2)	黒色(2.007.2)	黒色(2.007.2)
SK44	42	15	ウレタン部	(12.0)	6.8	2.6	ウレタン	黒色(2.007.2)	黒色(2.007.2)	黒色(2.007.2)
SK44	42	16	ウレタン部	—	(3.0)	(3.4)	ウレタン	黒色(2.007.2)	黒色(2.007.2)	黒色(2.007.2)

第5表 土製品観察表

1. 注釈：加工費を省略し、加工品を示す。  
2. 西暦年と西暦月と日付の順に記述し、外装の色を付す。また、これからの観察日付は目録によるものを示す。

品名	図録番号	種別	形状・寸法			重量	材質		色調	加工	備考
			長さ (cm)	幅 (cm)	高さ (cm)		口縁/底/高/幅/厚	内装			
S02	35	14	99口	長14.0	幅15.7	厚3.6	69.4	ナテ	白	表面無装	—
S02	41	7	上綱	長3.3	幅1.6	厚1.7	9.38	ナテ	白	表面無装	—
S02	42	17	下綱	長1.9	幅1.75	厚0.7	1.59	ナテ	白	表面無装	100
S02	42	18	上綱	長1.15	幅1.8	—	2.02	ナテ	白	表面無装	—

第6表 石製品観察表

注釈：加工費を省略し、加工品を示す。

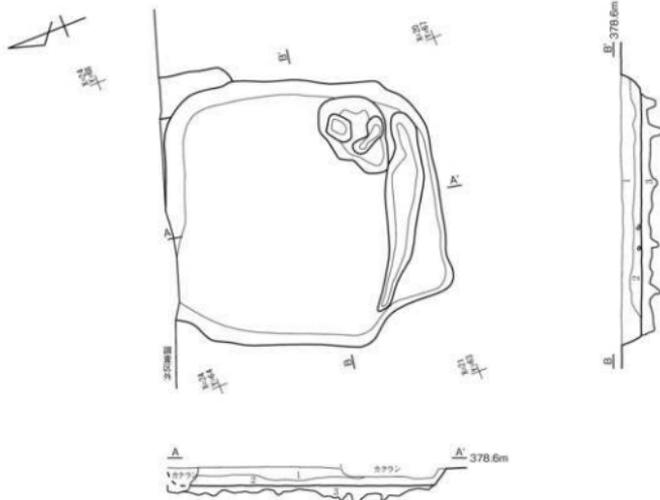
品名	図録番号	種別	材質	寸法			重量 (g)	色調	備考
				長さ (cm)	幅 (cm)	高さ (cm)			
S03	36	13	磁石	9.9	6.8	1.9	166.48	灰緑	表面無加工
S03	40	0	石	2.0	1.25	0.35	0.56	透明	表面無加工
S03	40	7	砂岩打石	2.1	1.2	1.0	40.96	灰白	表面無加工
S03	42	19	陶器打石	3.3	11.6	1.9	136.21	灰白色	表面無加工

第7表 金属製品観察表

注釈：加工費を省略し、加工品を示す。

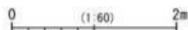
品名	図録番号	種別	寸法			重量 (g)	備考	
			長さ (cm)	幅 (cm)	厚 (mm)			
S01	34	2	月金	50.9	6.5	0.6	11.78	表面無加工
S01	34	15	月金	31.1	6.5	0.3	6.6	表面無加工
S01	36	1	種子	10.0	5.2	0.5	12.19	表面無加工
S03	36	2	種子	6.6	6.6	0.15	3.00	表面無加工
S01	36	10	木彫品	4.0	2.0	0.3	12.25	表面無加工
S01	37	2	種子	6.3	4.1	0.3	16.29	表面無加工
S01	37	3	種子	6.3	4.1	0.3	16.29	表面無加工
S09	39	2	磁石	7.6	6.8	1.2	140.00	表面無加工
S09	39	3	磁石	6.7	4.0	1.0	52.10	表面無加工
S03	40	2	打	4.9	0.8	0.2	2.33	表面無加工
S03	40	3	打	4.5	1.1	0.3	4.17	表面無加工
S03	40	4	打	4.0	0.9	0.2	2.01	表面無加工
S03	40	5	打	4.2	1.1	0.3	2.91	表面無加工
S01	41	11	磁石	4.5	4.0	1.1	25.90	表面無加工

SI01

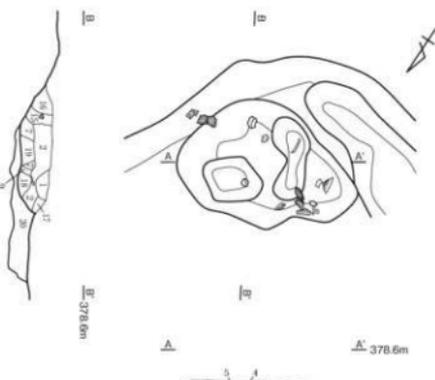


SI01土層

- 1層 暗褐色砂質土層(7.5YR3/3) 白色粒子, 褐色粒子を多量に含む。
- 2層 暗褐色砂質土層(7.5YR3/4) 白色粒子, 褐色粒子を多く含む, 褐色砂質土ブロックを多量に混入する。
- 3層 暗褐色砂質土層(7.5YR4/4) 白色粒子を多く, 黒褐色砂質土ブロックを含む。(掘り方)



SI01 カマド



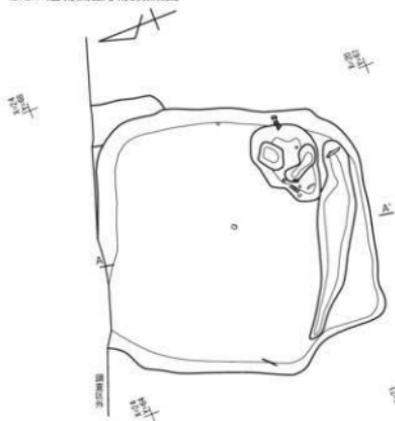
SI01カマド土層

- 1層 暗褐色砂質土層(7.5YR3/3) 焼土粒子, 白色粒子を多く, 褐色土ブロックを少量含む。
- 2層 黒褐色砂質土層(7.5YR3/2) 焼土粒子を少量, 白色粒子を多く含む。
- 3層 暗褐色砂質土層(7.5YR4/2) 焼土粒子をわずかに, 5mm以下の小礫を多く含む。
- 4層 暗褐色土層(7.5YR3/3) 焼土粒子を多量に, 褐色土ブロックをわずかに含む。
- 5層 黒褐色土層(10YR3/2) 焼土粒子をわずかに含む。
- 6層 暗褐色土層(7.5YR3/3) 焼土粒子をわずかに含む, 褐色砂質土ブロックを多く含む。
- 7層 暗褐色砂質土層(7.5YR3/4) 焼土粒子をわずかに含む, 褐色砂質土ブロックを多量に混入する。
- 8層 暗褐色砂質土層(7.5YR2/3) 焼土粒子をわずかに, 黄褐色粒子を多く含む。
- 9層 暗褐色砂質土層(10YR2/2) 焼土粒子, 白色粒子をわずかに含む。
- 10層 暗褐色砂質土層(10YR2/2) 炭化物を少量, 褐色粒子を多く含む。
- 11層 暗褐色砂質土層(7.5YR3/3) 焼土粒子をわずかに, 黄褐色粒子を多く含む。
- 12層 暗褐色砂質土層(7.5YR3/4) 白色粒子を多く含む。
- 13層 暗褐色砂質土層(7.5YR3/3) 焼土粒子を少量, 褐色砂質土ブロックを多く含む。
- 14層 褐色砂質土層(7.5YR4/4) 白色粒子を少量含む。
- 15層 暗褐色砂質土層(7.5YR3/4) 焼土粒子を少量, 褐色粒子を多く含む。
- 16層 暗褐色砂質土層(7.5YR3/3) 焼土粒子を少量, 褐色砂質土小ブロックを多く含む。
- 17層 暗褐色砂質土層(10YR3/4) 白色粒子を多量に含む。
- 18層 暗褐色砂質土層(7.5YR3/3) 焼土ブロックを多く, 褐色粒子を少量含む。
- 19層 暗褐色砂質土層(7.5YR3/3) 焼土粒子を多く含む, 白色粒子をわずかに混入する。
- 20層 褐色砂質土層(7.5YR4/4) 白色粒子を多く含む。(掘り方)



第6図 SI01 (1)

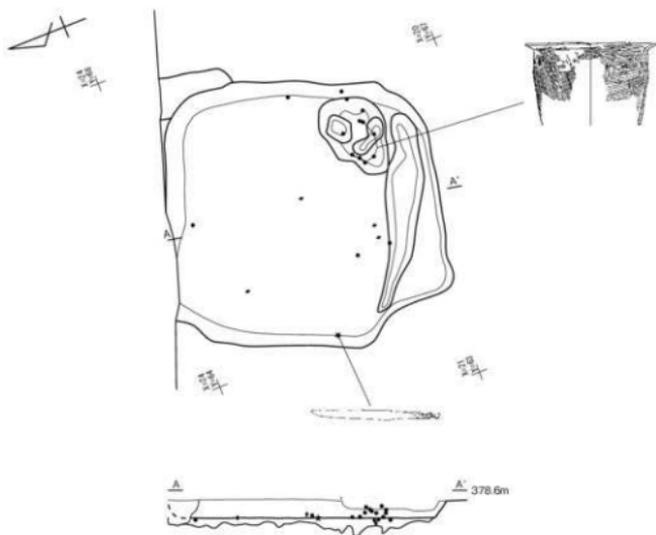
SI01 遺物出土状況微細図



SI01 掘り方

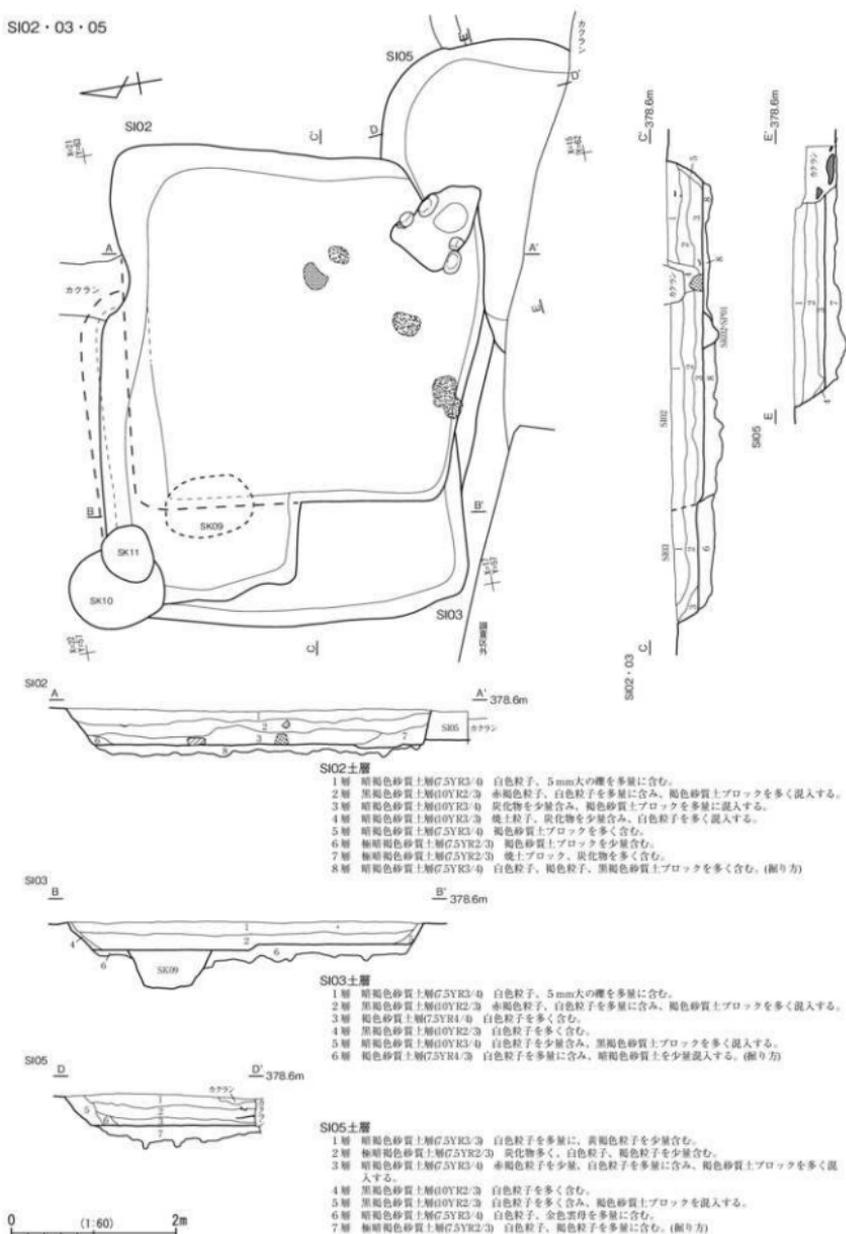


SI01 遺物出土状況



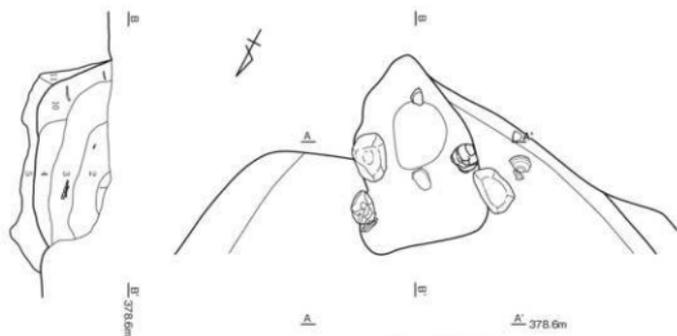
第7図 SI01 (2)





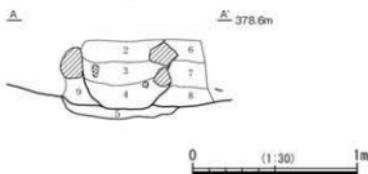
第8図 SI02・03・05 (1)

SI02 カマド

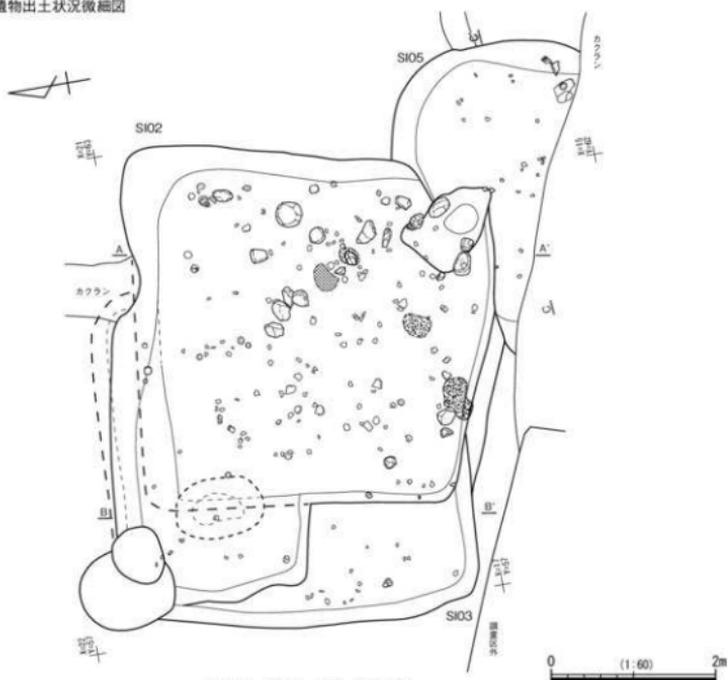


SI02カマド土層

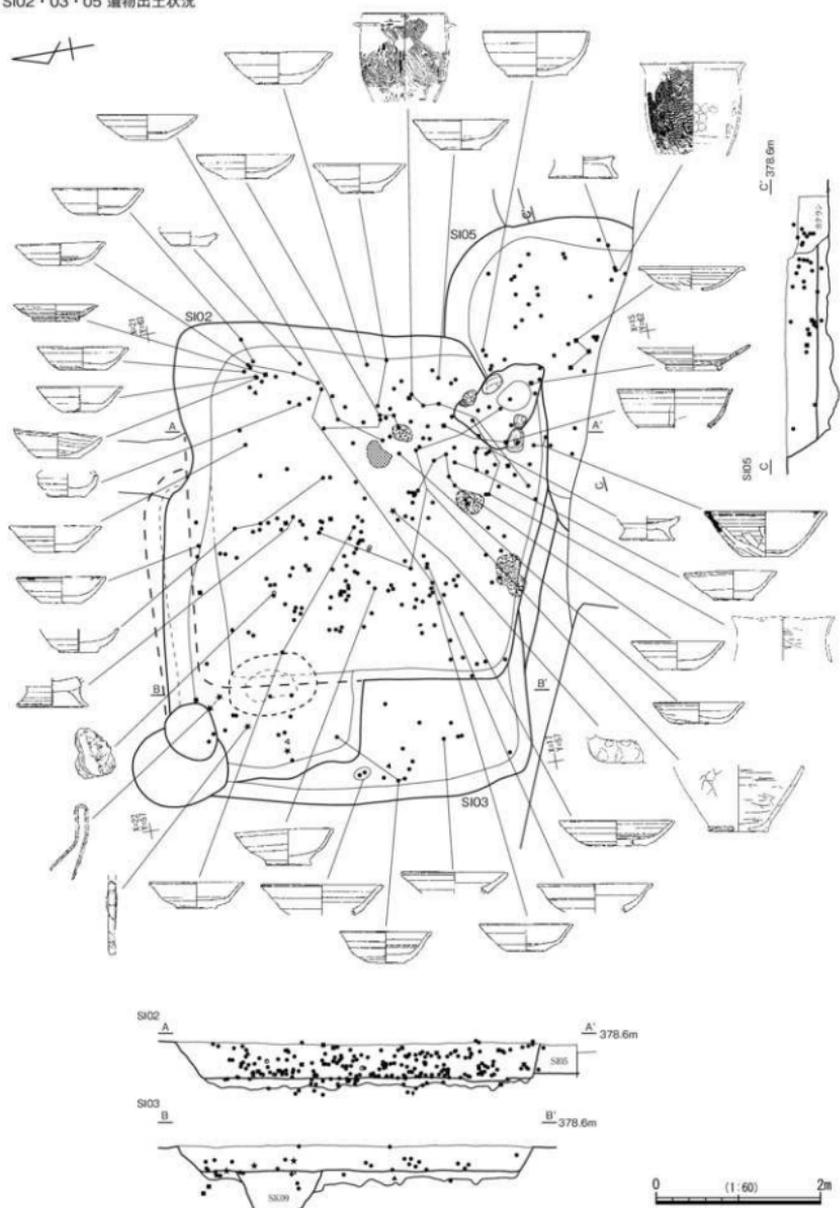
- 1層 極暗褐色砂質土層(7.5Y R2.2) 焼土、炭化物を多く、白色粒子和褐色粒子を多量に含む。
- 2層 暗褐色砂質土層(7.5Y R3.2) 焼土ブロック、白色粒子を多量に含む。
- 3層 暗褐色砂質土層(7.5Y R3.4) 焼土、炭化物を多量に褐色粒子を多く含む。
- 4層 暗褐色砂質土層(7.5Y R3.2) 焼土、褐色砂質土ブロックを多く含む。
- 5層 暗褐色砂質土層(7.5Y R3.4) 褐色砂質土ブロックを多く含む。
- 6層 暗褐色砂質土層(10Y R3.2) 炭化物を少量、白色粒子を多量に含む。
- 7層 黒褐色砂質土層(10Y R2.2) 炭化物を多く、白色粒子和黄褐色粒子を含む。
- 8層 極暗褐色砂質土層(7.5Y R2.2) 黄褐色粒子を多く含む。
- 9層 暗褐色砂質土層(7.5Y R3.2) 白色粒子を多く含む。
- 10層 暗褐色砂質土層(7.5Y R3.2) 焼土粒子を少量、炭化物、白色粒子を多く含む、褐色土小ブロックをわずかに含む。
- 11層 黒褐色砂質土層(10Y R2.2) 焼土粒子をわずかに、白色粒子を多く含む。



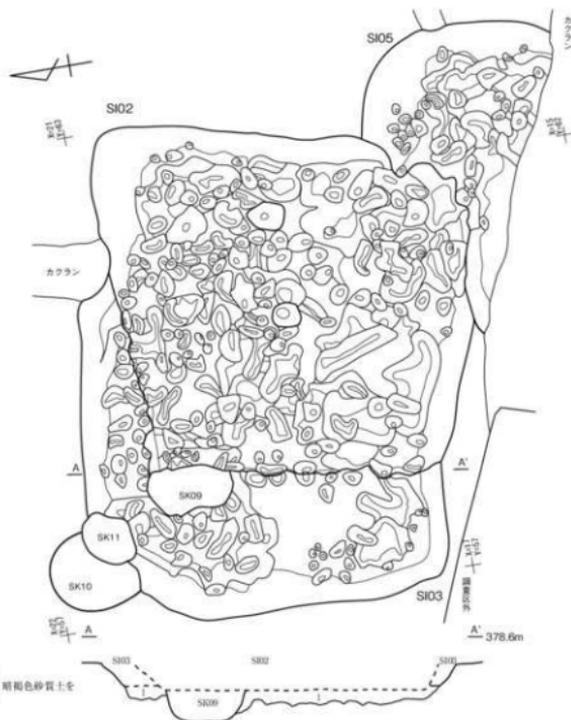
SI02・03・05 遺物出土状況微細図



第9図 SI02・03・05 (2)



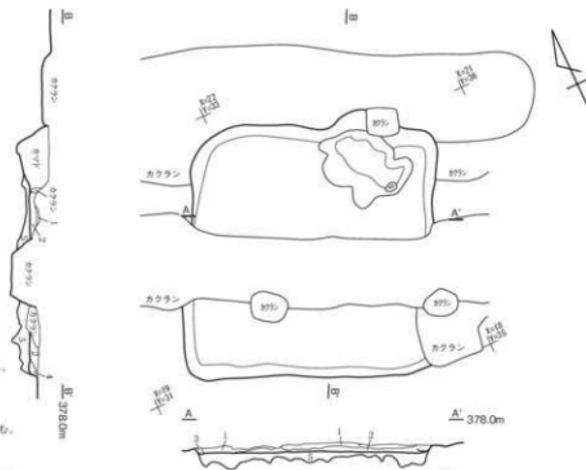
第10図 SI02・03・05 (3)



SI03土層

- 1層 褐色砂質土層(5YR4/3)
- 白色粒子を多量に含み、暗褐色砂質土を少量混入する。(掘り方)

SI04

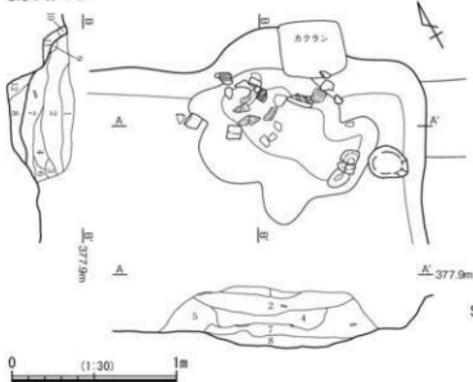


SI04土層

- 1層 暗褐色砂質土層(5YR3/3)
- 焼土粒子、白色粒子を多く含む。
- 暗褐色砂質土ブロックを少量混入する。
- 2層 暗褐色砂質土層(10YR3/4)
- 黄褐色粒子、暗褐色砂質土ブロックを多く含む。
- 3層 暗褐色砂質土層(5YR2/4)
- 白色粒子、3mm以下の小礫を多く含む。
- 4層 黒褐色砂質土層(10YR2/3)
- 焼土粒子、炭化物を少量含む。
- 5層 明褐色砂質土層(5YR5/3)
- 白色粒子、花崗岩風化層を多量に含み、暗褐色砂質土を多く混入する。(掘り方)

第11図 SI02・03・05 (4)・SI04 (1)

SI04 カマド



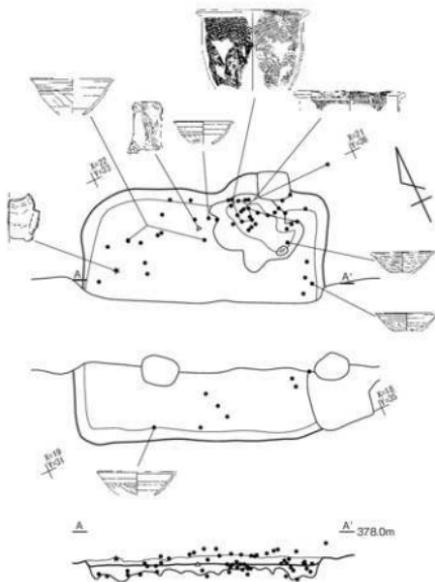
SI04カマド土層

- 1層 黒褐色砂質土層(5YR3/4) 焼土、白色粒子を多量に含む。
- 2層 黒褐色砂質土層(5YR3/3) 多くの焼土ブロックと少量の炭化物を含む。白色粒子、褐色砂質土ブロックを多く混入する。
- 3層 黒褐色砂質土層(10YR3/3) 白色粒子、褐色土ブロックを少量含む。
- 4層 黒赤褐色砂質土層(5YR3/4) 多量の焼土ブロック、褐色砂質土ブロックを含む。
- 5層 黒褐色砂質土層(5YR3/4) 多くの焼土、褐色砂質土ブロック、白色粒子を含む。
- 6層 黒褐色砂質土層(10YR3/3) 焼土粒、白色粒子を少量含む。
- 7層 褐色砂質土層(5YR4/4) 焼土ブロックを多く、白色粒子をわずかに含む。
- 8層 黒褐色砂質土層(5YR3/4) 焼土粒子を多く含む。褐色土小ブロックを少量混入する。
- 9層 褐色砂質土層(5YR4/4) 赤褐色粒子、白色粒子を少量含む。
- 10層 褐色砂質土層(5YR4/3) 白色粒子を多く含む。
- 11層 褐色砂質土層(10YR4/4) 白色粒子を少量含む。
- 12層 黒褐色砂質土層(5YR3/3) 焼土粒子、白色粒子をわずかに含む。

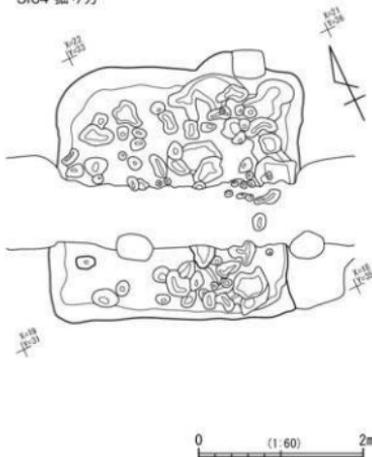
SI04 遺物出土状況微細図



SI04 遺物出土状況

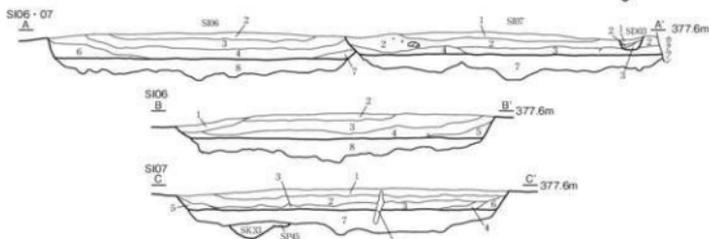
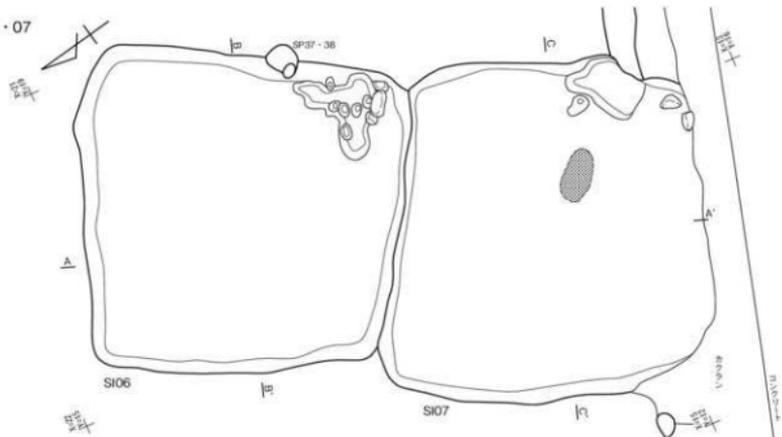


SI04 掘り方



第12図 SI04 (2)

SI06・07

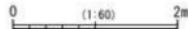


SI06土層

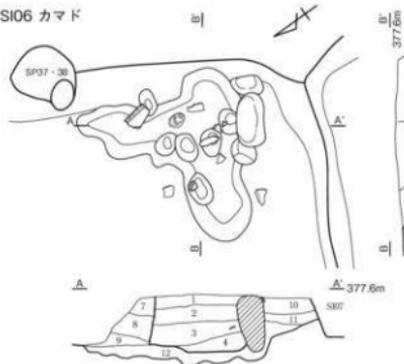
- 1層 暗褐色砂質土層(OYR2) 白色粒子、黄褐色粒子を多量に含む。
- 2層 暗褐色砂質土層(G5YR3/4) 炭化物を多量に、白色粒子、褐色粒子を多く含む。
- 3層 暗褐色砂質土層(G5YR3/3) 炭化物、赤褐色粒子を少量、白色粒子、炭化物を多く含む。
- 4層 極暗褐色砂質土層(G5YR2/3) 少量の焼土粒子、多くの炭化物、白色粒子を含む。
- 5層 黒褐色砂質土層(OYR2) 少量の炭化物、多くの白色粒子、褐色粒子を含む。
- 6層 暗褐色砂質土層(G5YR3/3) 少量の赤褐色粒子、黄褐色粒子、多くの白色粒子を含む。
- 7層 極暗褐色砂質土層(G5YR2/3) 炭化物を少量、黄褐色砂質土を多く混入する。
- 8層 極暗褐色砂質土層(G5YR2/3) 褐色粒子を少量、黒褐色砂質土ブロック、褐色砂質土ブロックを多く含む。(掘り方)

SI07土層

- 1層 黒褐色砂質土層(OYR2) 炭化物、赤褐色粒子を少量、白色粒子を多量に含む。
- 2層 極暗褐色砂質土層(G5YR2/3) 焼土粒子、炭化物を少量含み、白色粒子を多量に混入する。
- 3層 暗褐色砂質土層(G5YR2/3) 焼土粒子、炭化物を多く、白色粒子をわずかに含む。
- 4層 極暗褐色砂質土層(G5YR2/3) 焼土粒子、炭化物を多く、白色粒子、褐色粒子をわずかに含む。
- 5層 黒褐色砂質土層(G5YR3/3) 白色粒子をわずかに含む。
- 6層 暗褐色砂質土層(G5YR3/3) 白色粒子、褐色砂質土ブロックを多く含む。
- 7層 暗褐色砂質土層(G5YR3/4) 赤褐色粒子を多く、暗褐色砂質土ブロックを多量に含む。(掘り方)



SI06 カマド



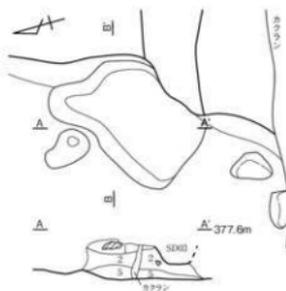
SI06カマド土層

- 1層 極暗褐色砂質土層(G5YR2/3) 焼土を少量、白色粒子を多量に含む。
- 2層 暗褐色砂質土層(OYR2/3) 焼土、炭化物を多く、白色粒子、褐色粒子を少量含む。
- 3層 暗褐色砂質土層(G5YR3/3) 焼土、炭化物を多量に、白色粒子を少量含む。
- 4層 暗褐色砂質土層(G5YR3/3) 焼土、白色粒子をわずかに含む。
- 5層 極暗褐色砂質土層(G5YR2/3) 焼土粒子を少量、白色粒子を多く含む。
- 6層 極暗褐色砂質土層(G5YR2/3) 焼土、炭化物を含む。
- 7層 黒褐色砂質土層(OYR2/3) 焼土粒子を少量、褐色粒子を多く含む。
- 8層 黒褐色砂質土層(G5YR2/3) 焼土を多く、白色粒子を多量に含む。
- 9層 暗褐色砂質土層(G5YR3/3) 焼土粒子を多く含む。
- 10層 極暗褐色砂質土層(G5YR2/3) 白色粒子を多く、褐色粒子を少量含む。
- 11層 暗褐色砂質土層(G5YR3/3) 白色粒子を少量含む。
- 12層 褐色砂質土層(G5YR4/4) 白色粒子を多く含む。



第13図 SI06・07 (1)

SI07 カマド



SI07カマド土層

- 1層 暗褐色砂質土層(10YR3/4) 少量の炭化物、多くの白色粒子、褐色粒子を含む。
- 2層 暗褐色砂質土層(7.5YR3/3) 焼土塊および焼土粒を少量含む、白色粒子を多く混入する。
- 3層 暗褐色砂質土層(7.5YR3/4) 白色粒子を多く含む。
- 4層 暗褐色砂質土層(10YR2/3) 白色粒子、褐色粒子をわずかに含む。
- 5層 暗褐色砂質土層(7.5YR3/4) 白色粒子、炭化物を多く含む。
- 6層 暗褐色砂質土層(10YR3/4) 白色粒子を多量に含む。
- 7層 褐色砂質土層(7.5YR4/4) 白色粒子を少量含む。

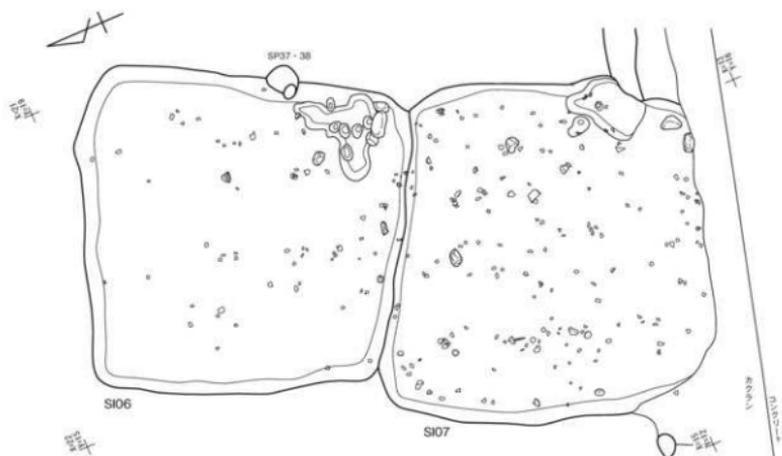


SI06・07 遺物出土状況

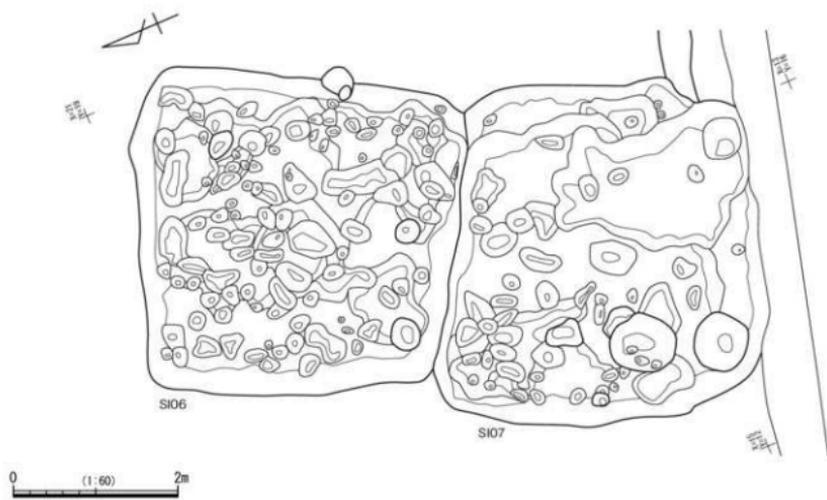


第14図 SI06・07 (2)

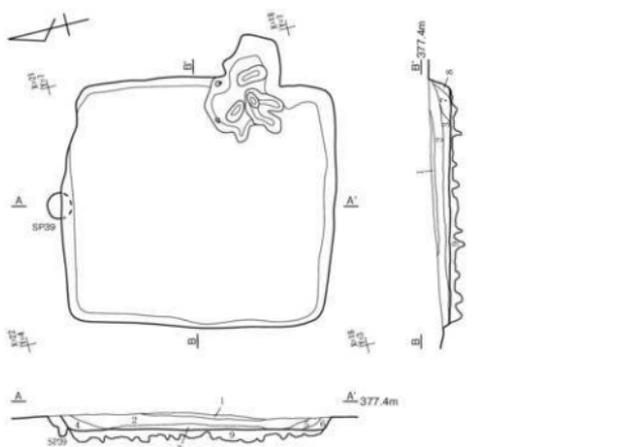
SI06・07 遺物出土状況微細図



SI06・07 掘り方



第15図 SI06・07 (3)

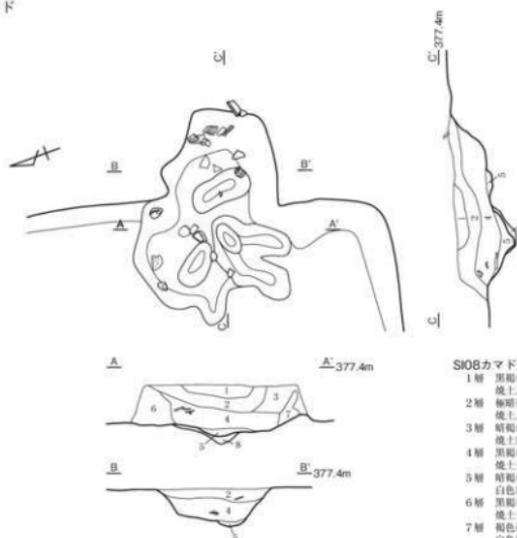


## SIO8土層

- 1層 黒褐色砂質土層(00YR2/3) 炭化物を少量、多くの白色粒子、褐色粒子を含み、褐色砂質土小ブロックをわずかに混入する。
- 2層 暗褐色砂質土層(7.5YR2/3) 赤褐色粒子を少量、白色粒子を多量に含み、褐色砂質土ブロックを多く混入する。
- 3層 暗褐色砂質土層(7.5YR2/2) 炭化物を多く、赤褐色粒子、白色粒子を少量含む。
- 4層 暗褐色砂質土層(00YR2/3) 白色粒子、褐色砂質土ブロックを多量に含む。
- 5層 暗褐色砂質土層(00YR2/3) 赤褐色粒子をわずかに、褐色砂質土ブロックを多く含む。
- 6層 暗褐色砂質土層(7.5YR2/3) 赤褐色粒子を少量、白色粒子を多く含む、花崗岩類炭化物を少量混入する。
- 7層 暗褐色砂質土層(00YR2/3) 白色粒子、褐色粒子を少量含む。
- 8層 暗褐色砂質土層(7.5YR3/4) 白色粒子を多く含む。
- 9層 暗褐色砂質土層(7.5YR3/4) 白色粒子、褐色粒子を多く含む、褐色砂質土、暗褐色砂質土との混合層。(面り方土)



## SIO8 カマド

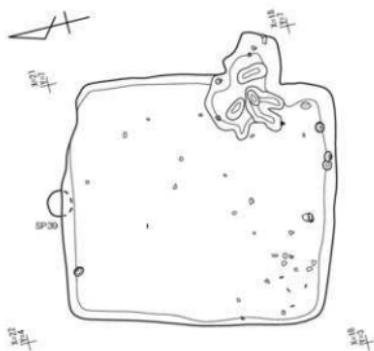


## SIO8カマド土層

- 1層 暗褐色砂質土層(10YR2/3) 焼土、炭化物を少量、白色粒子を多く含む。
- 2層 暗褐色砂質土層(7.5YR2/3) 焼土、炭化物、白色粒子、褐色粒子を多く含む。
- 3層 暗褐色砂質土層(7.5YR3/3) 焼土粒子を少量、白色粒子を多量に含む。
- 4層 暗褐色砂質土層(7.5YR2/2) 焼土を多く含む、褐色砂質土ブロックを多量に混入する。
- 5層 暗褐色砂質土層(7.5YR3/4) 白色粒子、雲母を多く含む。
- 6層 暗褐色砂質土層(10YR2/3) 焼土を多く、白色粒子を多量に含む。
- 7層 暗褐色砂質土層(10YR4/6) 白色粒子を含む。
- 8層 暗褐色土層(00YR3/0) 白色粒子、褐色粒子を多く含む、褐色砂質土、暗褐色砂質土との混合層。(面り方土)

第16図 SIO8 (1)

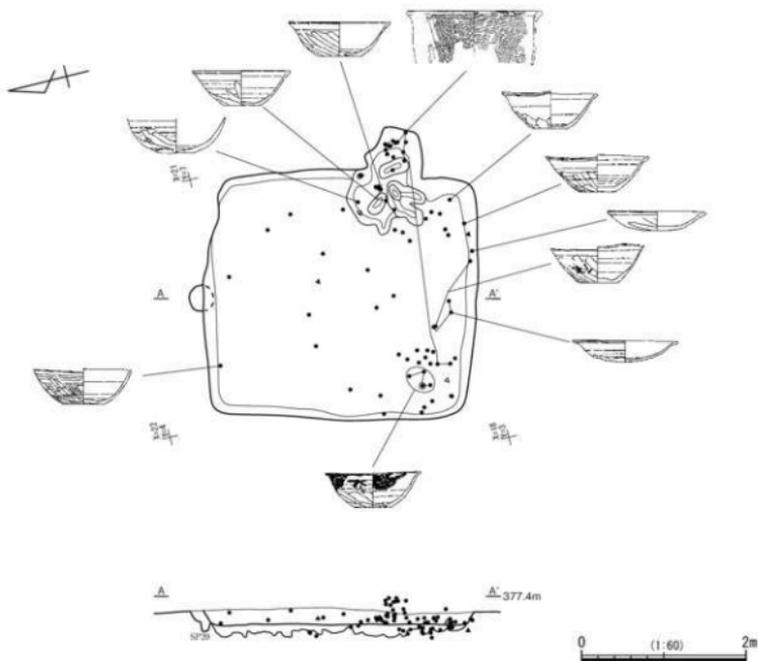
SI08 遺物出土状況微細図



SI08 掘り方

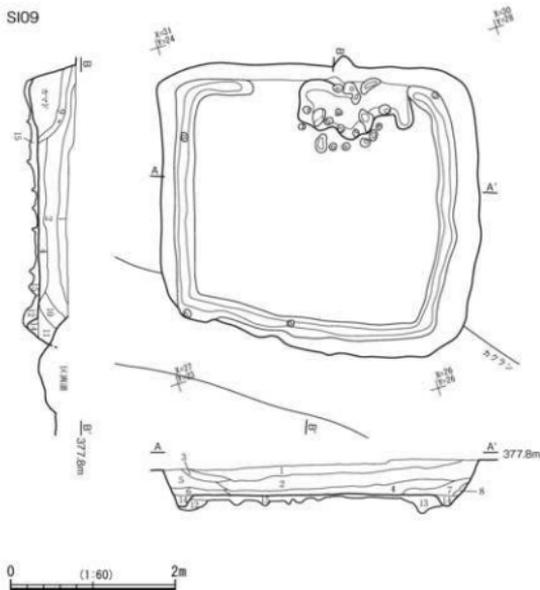


SI08 遺物出土状況



第17図 SI08 (2)

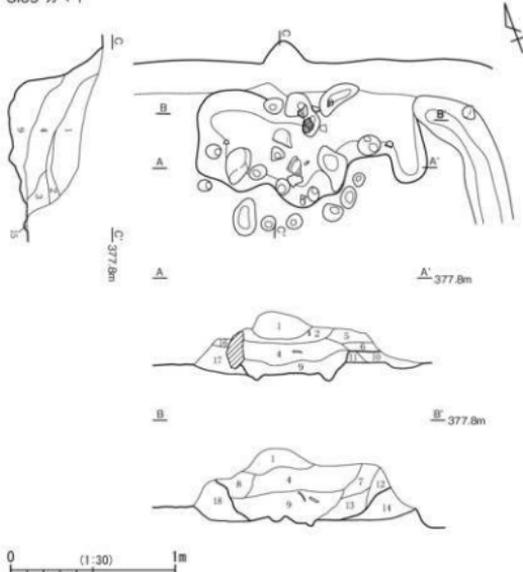
S109



## S109土層

- 1層 黒褐色砂質土層(G5YR2/2)  
焼土粒子、炭化物を少量、白色粒子を多く含む。
- 2層 黒褐色砂質土層(0YR2/3)  
焼土粒子、炭化物を多く、白色粒子を多量に含む。  
褐色砂質土ブロックを多く混入する。
- 3層 黒褐色砂質土層(G5YR2/2)  
赤色粒子、白色粒子を多く含む。
- 4層 黒褐色砂質土層(0YR2/3)  
白色粒子を少量、褐色砂質土ブロックを多量に含む。
- 5層 黒褐色砂質土層(G5YR2/2)  
赤褐色粒子、白色粒子を多量に含む。
- 6層 黒褐色砂質土層(G5YR2/2)  
赤褐色粒子、白色粒子を多く含む。
- 7層 黒褐色砂質土層(0YR2/3)  
焼土粒子を多量に、白色粒子を少量含む、褐色砂質土  
ブロックを少量混入する。
- 8層 黒褐色砂質土層(G5YR4/0)  
白色粒子を多く含む。
- 9層 黒褐色砂質土層(0YR2/2)  
焼土、炭化物を多く含む、暗褐色土ブロックを多く混  
入する。
- 10層 黒褐色砂質土層(0YR2/3)  
白色粒子を少量、花崗岩細風化層を多量に含む。
- 11層 黒褐色砂質土層(0YR2/3)  
白色粒子を多量に含む。
- 12層 黒褐色砂質土層(0YR2/3)  
白色粒子を多量に、褐色粒子をわずかに含む。  
(掘り方)
- 13層 黒褐色砂質土層(0YR2/3)  
焼土粒子を多く、白色粒子を少量含む。(掘り方)
- 14層 黒褐色砂質土層(0YR2/3)  
白色粒子を多く、褐色砂質土ブロックを少量含む。  
(掘り方)
- 15層 褐色砂質土層(G5YR4/0)  
白色粒子を多量に含む。(掘り方)

S109 カマド

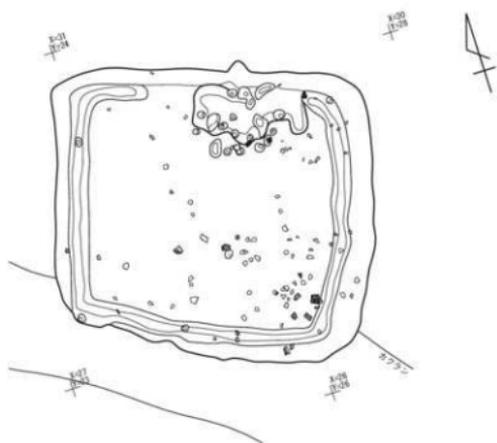


## S109カマド土層

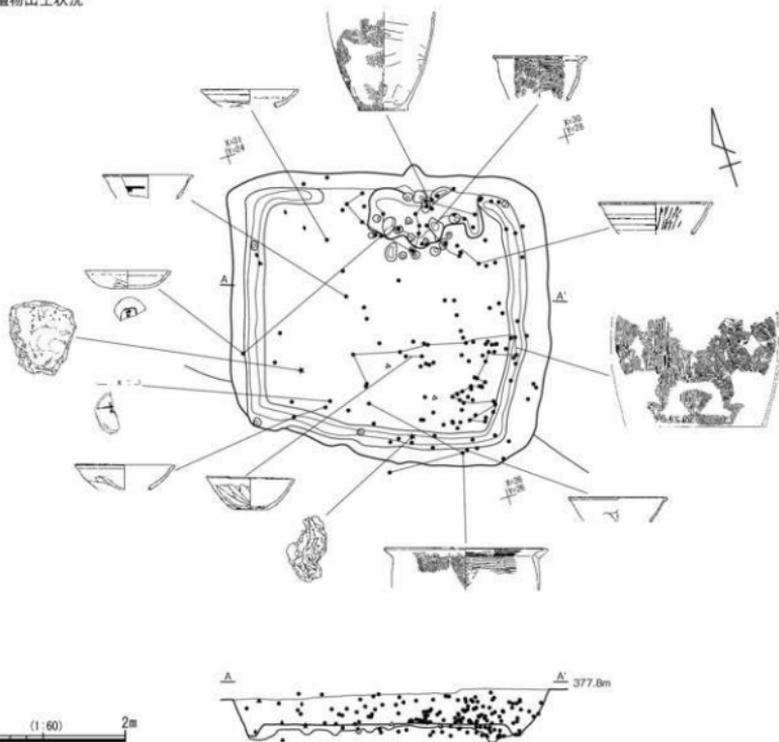
- 1層 黒褐色砂質土層(0YR2/3)  
多くの焼土、褐色土ブロックを含む。
- 2層 黒褐色砂質土層(G5YR2/3)  
焼土粒子を少量、白色粒子、褐色粒子をわずかに含む。
- 3層 暗褐色砂質土層(G5YR3/3)  
少量の焼土粒、炭化物、多くの褐色土ブロックを含む。
- 4層 暗褐色砂質土層(G5YR3/4)  
多くの焼土粒、褐色土ブロックを含む。
- 5層 黒褐色砂質土層(0YR2/3)  
少量の焼土粒、多くの白色粒子を含む。
- 6層 暗褐色砂質土層(G5YR2/3)  
炭層の焼土粒、少量の炭化物、多くの白色粒子を含む。
- 7層 暗褐色砂質土層(G5YR3/4)  
焼土粒子、白色粒子を多く含む。
- 8層 暗褐色砂質土層(G5YR3/4)  
赤褐色粒子を少量、白色粒子、花崗岩細風化層を多く含む。
- 9層 暗褐色砂質土層(G5YR2/3)  
焼土粒子、褐色土ブロックを多く含む。
- 10層 暗褐色砂質土層(0YR3/4)  
白色粒子を多量に含む。
- 11層 暗褐色砂質土層(G5YR2/2)  
白色粒子、褐色砂質土ブロックを多く含む。
- 12層 黒褐色砂質土層(0YR2/3)  
焼土を少量、白色粒子を多量に含む。
- 13層 暗褐色砂質土層(G5YR3/4)  
白色粒子、褐色粒子、花崗岩細風化層を多く含む。
- 14層 黒褐色砂質土層(0YR3/4)  
白色粒子を多量に含む。
- 15層 黒褐色砂質土層(0YR2/3)  
褐色粒子を多量に含む。
- 16層 暗褐色砂質土層(G5YR3/3)  
褐色土ブロックを多量に含む。
- 17層 暗褐色砂質土層(G5YR2/3)  
赤褐色粒子を少量、白色粒子を多量に含む。
- 18層 暗褐色砂質土層(0YR2/3)  
白色粒子、褐色粒子を多量に含む。

第18図 S109 (1)

SI09 遺物出土状況微細図

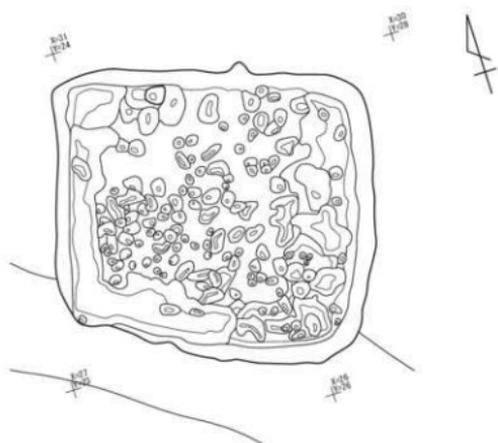


SI09 遺物出土状況

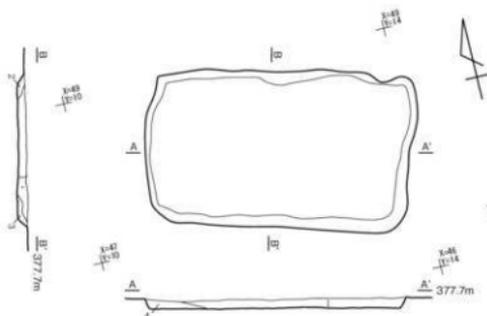


第19図 SI09 (2)

SI09 掘り方



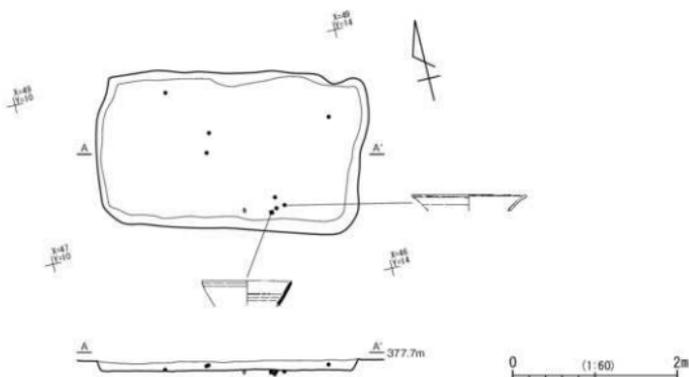
TA01



TA01土層

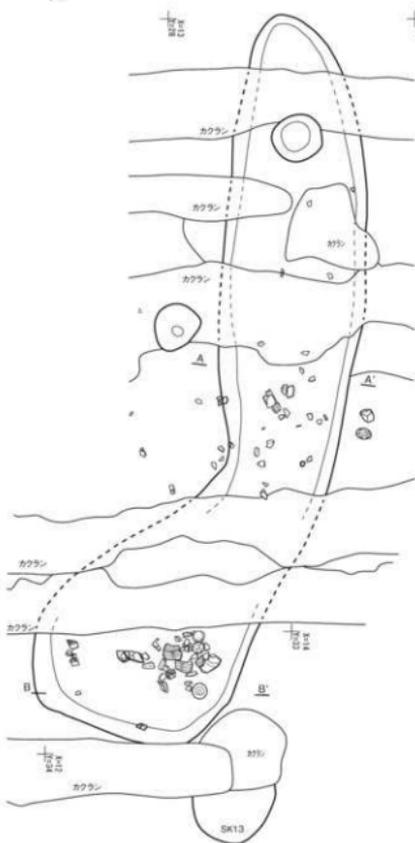
- 1層 暗褐色砂質土層(0YR2/3)  
白色粒子、褐色砂質土ブロックを多く含む。
- 2層 褐色砂質土層(7.5YR4/4)  
白色粒子を多く含む。
- 3層 極暗褐色砂質土層(7.5YR2/3)  
褐色砂質土ブロックを多く含む。
- 4層 暗褐色砂質土層(7.5YR2/3)  
炭化物を少量、白色粒子をわずかに含む。

TA01 遺物出土状況



第20図 SI09 (3)・TA01

SD01



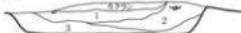
A A' 377.9m



SD01土層 A-A'

1層 黒褐色砂質土層(00YR2-3) 白色粒子、褐色粒子を多く含む。

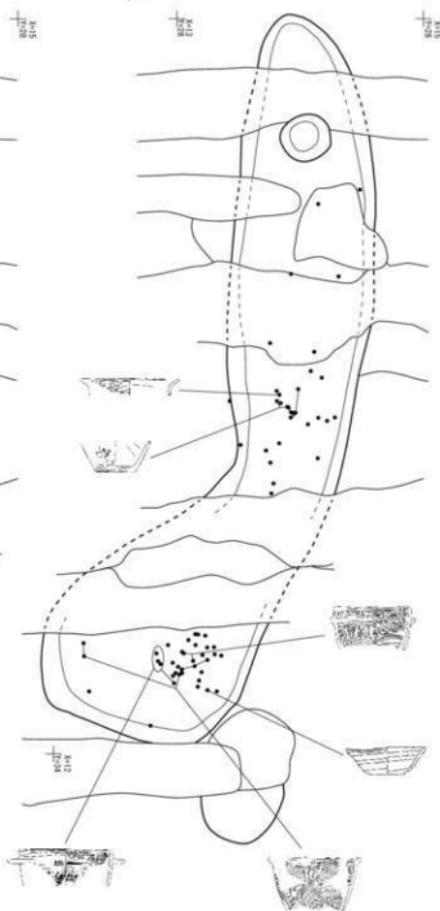
B B' 377.8m



SD01土層 B-B'

1層 黒褐色砂質土層(00YR3-4) 焼土、白色粒子、褐色砂質土ブロックを多量に含む。  
 2層 黒褐色砂質土層(00YR2-3) 焼土粒子、白色粒子を多量に含む。  
 3層 黒褐色砂質土層(00YR3-3) 白色粒子、褐色砂質土ブロックを多く含む。

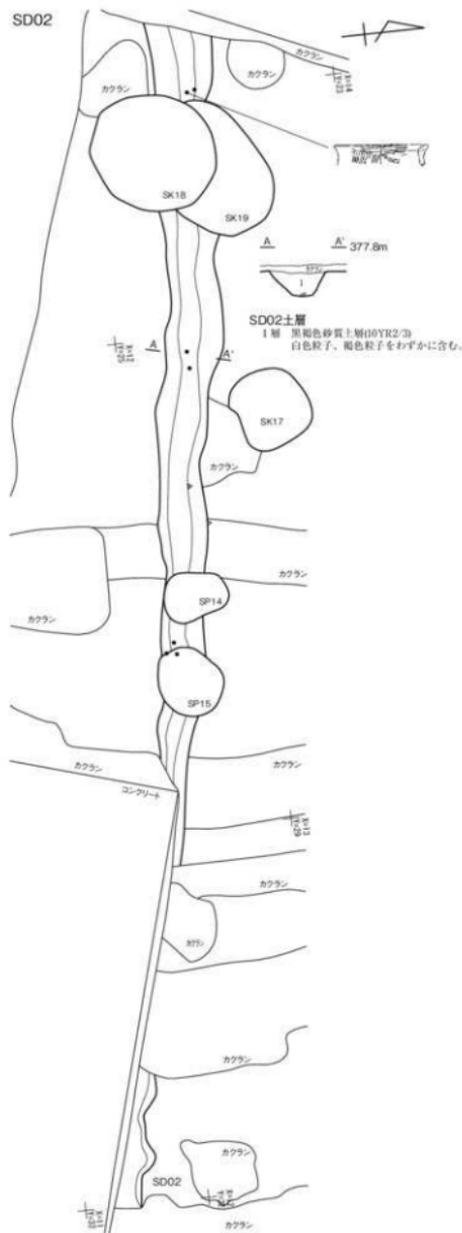
遺物出土状況



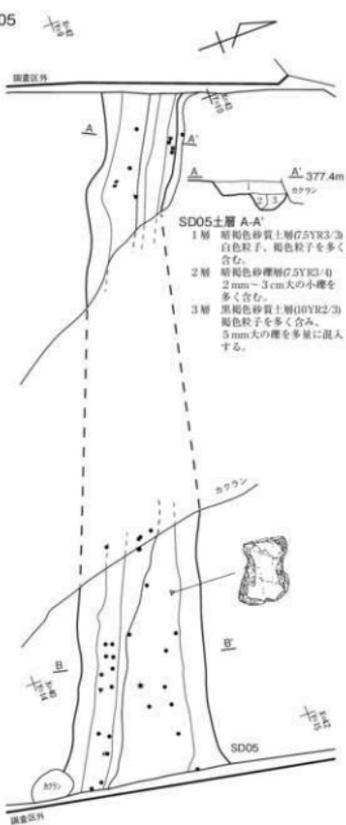
0 (1:40) 1m

第21図 SD01

SD02



SD05

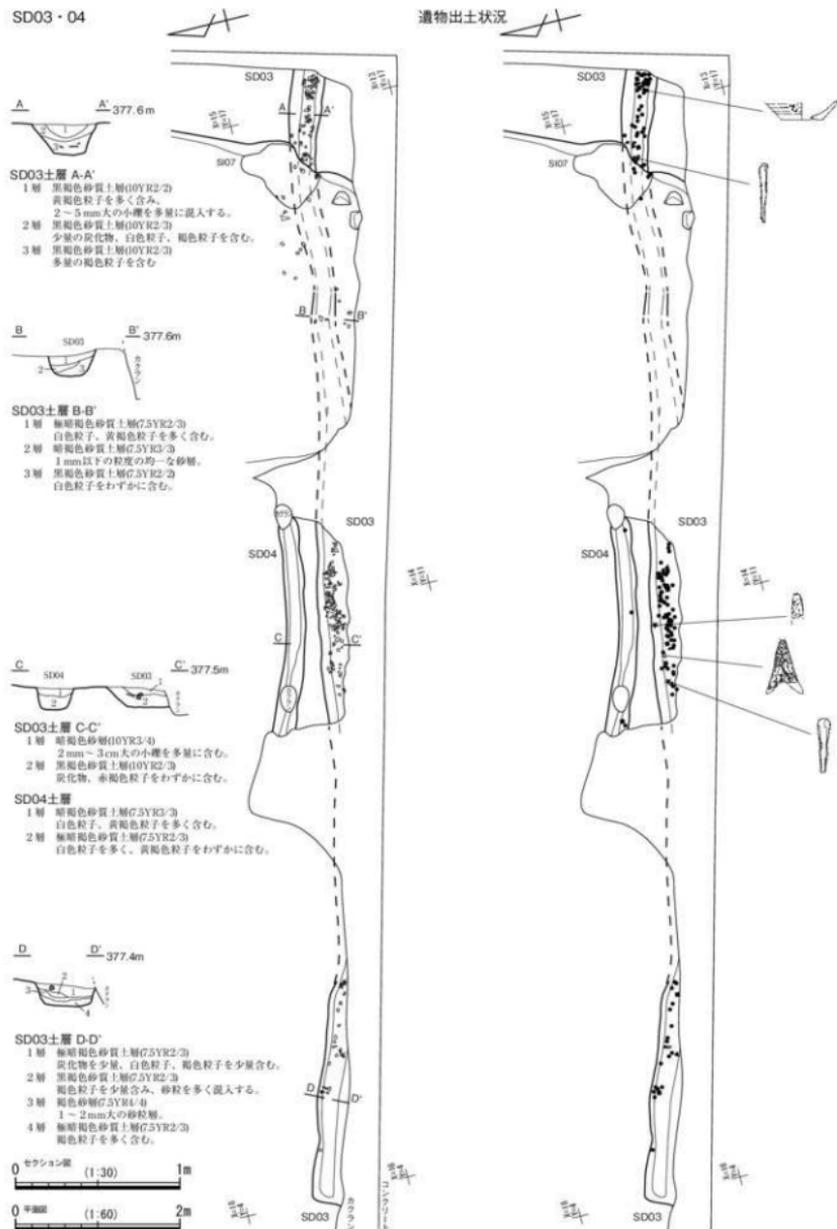


SD05土層 B-B'

- 1層 暗褐色砂質土層(7.5YR2/3)  
白色粒子、明褐色砂質土ブロックを少量含む。
- 2層 暗褐色砂質土層(7.5YR3/0)  
白色粒子、5mm大の花崗岩類風化層を含む。
- 3層 暗褐色砂質土層(7.5YR2/3)  
2~5mm大の花崗岩類風化層を多く含む。
- 4層 暗褐色砂質土層(7.5YR3/3)  
黄褐色粒子を多く含む。砂質がやや強い。
- 5層 褐色砂質土層(7.5YR4/0)  
白色粒子をわずかに含む。
- 6層 暗褐色砂質土層(10YR3/4)  
褐色砂質土ブロックを少量含む。
- 7層 暗褐色土層(7.5YR2/3)  
褐色土小ブロックを含む。粘性、しまり、ともにあり。
- 8層 暗褐色砂質土層(7.5YR3/0)  
層下に3mm~1cm大の円礫と土層小礫片を混入する。

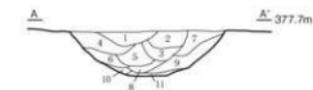
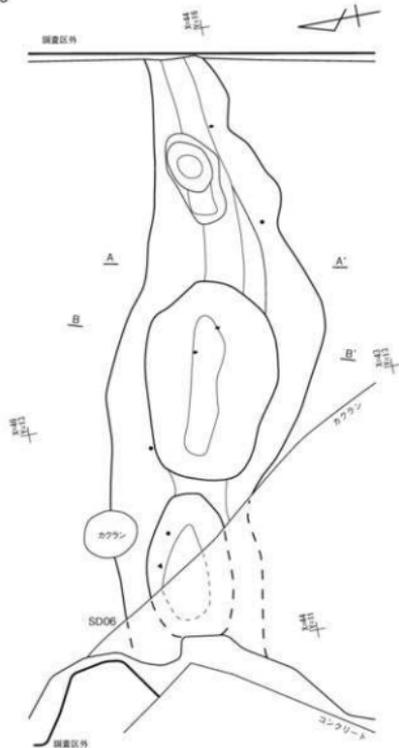
0 (1:40) 1m

第22図 SD02・05



第23図 SD03・04

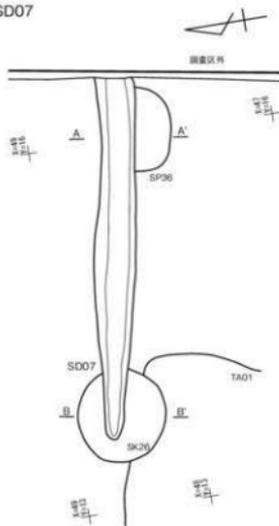
SD06



## SD06土層

- 1層 褐色砂質土層(G5YR4-2) 白色粒子を多量に、褐色粒子を少量含む。
- 2層 暗褐色砂質土層(G0YR3-2) 赤褐色粒子を少量、白色粒子を多く含む。
- 3層 暗褐色砂質土層(G5YR3-2) 炭化物を少量含む。1~5mm大の白色砂礫を多量に混入する。
- 4層 黒褐色砂質土層(G0YR2-2) 炭化物を少量、褐色砂質土ブロックをわずかに含む。
- 5層 無暗褐色砂質土層(G5YR2-2) 炭化物を少量、褐色砂粒を多く含む。
- 6層 暗褐色砂質土層(G5YR3-4) 白色粒子を少量、褐色砂質土ブロックを多量に含む。
- 7層 暗褐色砂質土層(G0YR2-2) 白色粒子を少量含む。
- 8層 暗褐色砂質土層(G5YR3-2) 2mm大の砂粒を多く含む。
- 9層 暗褐色砂質土層(G5YR3-4) 褐色砂質土ブロックを多く含む。
- 10層 暗褐色砂質土層(G5YR3-4) 白色砂粒を多く含む。
- 11層 灰褐色砂層(G5YR5-2) 1~2mm大の砂粒の純層。

SD07



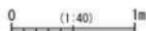
## SD07土層 A-A'

- 1層 黒褐色砂質土層(G0YR2-2) 白色粒子、褐色粒子を多く含む。



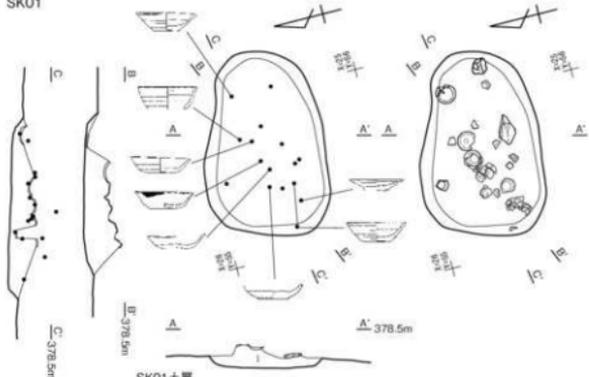
## SD07土層 B-B'

- 1層 黒褐色砂質土層(G0YR2-2) 白色粒子、褐色粒子を多く含む。



第24図 SD06・07

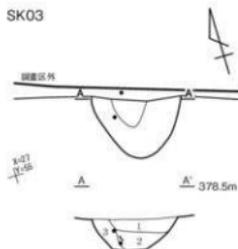
SK01



SK01土層

1層 黒褐色砂質土層(0YR2/3) 白色粒子, 褐色粒子を多く含む。

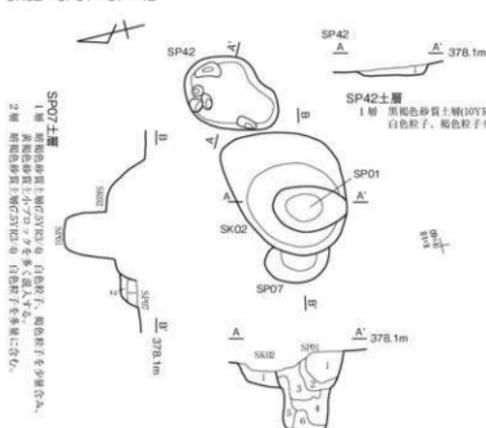
SK03



SK03土層

1層 黒褐色砂質土層(5YR2/3) 白色粒子を少量, 褐色粒子を多く含む。  
 2層 黒褐色砂質土層(10YR2/3) 黒褐色砂質土ブロックを多く含む。  
 3層 暗褐色砂質土層(7.5YR3/4) 褐色粒子を多く含む。

SK02・SP01・07・42

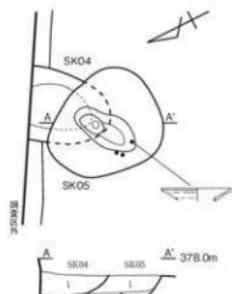


SP07土層  
 1層 黒褐色砂質土層(5YR2/3) 白色粒子, 褐色粒子を少量含む。  
 2層 暗褐色砂質土層(5YR3/4) 白色粒子を多く含む。

SP42土層

1層 黒褐色砂質土層(10YR2/3) 白色粒子, 褐色粒子を多く含む。

SK04・05



SK04土層

1層 黒褐色砂質土層(10YR2/3) 白色粒子, 褐色砂質土ブロックを多量に含む。

SK05土層

1層 暗褐色砂質土層(7.5YR2/3) 白色粒子, 褐色砂質土ブロック, 黒色土ブロックを多く含む。  
 2層 暗褐色砂質土層(7.5YR3/4) 褐色砂質土小ブロックを多く含む。

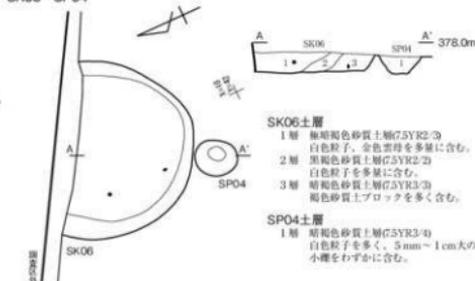
SK02土層

1層 暗褐色砂質土層(7.5YR3/4) 粘土粒子, 白色粒子を多く含む。褐色砂質土ブロックを多く混入する。

SP01土層

1層 暗褐色砂質土層(7.5YR2/3) 炭化物を少量, 白色粒子, 褐色砂質土ブロック多く含む。  
 2層 暗褐色砂質土層(7.5YR3/4) 褐色砂質土をわずかに含む。  
 3層 暗褐色砂質土層(7.5YR2/3) 白色粒子, 黒褐色粒子を多く含む。褐色砂質土ブロックを少量含む。  
 4層 褐色砂質土層(7.5YR4/4) 炭化物, 白色粒子をわずかに, 黒褐色土ブロックを多く含む。  
 5層 褐色砂質土層(7.5YR4/4) 白色粒子を多く含む。  
 6層 褐色砂質土層(10YR4/4) 金色雲母を多く含む。

SK06・SP04

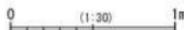


SK06土層

1層 暗褐色砂質土層(7.5YR2/3) 白色粒子, 金色雲母を多量に含む。  
 2層 黒褐色砂質土層(5YR2/2) 白色粒子を多量に含む。  
 3層 暗褐色砂質土層(7.5YR3/3) 褐色砂質土ブロックを多く含む。

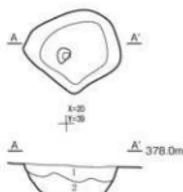
SP04土層

1層 暗褐色砂質土層(7.5YR3/4) 白色粒子を多く, 5mm~1cm大の小礫をわずかに含む。



第25図 SK・SP (1)

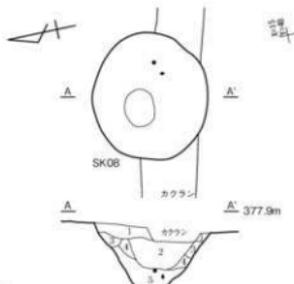
SK07



## SK07土層

- 1層 暗褐色砂質土層(GYR2-3) 白色粒子を多量に、褐色粒子をわずかに含み、褐色砂質土ブロックを多く混入する。
- 2層 暗褐色砂質土層(GYR3-3) 白色粒子を少量、褐色砂質土ブロックを多量に含む。

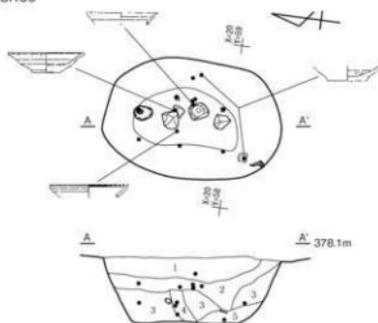
SK08



## SK08土層

- 1層 暗褐色砂質土層(GYR2-3) 白色粒子を多量に、赤褐色粒子をわずかに含む。
- 2層 暗褐色砂質土層(GYR2-3) 炭化物を少量、黄褐色粒子を多く含む。
- 3層 暗褐色砂質土層(GYR4-4) 白色粒子を多量に、黄褐色粒子をわずかに含む。
- 4層 暗褐色砂質土層(GYR3-4) 黄褐色粒子を多く、白色粒子をわずかに含む。
- 5層 暗褐色砂質土層(GYR3-3) 白色粒子を多く、褐色砂質土ブロックを少量含む。

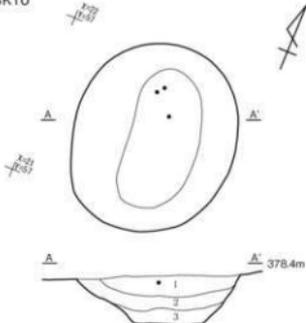
SK09



## SK09土層

- 1層 暗褐色砂質土層(GYR3-4) 白色粒子を多量に、黄褐色粒子を少量含む。
- 2層 暗褐色砂質土層(GYR2-3) 白色粒子を少量、褐色砂質土ブロックを多量に含む。
- 3層 暗褐色砂質土層(GYR2-3) 白色粒子を少量、褐色粒子を多量に含む。
- 4層 暗褐色砂質土層(GYR3-3) 白色粒子を多く含む。
- 5層 暗褐色砂質土層(GYR3-4) 褐色砂質土ブロックを多量に含む。

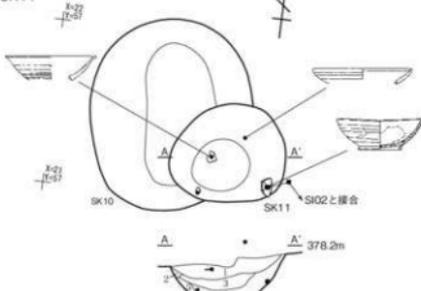
SK10



## SK10土層

- 1層 暗褐色砂質土層(GYR3-4) 白色粒子を多く、褐色粒子を少量含む。
- 2層 暗褐色砂質土層(GYR3-3) 白色粒子、金色雲母を多く含む。
- 3層 暗褐色砂質土層(GYR4-4) 赤褐色粒子、白色粒子、にんじり褐色粒子を少量含む。

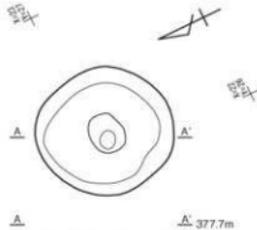
SK11



## SK11土層

- 1層 暗褐色砂質土層(GYR3-4) 炭化物、赤褐色粒子を少量、白色粒子を多量に含む。
- 2層 暗褐色砂質土層(GYR3-4) 白色粒子を多く含む。
- 3層 暗褐色砂質土層(GYR3-3) 白色粒子をわずかに含む。
- 4層 暗褐色砂質土層(GYR3-4) 褐色砂質土ブロックを多量に含む。
- 5層 暗褐色砂質土層(GYR3-4) 白色粒子、黄褐色粒子をわずかに含む。

SK12



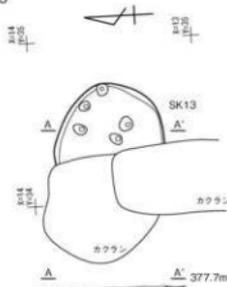
## SK12土層

- 1層 暗褐色砂質土層(GYR3-4) 赤褐色粒子、白色粒子を多く含む、花崗岩類炭化物を少量含む。



第26図 SK・SP (2)

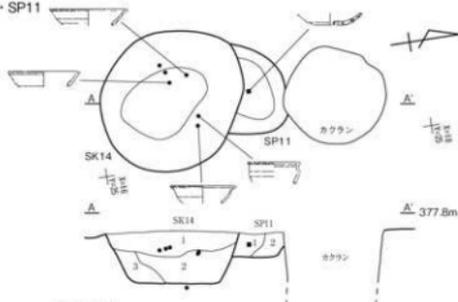
SK13



SK13土層

1層 黒褐色砂質土層(G5YR2/2) 赤褐色粒子、白色粒子を多く含む。

SK14・SP11



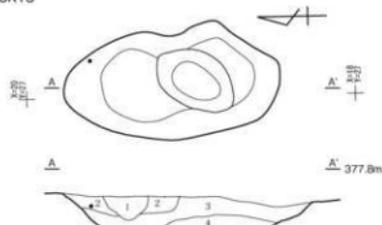
SK14土層

1層 黒褐色砂質土層(G5YR2/2) 炭化物、赤色粒子を少量、白色粒子を多量に含む。  
2層 黒褐色砂質土層(G5YR2/2) 赤色粒子を少量、暗褐色砂質土ブロックを多く含む。  
3層 暗褐色砂質土層(G5YR3/3) 黒褐色砂質土ブロックを多く含む。

SP11土層

1層 暗褐色砂質土層(G5YR3/3) 黄褐色粒子を少量含み、5mm大の小礫を多く混入する。  
2層 褐色砂質土層(G5YR4/4) 白色粒子を少量含む。

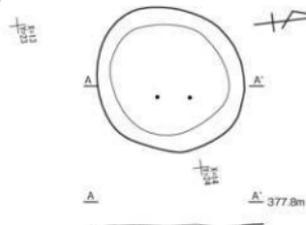
SK15



SK15土層

1層 黒褐色砂質土層(G5YR2/2) 白色粒子、金色雲母を多く含む、褐色砂質土ブロックを多く混入する。  
2層 暗褐色砂質土層(G5YR3/4) 白色粒子、褐色粒子を多く含む、暗褐色砂質土ブロックを多く混入する。  
3層 暗褐色砂質土層(G5YR3/4) 白色粒子を少量含む。  
4層 暗褐色砂質土層(G5YR3/3) 白色粒子、黄褐色粒子を多く含む。  
5層 暗褐色砂質土層(G5YR3/3) 白色粒子をわずかに含む。

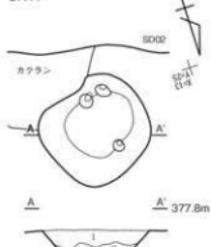
SK16



SK16土層

1層 黒褐色砂質土層(G5YR2/2) 炭化物を少量、黄褐色粒子を多く含む。  
2層 暗褐色砂質土層(G5YR2/2) 炭化物を少量、黄褐色粒子、金色雲母を多く含む。  
3層 暗褐色砂質土層(G5YR2/2) 褐色砂質土ブロックを多く含む。  
4層 暗褐色砂質土層(G5YR2/2) 褐色粒子を多く含む、5mm大の小礫を多く混入する。  
5層 暗褐色砂質土層(G5YR2/2) 褐色粒子を多く含む。

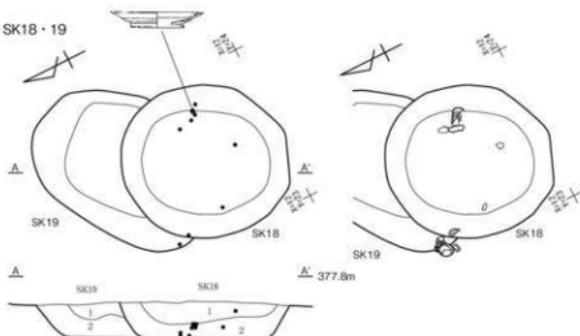
SK17



SK17土層

1層 黒褐色砂質土層(G5YR2/2) 白色粒子、褐色粒子を多く含む。  
2層 暗褐色砂質土層(G5YR3/4) 褐色粒子を多く含む。

SK18・19



SK18土層

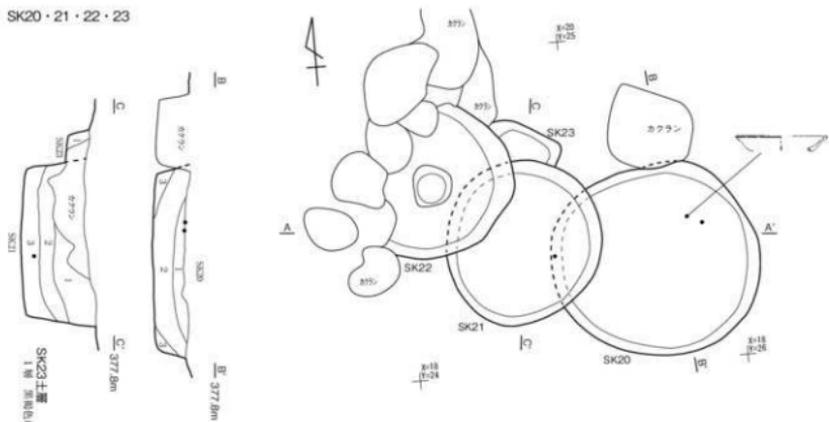
1層 黒褐色砂質土層(G5YR2/2) 多量の炭化物、白色粒子、少量の黄褐色粒子を含む。  
2層 暗褐色砂質土層(G5YR2/2) 褐色砂質土小ブロックを多く含む。

SK19土層

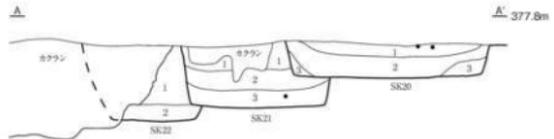
1層 暗褐色砂質土層(G5YR2/2) 白色粒子、花崗岩類風化礫を多く含む。  
2層 暗褐色砂質土層(G5YR2/2) 白色粒子を少量、褐色砂質土ブロックを多く含む。



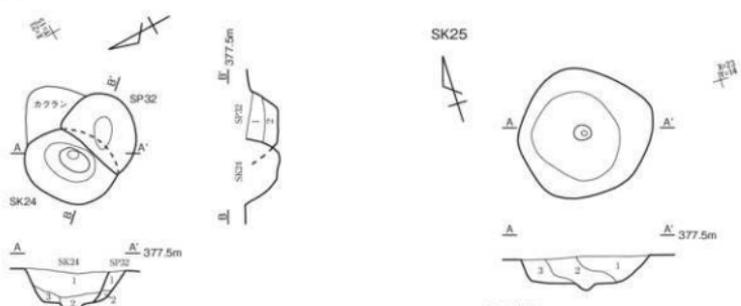
第27図 SK・SP (3)



SK23土層  
1層 黒褐色砂質土層(G5YR2-2) 褐色砂土を多量に含む。



- SK20土層**  
 1層 黒褐色砂質土層(G5YR2-2) 白色砂子、黄褐色砂子、5mm大の小礫を多く含む。  
 2層 黒褐色砂質土層(G10YR2-2) 白色砂子、黄褐色砂子を多く含む。  
 3層 黒褐色砂質土層(G5YR2-2) 赤褐色砂子、白色砂子、灰色雲母を少量含む。
- SK21土層**  
 1層 黒褐色砂質土層(G5YR2-2) 多くの白色砂子、褐色砂子を含み、花崗岩細風化層を混入する。  
 2層 黒褐色砂質土層(G5YR2-2) 少量の白色砂子、褐色砂子を含み、2-3mm大の礫を混入する。  
 3層 黒褐色砂質土層(G10YR2-2) 褐色砂子を多く、赤褐色砂子をわずかに含む。
- SK22土層**  
 1層 暗褐色砂質土層(G5YR2-3) 褐色砂子、2mm大の礫を多く含む。  
 2層 黒褐色砂質土層(G10YR2-2) 褐色砂子を多く含む。



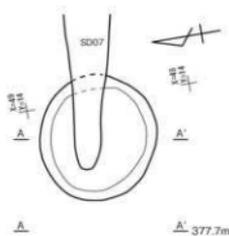
- SK24土層**  
 1層 暗褐色砂質土層(G5YR2-3) 褐色砂子、3mm大の小礫を多く含む。  
 2層 暗褐色砂質土層(G5YR3-4) 褐色砂子を少量含む。  
 3層 暗褐色砂質土層(G5YR3-2) 褐色砂子を多く含む。
- SP32土層**  
 1層 暗褐色砂質土層(G5YR3-4) 白色砂子を多く含み、褐色砂質土ブロックを混入する。  
 2層 暗褐色砂質土層(G5YR3-4) 白色砂子、褐色砂子を多く含む。

- SK25土層**  
 1層 暗褐色砂質土層(G5YR2-2) 白色砂子を多量に、暗褐色砂質土ブロックを多く含む。  
 2層 暗褐色砂質土層(G5YR2-2) 白色砂子を多量に含む。  
 3層 暗褐色砂質土層(G5YR3-3) 白色砂子を少量、褐色砂子を多く含む。



第28図 SK・SP (4)

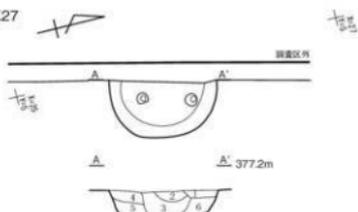
SK26



SK26土層

- 1層 暗褐色砂質土層(G5YR3/3) 炭化物、赤褐色粒子を少量、褐色粒子を多く含む。

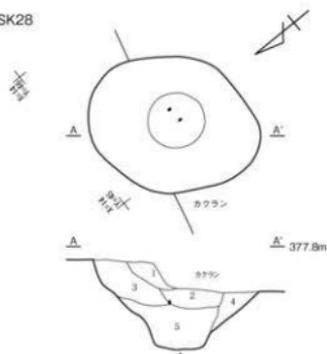
SK27



SK27土層

- 1層 暗褐色砂質土層(G5YR2/3) 白色粒子を多く、褐色粒子をわずかに含む。  
 2層 黒褐色砂質土層(G5YR2/2) 褐色粒子を多く含む。  
 3層 黒褐色砂質土層(G5YR2/2) 褐色粒子、黄褐色粒子を多く含む。  
 4層 暗褐色砂質土層(G5YR2/3) 褐色粒子を多く含む。  
 5層 暗褐色砂質土層(G5YR2/3) 白色粒子を多く含む。  
 6層 暗褐色砂質土層(G5YR2/3) 褐色粒子を多量に含む。

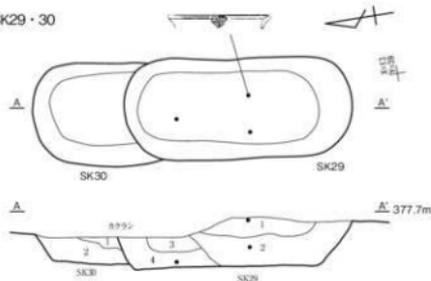
SK28



SK28土層

- 1層 暗褐色砂質土層(H0YR2/3) 少量の炭化物、多くの白色粒子、褐色粒子を含む。  
 2層 暗褐色砂質土層(G5YR2/3) 炭化物を微量に、白色粒子を多く含む。  
 3層 暗褐色砂質土層(G5YR2/2) 白色粒子を多く含む。  
 4層 暗褐色砂質土層(G5YR3/4) 炭化物を少量、白色粒子を多く含む。  
 5層 暗褐色砂質土層(G5YR3/3) 白色粒子、黄褐色粒子を少量含む。

SK29・30



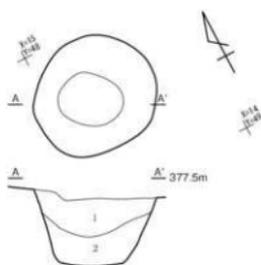
SK29土層

- 1層 暗褐色砂質土層(H0YR2/3) 赤褐色粒子、褐色粒子を少量含む。  
 2層 暗褐色砂質土層(G5YR2/2) 炭化物を少量、褐色粒子を多く含む。  
 3層 暗褐色砂質土層(G5YR2/2) 明褐色粒子を多く、花崗岩類炭化物を少量含む。  
 4層 暗褐色砂質土層(G5YR3/3) 褐色粒子、花崗岩類炭化物を少量含む。

SK30土層

- 1層 暗褐色砂質土層(G5YR2/3) 赤褐色粒子、褐色粒子を多く含む。  
 2層 暗褐色砂質土層(G5YR3/4) 褐色砂質土ブロックを多量に含む。

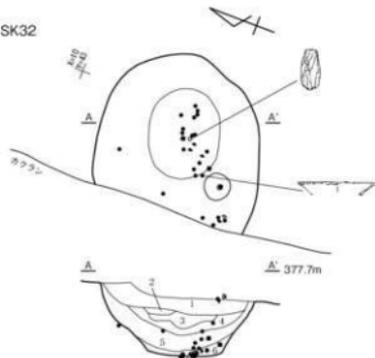
SK31



SK31土層

- 1層 暗褐色砂質土層(G5YR2/3) 炭化物を多く、花崗岩類炭化物を少量含む。  
 2層 暗褐色砂質土層(G5YR3/4) 褐色粒子を少量、白色粒子を多く含む。

SK32

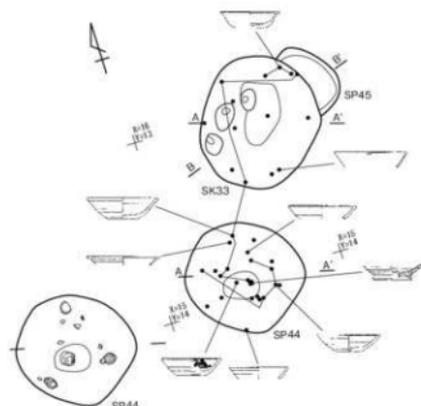


SK32土層

- 1層 暗褐色砂質土層(H0YR2/2) 赤褐色粒子、白色粒子を多く含む。  
 2層 暗褐色砂質土層(G5YR3/4) 褐色砂質土を多く含む。  
 3層 暗褐色砂質土層(G5YR3/4) 黒粒砂質。  
 4層 暗褐色砂質土層(G5YR3/3) 褐色粒子を多量に含む。  
 5層 暗褐色砂質土層(G5YR3/4) 白色粒子を多く含む。  
 6層 暗褐色砂質土層(G5YR2/2) 層下に2-3mm径の小礫を多く含む。

0 (1:30) 1m

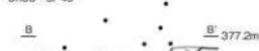
第29図 SK・SP (5)

SK33  
A  
A' 377.2m

SK33土層

- 1層 黒褐色砂質土層(0YR2/3)  
白色粒子を多く、黄褐色粒子を少量含む。
- 2層 暗褐色砂質土層(7.5YR2/3)  
褐色砂質土ブロックを多量に含む。
- 3層 黒褐色砂質土層(7.5YR3/3)  
炭化物、褐色砂質土ブロックを多く含む。
- 4層 褐色砂質土層(7.5YR4/4)  
褐色土ブロックを少量含む。

SK33・SP45



SP45土層

- 1層 黒褐色砂質土層(0YR2/3)  
白色粒子、褐色粒子を多く含む。

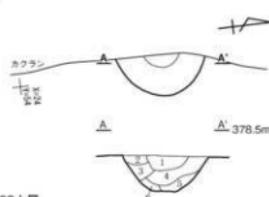
SP44



SP44土層

- 1層 極暗褐色砂質土層(7.5YR2/3)  
褐色粒子、黄褐色粒子を多く含む。
- 2層 黒褐色砂質土層(7.5YR3/3)  
褐色粒子、褐色砂質土ブロックを多く含む。
- 3層 暗褐色砂質土層(7.5YR5/6)  
炭化物、赤褐色粒子を多く含む。

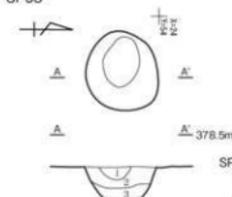
SP02



SP02土層

- 1層 黒褐色砂質土層(0YR2/3) 白色粒子、黄褐色粒子を多く含む。
- 2層 黒褐色砂質土層(0YR2/3) 白色粒子を多量に、褐色粒子を少量含む。
- 3層 褐色砂質土層(0YR4/6) 白色粒子、黄褐色粒子を多く含む。
- 4層 黒褐色砂質土層(0YR2/3) 白色粒子を多く含む、褐色土小ブロックを多く混入する。
- 5層 暗褐色砂質土層(0YR3/4) 褐色土小ブロックを少量含む。
- 6層 暗褐色砂質土層(7.5YR3/4) 褐色砂質土ブロックを多く含む。

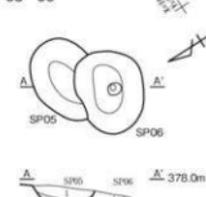
SP03



SP03土層

- 1層 黒褐色砂質土層(0YR2/3)  
白色粒子をわずかに含む。
- 2層 黒褐色砂質土層(0YR2/3)  
黄褐色土小ブロックを多く含む。
- 3層 黒褐色砂質土層(0YR2/3)  
褐色粒子を少量含む、褐色砂質土ブロックを多く混入する。
- 4層 暗褐色砂質土層(7.5YR3/4)  
褐色砂質土ブロックを多量に含む。

SP05・06



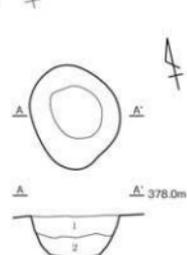
SP05土層

- 1層 黒褐色砂質土層(0YR2/3)  
白色粒子、黄褐色粒子を多く含む。  
5mm大の礫を少量混入する。
- 2層 暗褐色砂質土層(7.5YR3/4)  
白色粒子、金色雲母を多く含む。

SP06土層

- 1層 暗褐色砂質土層(7.5YR3/3)  
白色粒子をわずかに、褐色粒子を多く含む。
- 2層 褐色砂質土層(7.5YR4/6)  
白色粒子を少量含む、5mm大の礫を多く混入する。

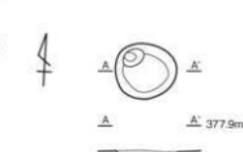
SP08



SP08土層

- 1層 暗褐色砂質土層(7.5YR3/4)  
白色粒子、5mm大の小礫を多量に含む。
- 2層 暗褐色砂質土層(7.5YR3/3)  
褐色砂質土ブロックを多く含む。

SP09



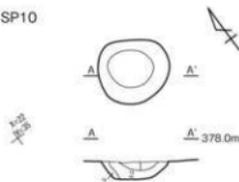
SP09土層

- 1層 極暗褐色砂質土層(7.5YR2/3)  
白色粒子を多く含む。



第30図 SK・SP (6)

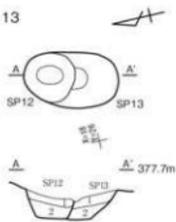
SP10



SP10土層

- 1層 暗褐色砂質土層(G5YR2/3) 白色粒子を多く含む。
- 2層 暗褐色砂質土層(G5YR2/4) 白色粒子を少量、褐色粒子を少量含む。
- 3層 黒褐色砂質土層(10YR2/3) 褐色粒子を多く含む。

SP12・13



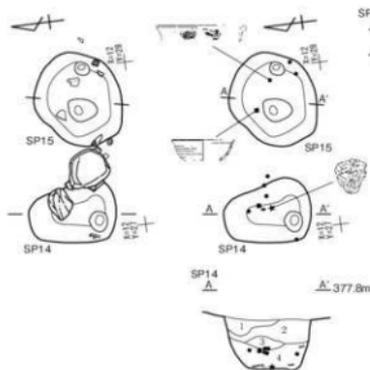
SP12土層

- 1層 暗褐色砂質土層(G5YR2/3) 白色粒子、褐色粒子を多く含む、褐色砂質土ブロックを少量混入する。
- 2層 黒褐色砂質土層(10YR2/3) 白色粒子を少量、褐色粒子を多く含む。

SP13土層

- 1層 暗褐色砂質土層(G5YR3/4) 赤褐色粒子を少量、褐色粒子を多く含む。
- 2層 暗褐色砂質土層(G5YR3/3) 白色粒子を多く含む。

SP14・15



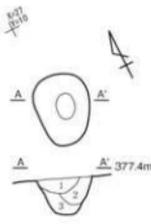
SP15土層

- 1層 暗褐色砂質土層(G5YR3/3) 白色粒子を多く含む。
- 2層 暗褐色砂質土層(G5YR2/3) 褐色粒子を多く、赤褐色粒子をわずかに含む。
- 3層 褐色砂質土層(G5YR4/3) 白色粒子、灰色雲母を少量含む。
- 4層 褐色砂質土層(G5YR4/4) 褐色粒子を多く含む。

SP14土層

- 1層 暗褐色砂質土層(G5YR3/3) 褐色粒子を多く含む。
- 2層 暗褐色砂質土層(G5YR2/3) 炭化物を多く含む。
- 3層 細かい褐色砂質土層(G5YR5/3) 粒度2mm以下で、層下位には5mmほどの小礫を含む。
- 4層 暗褐色砂質土層(G5YR2/3) 少量の炭化物、多くの褐色粒子を含む。

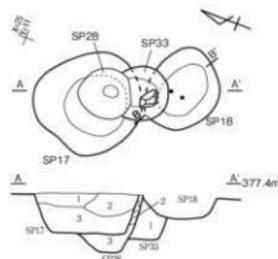
SP16



SP16土層

- 1層 黒褐色砂質土層(10YR2/3) 白色粒子を多く含む、褐色砂質土ブロックをわずかに混入する。
- 2層 暗褐色砂質土層(G5YR2/3) 黒色粒子、褐色砂質土ブロックを少量含む。
- 3層 暗褐色砂質土層(G5YR3/4) 白色粒子、灰色雲母を多く含む。

SP17・18・28・33



SP18土層

- 1層 暗褐色砂質土層(G5YR3/4) 炭化物、白色粒子を多く含む。
- 2層 暗褐色砂質土層(G5YR2/3) 白色粒子を少量、褐色粒子を多く含む。

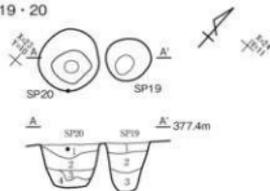
SP28土層

- 1層 暗褐色砂質土層(G5YR3/4) 白色粒子を少量に含み、2~5mm大の礫を多く混入する。
- 2層 暗褐色砂質土層(G5YR3/3) 白色粒子、褐色粒子をわずかに含む。
- 3層 黒褐色砂質土層(G5YR2/3) 白色粒子をわずかに含む。

SP33土層

- 1層 暗褐色砂質土層(G5YR2/3) 白色粒子を多く含む、褐色砂質土ブロックを混入する。強くしまる。

SP19・20



SP19土層

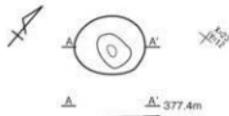
- 1層 黒褐色砂質土層(10YR2/3) 炭化物を少量、赤褐色粒子を多く含む。
- 2層 暗褐色砂質土層(G5YR2/3) 褐色粒子、1cm大の礫を少量含む。
- 3層 暗褐色砂質土層(G5YR3/3) 褐色砂質土ブロックを含む。

SP20土層

- 1層 暗褐色砂質土層(G5YR2/3) 炭化物、赤褐色粒子、白色粒子を多く含む。
- 2層 黒褐色砂質土層(G5YR2/3) 褐色砂質土ブロックを多く含む。
- 3層 黒褐色砂質土層(10YR2/2) 褐色砂質土ブロック、灰色雲母を多く含む。
- 4層 褐色砂質土層(G5YR4/4) 灰色雲母を多く含む。

第31図 SK・SP (7)

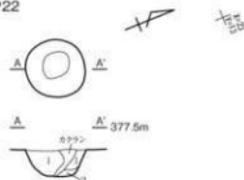
SP21



SP21土層

- 1層 黒褐色砂質土層(GYR2-2) 白色粒子を多く含む。褐色砂質土ブロックを少量含む。
- 2層 黒褐色砂質土層(GYR2-2) 白色粒子、褐色粒子を多く含む。
- 3層 黒褐色砂質土層(GYR2-2) 褐色砂質土ブロックを多く含む。

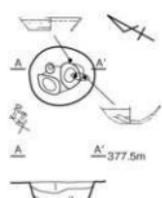
SP22



SP22土層

- 1層 黒褐色砂質土層(GYR2-2) 白色粒子、褐色砂質土ブロックを多く含む。
- 2層 黒褐色砂質土層(GYR3-0) 褐色粒子を多く含む。

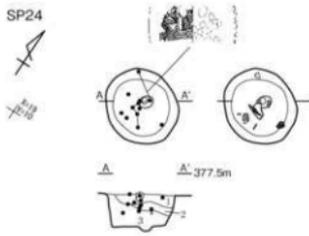
SP23



SP23土層

- 1層 黒褐色砂質土層(GYR2-2) 炭化物、白色粒子を多量に含む。
- 2層 黒褐色砂質土層(OYR2-2) 白色粒子、褐色粒子を少量含む。
- 3層 褐色砂質土層(GYR4-2) 白色粒子をわずかに含む。

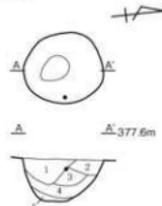
SP24



SP24土層

- 1層 黒褐色砂質土層(OYR2-2) 赤褐色粒子を少量、白色粒子を多量に含む。
- 2層 黒褐色砂質土層(GYR3-0) 褐色粒子を少量、花崗岩型風化層を多量に含む。非常に強くなる。
- 3層 黒褐色砂質土層(GYR2-2) 褐色粒子を少量含む。

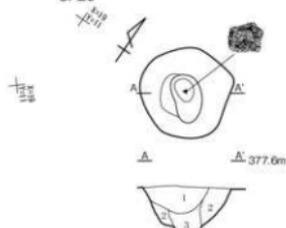
SP25



SP25土層

- 1層 黒褐色砂質土層(GYR2-2) 炭化物を少量、白色粒子、花崗岩風化層を多く含む。
- 2層 黒褐色砂質土層(GYR3-2) 赤褐色粒子を少量、白色粒子を多く含む。
- 3層 黒褐色砂質土層(OYR2-2) 白色粒子を少量含む。
- 4層 黒褐色砂質土層(GYR2-2) 白色粒子、褐色粒子を少量含む。
- 5層 黒褐色砂質土層(OYR2-2) 褐色粒子を多く含む。

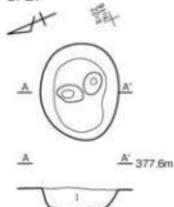
SP26



SP26土層

- 1層 黒褐色砂質土層(GYR2-2) 塊状粒子、炭化物を多く、白色粒子をわずかに含む。
- 2層 黒褐色砂質土層(GYR2-2) 炭化物を少量、白色粒子を多く含む。
- 3層 黒褐色砂質土層(OYR2-2) 白色粒子、褐色砂質土ブロックを少量含む。

SP27



SP27土層

- 1層 黒褐色砂質土層(OYR2-2) 褐色粒子を多量に含む。

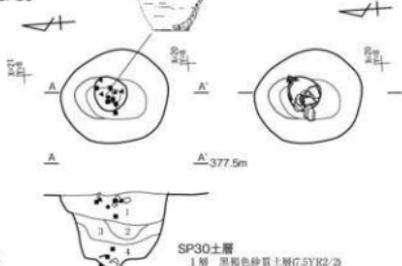
SP29



SP29土層

- 1層 黒褐色砂質土層(OYR2-2) 炭化物を少量、白色粒子、褐色粒子を多く含む。
- 2層 黒褐色砂質土層(GYR2-2) 白色粒子、にんじん色粒子を多く含む。
- 3層 黒褐色砂質土層(GYR2-2) 白色粒子、金色雲母を多く含む。
- 4層 黒褐色砂質土層(GYR2-2) 白色粒子を少量、褐色砂質土ブロックを多く含む。

SP30

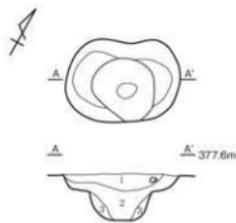


SP30土層

- 1層 黒褐色砂質土層(GYR2-2) 炭化物を多量に、白色粒子、褐色粒子を多量含む。
- 2層 黒褐色砂質土層(GYR2-2) 褐色粒子を少量含む。
- 3層 黒褐色砂質土層(GYR3-0) 白色粒子、褐色粒子を少量含む。
- 4層 黒褐色砂質土層(GYR2-2) 白色粒子、金色雲母を多く含む。

0 (1:30) 1m

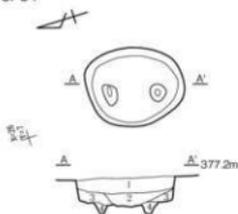
第32図 SK・SP(8)

SP31 1000  
1000

## SP31土層

- 1層 黒褐色砂質土層(G5YR2/3)  
白色粒子、褐色砂質土ブロックを多く含む。
- 2層 暗褐色砂質土層(G5YR3/3)  
褐色粒子を多量に含む。
- 3層 暗褐色砂質土層(G5YR3/4)  
白色粒子を少量含む。

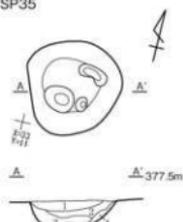
SP34



## SP34土層

- 1層 黒褐色砂質土層(10YR2/3)  
白色粒子、褐色粒子を少量含む、褐色砂質土ブロックを多く混入する。
- 2層 暗褐色砂質土層(G5YR2/4)  
白色粒子を少量、褐色粒子を多く含む。
- 3層 暗褐色砂質土層(G5YR2/3)  
褐色粒子を多く含む。
- 4層 暗褐色砂質土層(G5YR2/3)  
白色粒子、褐色粒子を多く含む。

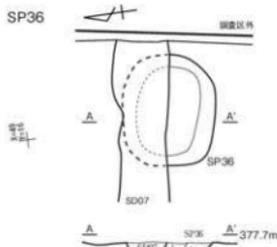
SP35



## SP35土層

- 1層 暗褐色砂質土層(G5YR3/3)  
炭化物を少量、赤褐色粒子、白色粒子をわずかに含む。
- 2層 暗褐色砂質土層(G5YR2/3)  
炭化物を少量、褐色粒子を多く含む。
- 3層 暗褐色砂質土層(G5YR3/3)  
褐色粒子、褐色砂質土ブロックを多く含む。
- 4層 暗褐色砂質土層(G5YR3/4)  
白色粒子をわずかに含む。

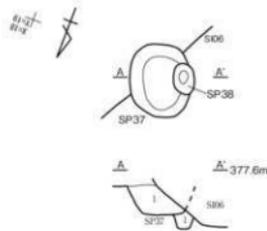
SP36



## SP36土層

- 1層 暗褐色砂質土層(G5YR2/3)  
少量の炭化物、多くの白色粒子、褐色粒子を含む。
- 2層 黒褐色土層(10YR2/3)  
暗褐色砂質土ブロックを多量に含む。

SP37・38



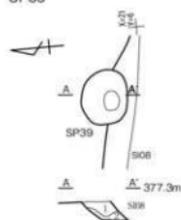
## SP37土層

- 1層 暗褐色砂質土層(10YR2/3)  
炭化物を少量、白色粒子、褐色粒子を多く含む。

## SP38土層

- 1層 暗褐色砂質土層(10YR2/3)  
白色粒子、褐色粒子を多く含む。

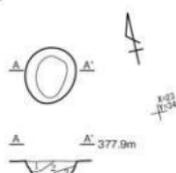
SP39



## SP39土層

- 1層 暗褐色砂質土層(G5YR2/3)  
赤褐色粒子を多く、白色粒子を少量含む。
- 2層 暗褐色砂質土層(G5YR3/4)  
白色粒子を少量含む。

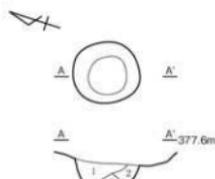
SP40



## SP40土層

- 1層 暗褐色砂質土層(G5YR3/4)  
褐色粒子を多く含む。
- 2層 暗褐色砂質土層(G5YR2/3)  
褐色粒子、花崗片炭化物を多く含む。
- 3層 暗褐色砂質土層(10YR2/3)  
褐色粒子を多量に含む。

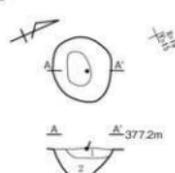
SP41



## SP41土層

- 1層 暗褐色砂質土層(G5YR2/3)  
暗褐色砂質土ブロックを多く含む。
- 2層 暗褐色砂質土層(G5YR3/4)  
白色粒子を少量含む。
- 3層 暗褐色砂質土層(G5YR4/3)  
白色粒子をわずかに含む。

SP43

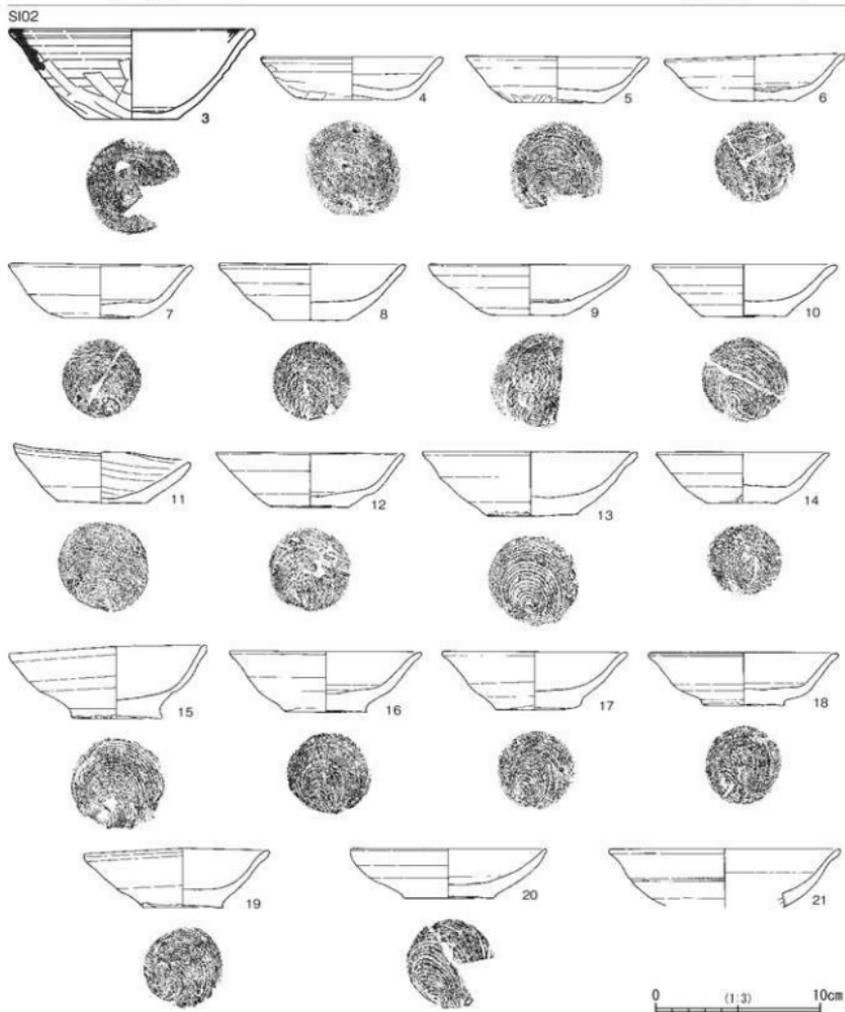
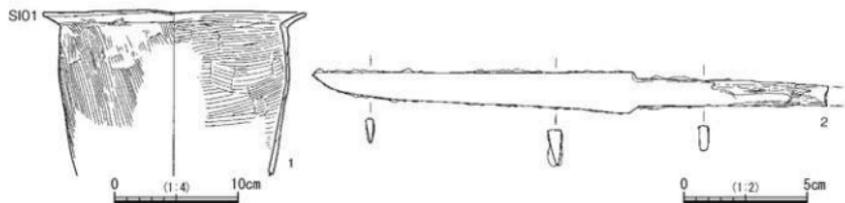


## SP43土層

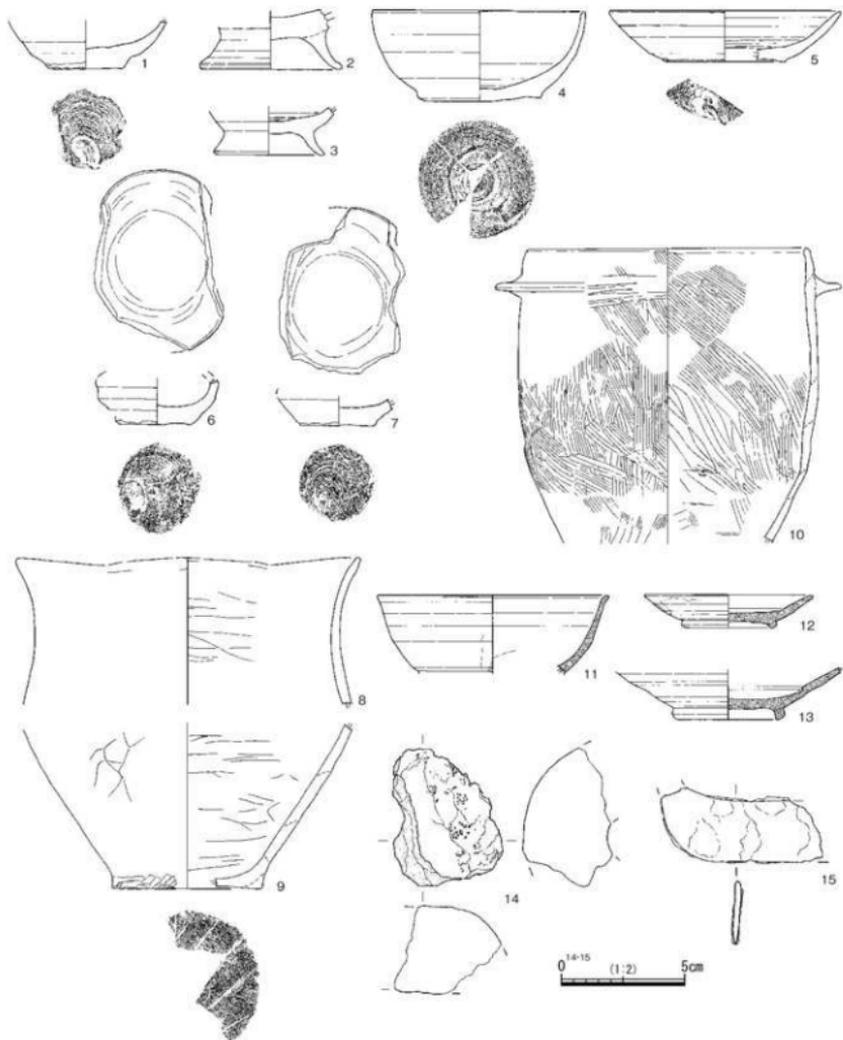
- 1層 暗褐色砂質土層(G5YR2/3)  
白色粒子、褐色砂質土ブロックを多く含む。
- 2層 暗褐色砂質土層(G5YR3/3)  
褐色粒子、褐色砂質土ブロックを多量に含む。



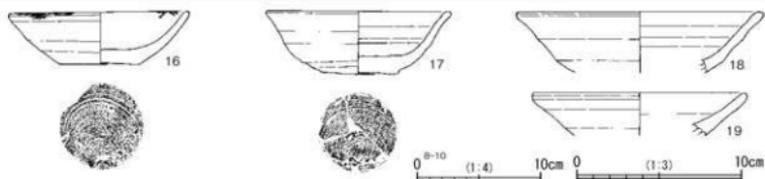
第33図 SK・SP (9)



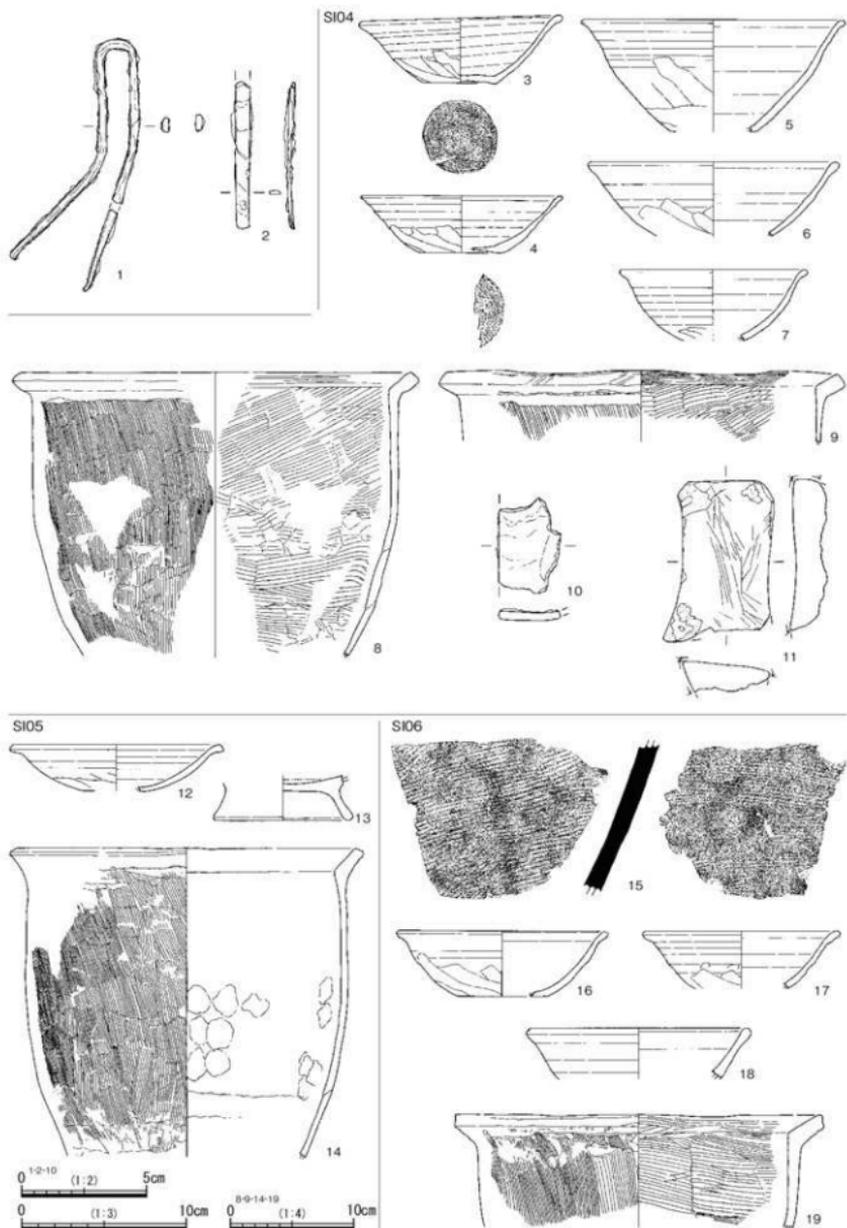
第34図 出土遺物 (1)



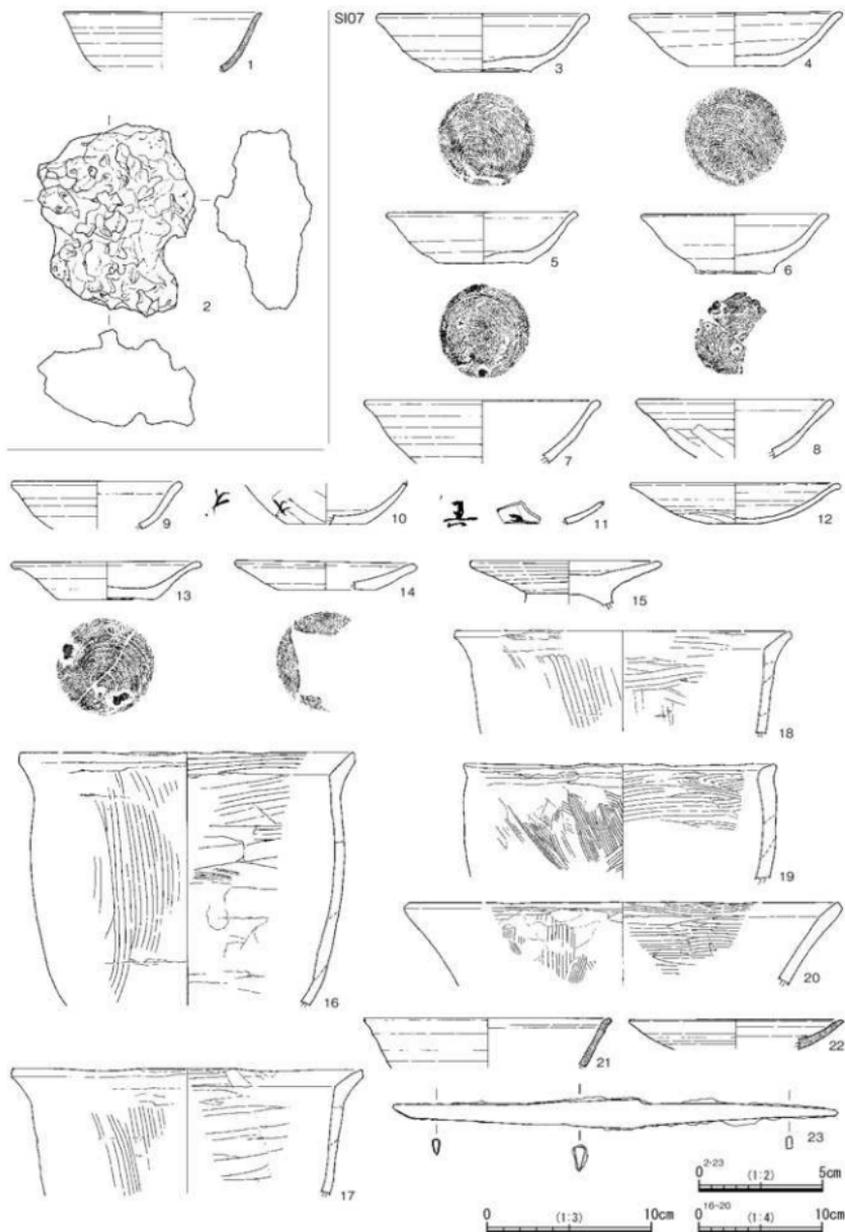
SI03



第35図 出土遺物 (2)

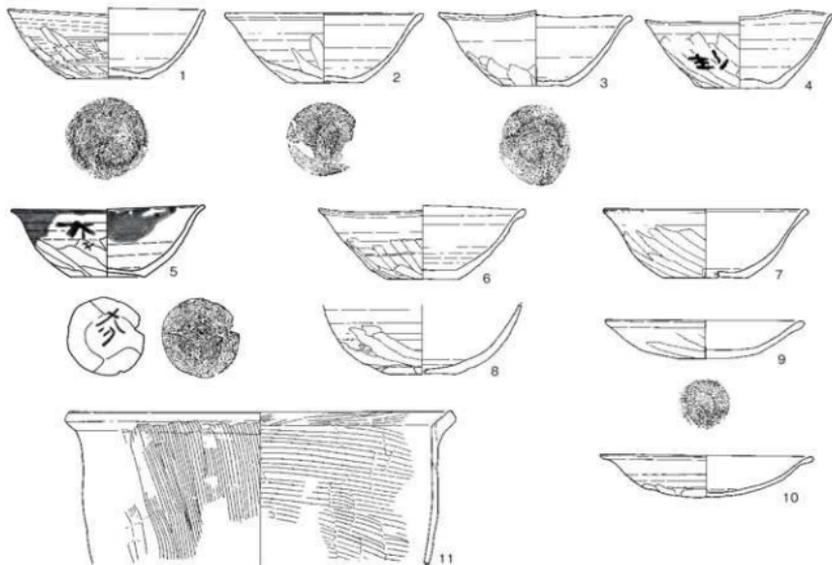


第36図 出土遺物 (3)

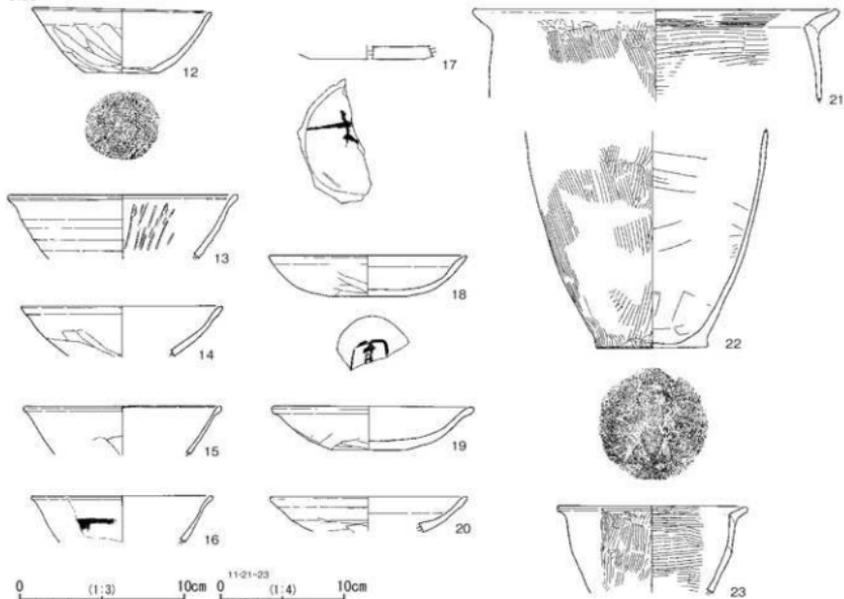


第37図 出土遺物(4)

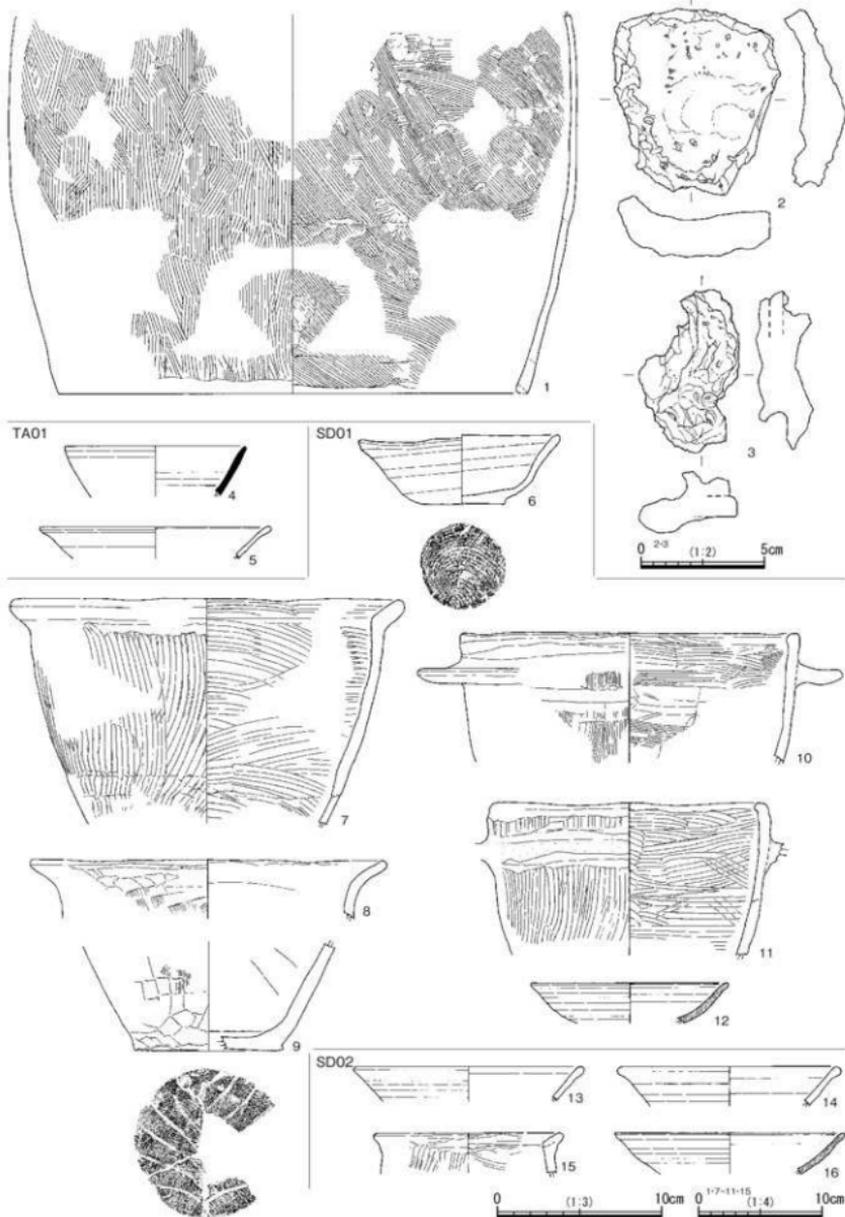
SI08



SI09

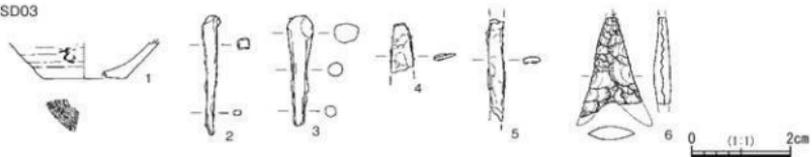


第38図 出土遺物 (5)

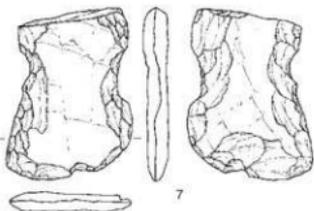


第39回 出土遺物 (6)

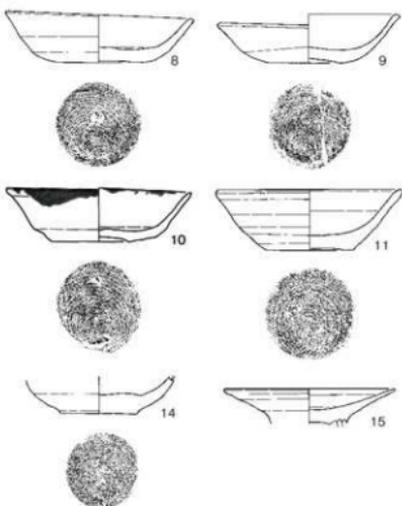
SD03



SD05



SK01



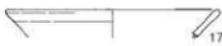
SK05



SK09



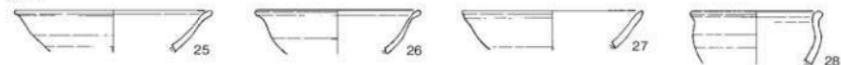
SK08



SK11

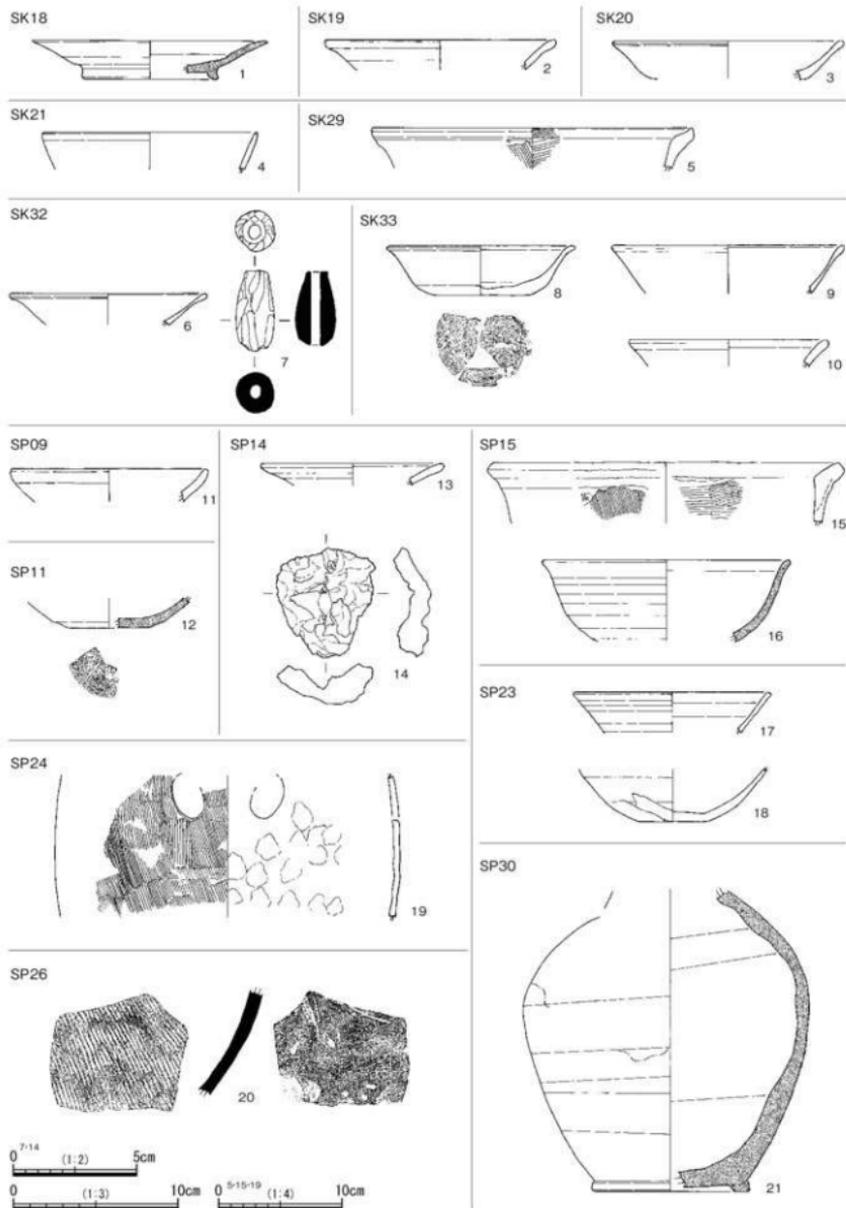


SK14



0 2-5.7 (1:2) 5cm 0 (1:3) 10cm

第40図 出土遺物 (7)

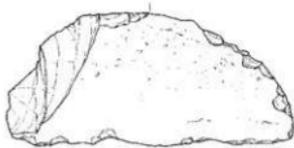
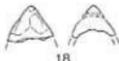
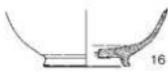
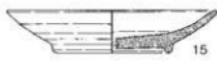
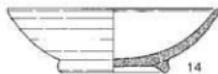
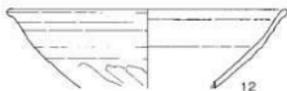
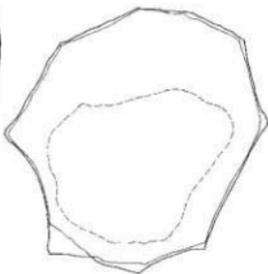
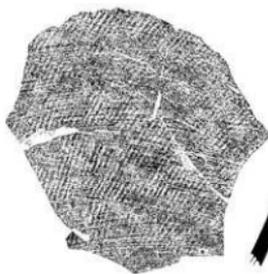


第41図 出土遺物 (8)

SP44



遺構外



0 17-19 (1:2) 5cm

0 (1:3) 10cm

第42図 出土遺物 (9)

## 第4章 総括

### 第1節 発見された遺構について

今回の発掘調査によって、竪穴住居9棟、竪穴状遺構1棟、溝跡7条、土坑3基、ピット45基を検出した。

各遺構の概要については、前章において述べたが、ここでは発掘調査によって明らかとなった遺構のあり方について、みていきたい。

検出された遺構は、出土した遺物により10世紀前半代と10世紀後半代、10世紀末から11世紀前半代に属するものに分けることができる。

- ・10世紀前半代 SI04・05・06・08・09
- ・10世紀後半代 SI01・02・03・07、TA01、SD02、SK09・11・14・32・33
- ・10世紀末から11世紀前半代 SD01、SK01、SP44以上のように、整理できる。

10世紀前半代の遺構は、SI05を除いて調査区西側に多くが分布する傾向にある。一方、10世紀後半代になると、遺構は調査区全体に広がりを見せる。10世紀末から11世紀前半代と断定できる遺構はごくわずかで、3遺構を認めるに過ぎず、分布に集中傾向は認められない。

本調査区の南側に隣接し、本調査に先立って発掘調査が実施された市道下塩後22号線建設に伴う発掘調査(以下、市道地区とする)では、9世紀末から11世紀前半代の遺構が検出されている。本調査区の成果と、市道地区の調査成果を合わせたものが第43図である。

第43図は、9世紀後半から11世紀代までを調査成果をもとに4時期に分け、遺構の変遷を追ったものである。

両調査区において、縄文時代の遺物の出土はあるものの、9世紀前半以前の遺構は確認できておらず、両調査区の集落形成は平安時代後期になってからといえよう。ただし、遺跡西側を流れる千赤於川を挟んで隣接する后畑遺跡においては、3世紀後半代と8世紀後半代の竪穴が発見されている。

9世紀後半代に比定できるのは、市道地区西端に位置する6号竪穴のみである(第43図1)。

10世紀前半代になると、急激に両調査区内には多くの遺構が認められるようになる。遺構分布に遍在性は認められず、両調査区全体に広がりをみせている(第43図2)。

10世紀後半代においても多くの遺構が検出されている。市道地区中央よりやや西側に遺構分布の中心が認められ、東側においては遺構が認められずやや偏在傾

向にあるともいえるが、本調査区の1区東端においてもまとまりがみられることから、10世紀前半代と変わらず、両調査区全体に分布していると捉えることが出来よう(第43図3)。

10世紀末から11世紀前半代の遺構は、その数を急激に減らし、両調査区のほぼ中央付近に竪穴、溝などのまとまりがみられるだけとなる(第43図4)。

本調査区東側の塩山東バイパスの発掘調査では、縄文時代前期・中期および古墳時代前期末の住居跡が確認されているが、ふたたび集落が形成されるのは9世紀前半代になってからのことである。9世紀後半代にも遺構はみられるものの、わずかに1軒程度の確認に留まっている。10世紀前半以降は遺構数が増加傾向にあり、先にみた両調査区の様相と同様である。塩山東バイパス地点では、本調査区東側において10世紀前半代の遺構もみられるものの、11世紀後半から12世紀代の住居跡も数軒確認されており、本調査区、市道地区の様相とは異なるものである。塩山東バイパス地点北側に位置する影井遺跡の発掘調査では、平安時代の住居跡3軒が検出されているが、いずれも11世紀後半代に比定されるものである。

本調査区周辺においては、11世紀代以降、集落の中心は本調査区東側および北側へ移動していることも想定されよう。

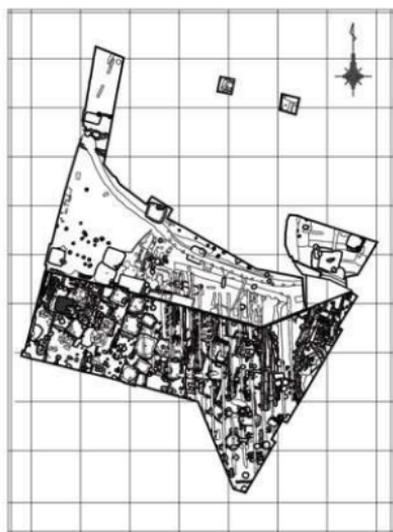
時期変遷とともに遺構の特徴に変化がみられるのか、みていくこととする。

両調査区において、遺構の軸はN-22°-E(N-68°-W)が平均値となる。

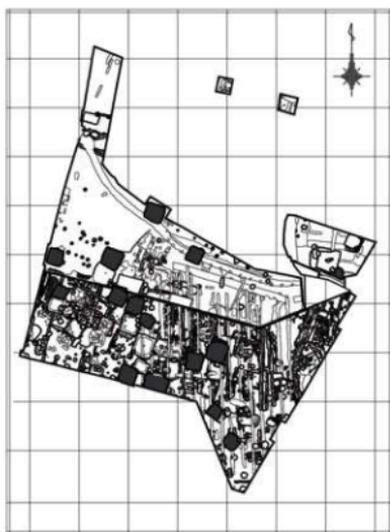
9世紀後半代の竪穴は市道地区6壁の1棟のみであるが、軸はN-20°-E(N-70°-W)に採り、カマドは東壁の中央よりやや南に設置している。

10世紀前半代に属する遺構は、14棟である。軸の平均はN-26°-E(N-64°-W)となり前代よりやや西へ振れるようになる。本期のうちカマド位置が明らかなのは13棟である。北壁のうち中央に位置するもの2棟、やや東寄りに位置するもの2棟、東壁のうち中央に位置するもの1棟、やや南寄りに位置するもの2棟、北東隅に位置するもの2棟、南東隅に位置するもの4棟となり、10世紀前半においては東壁を中心としてカマドが設置されていることが分かる。

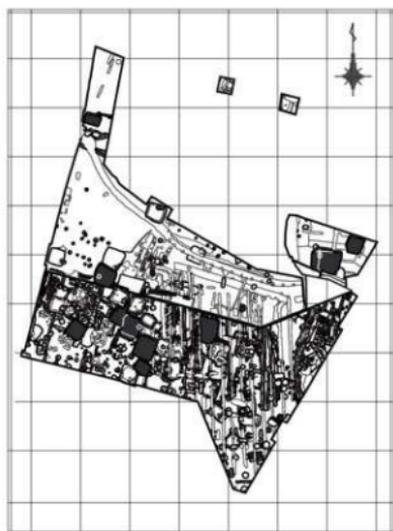
10世紀後半代に属する12棟の竪穴は、軸の平均をN-20°-E(N-70°-W)に採り、前代よりやや東へ振れる。本期に属する竪穴のうちカマド位置が明らか



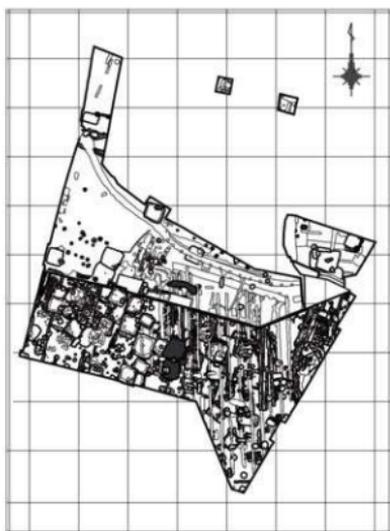
1. 9世紀後半代



2. 10世紀前半代



3. 10世紀後半代



4. 10世紀末～11世紀前半代

0 (1:1,000) 50m

第43図 大木戸遺跡遺構変遷図

ものは9棟あり、東壁のうち中央よりやや北寄りに設置するものが1棟、やや南寄りに設置するものが2棟みられる。また、北東隅に設置するものが2棟、南東隅に設置するものが4棟となり、前代同様、東壁を中心としてカマドが設置されているが、隅付近に設けられるものが半数を占めるようになるのは大きな変化といえよう。

10世紀末以降の資料には恵まれず、2棟のみを確認しているが、主軸の平均をN-17°Eに採るが、2棟はそれぞれN-30°E、N-4°Eに主軸を採り、両遺構の主軸に大きな隔りがあるため、参考にはならない。2棟のうち、1棟のみカマドの位置が明らかであるが、東壁の中央よりやや南側に設置されている。

以上、遺構の時期別の特徴を抽出しようとしたが、10世紀前半と10世紀後半の遺構にそれほどの差異を認めることは出来なかった。主軸については、10世紀前半代に比して後半代がやや西に振れるが、10世紀前半代においても28°や30°のように40°ほど西に大きく振れるものも存在し、10世紀後半代においてもSI02・03のように6°とほぼ南北(東西)に主軸を採る遺構もみられ、厳密な意味での企画性を認めることはできない。

カマド位置は、確認されたすべてが東壁ないし北壁を中心として構築されている。10世紀前半代には北壁中央ないしやや東寄りに設置するものが4棟みられるが、後半代には皆無となる。また、10世紀前半代には遺構隅にカマドが設けられる事例が約半数であるのに対し、後半代になると三分の二がコーナー部への設置となり、変化が認められるようになる。このような状況は、他の遺跡についても指摘できることであり、本遺跡も同様な在り方を示しているといえる。

本調査区では、SI09のみに周溝が認められた。発掘調査開始時に市道地区の調査において、多くの遺構から周溝が確認されている事実を理解して調査にあたった。住居跡発掘後は、すべての遺構で掘り方の調査を実施し、土層断面観察も行っているが、ほとんどの住居跡で周溝を確認するには至らなかった。この違いが何に起因するものなのか今後の課題としたい。なお、塩山東バイパスの発掘調査においては、周溝は確認されていない。

## 第2節 墨書土器について

本調査区からは、破片も含め7点の墨書土器が検出されている。遺構別ではSI07から2点、SI08から2点、SI09から3点出土している。SI08・09は10世紀

前半代に比定されるもので、SI07は10世紀前半代に比定したSI06を切っていることから、10世紀後半代としたが、土師器坯体部外面下半に手持ちヘラ削りが残存する個体(第37図8・10)や玉縁となる土師器皿(同12)などもみられることから、10世紀中頃としてもよいかもしれない。

事例が少ないものの、墨書は10世紀中頃までに終焉を迎えることが指摘できる。この傾向は、市道地区の調査においても同様である。

本調査区より出土した墨書土器はほとんど判読不明なものである。その中にあって、SI08より出土した墨書土器(第38図5)は、体部外面上半に「奉」、底部には「大川」と書かれている。市道地区の1号竪穴から、底部に「大川」と墨書された土師器坯が出土しており、西に隣接する后知遺跡からは遺構外であるが、底部に「奉」と思われる刻書がされた土師器坯が検出されている。とくに、「大川」墨書は筆遣いが非常に類似する。

「大川」墨書は、河川名であることが想定されるが、本遺跡東側350mほどのところに重川が南流しており、遺跡は主に重川によって形成された扇状地の微高地に立地している。調査区西側にも千赤川が南流するが、小河川であることを考慮するならば、「大川」が重川を指している可能性は高いものと思われる。

本遺跡南側には勸進年不詳ながら、大同2(807)年に再建された熊野神社が存在する。「社記」によれば、病災により里人困窮の折り、「紀州熊野権現の神使」という白衣の老翁が現れ、熊野権現を祭れば収まるとされたため、横井郷獅子見塚に創建したという。以降、当地を熊野と改めたという。室町中期建立の本殿2棟、室町後期建立の拝殿が国重要文化財に指定されている。本遺跡と熊野神社は800mほどの距離にあるが、市道地区の報告では、「奉」刻書と熊野神社との関連性を想定している。

伝承によれば、かつて横井の地に熊野社があったが、水害の影響で現在地に移転したという(甲州市2017a)。重川の水害によって熊野神社が現在地に移転したのであれば、「奉」、「大川」墨書土器がこの伝承に大きな意味を持つものといえよう。

## 註

- (1) 市道調査区の報告において、11・19竪穴を10世紀前半代と後半代両時期のものとして報告しているが、本報告では、いずれも10世紀前半代に属するものとして扱った。

## 参考文献

- 塩山市 2000『塩山市史』資料編 第1巻 原始・古代・中世  
甲州市教育委員会 2015『熊野八反田遺跡』—学校給食センター建設に伴う発掘調査報告書— 甲州市文化財調査報告書 第18集
- 甲州市教育委員会ほか 2016『五反田遺跡』—ナフコ甲州店建設に伴う発掘調査報告書— 甲州市文化財調査報告書 第17集
- 甲州市ほか 2017a『大木戸・后畑遺跡』—市道下塩後22号線建設に伴う発掘調査報告書— 甲州市文化財調査報告書 第24集
- 甲州市ほか 2017b『后畑西・ケカチ遺跡』—市道下塩後22号線建設に伴う発掘調査報告書— 甲州市文化財調査報告書 第26集
- 斎藤孝正 1989『灰軸陶器生産の様相』『美濃の古陶』美濃古窯研究会会報 No.3
- 東海土器研究会 2015『—第3回東海土器研究会— 灰軸陶器生産における地方窯の成立と展開』
- 山梨県 1998『山梨県史 資料編1 原始・古代1 考古(遺跡)』
- 山梨県 1999『山梨県史 資料編2 原始・古代2 考古(遺構・遺物)』
- 山梨県教育委員会 2002『五反田遺跡』塩山東バイパス(国道411号)建設に伴う発掘調査報告書 山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第194集
- 山梨県教育委員会 2002『下西畑遺跡 西畑遺跡 影井遺跡 保坂家屋敷墓』—国道411号(塩山東バイパス)建設工事に伴う発掘調査報告書— 山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第196集
- 山梨県教育委員会 2003『大木戸遺跡』—国道411号(塩山東バイパス)建設工事に伴う発掘調査報告書— 山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第205集

## おわりに

本報告書では、店舗建設に伴う横井・大木戸遺跡の発掘調査報告を行った。本遺跡は、笛吹川と重川によって形成された扇状地の微高地上に展開する集落遺跡である。5月上旬より7月中旬の2か月半の調査によって9棟の堅穴住居、1棟の堅穴状遺構、溝跡7条、土坑33基、ピット45基を検出した。

調査区の東側および南側は、過去に道路建設に先立ち発掘調査が実施されており、多くの遺構が発見されていて、その様相が明らかとなっていた。また、本調査区の試掘調査によっても平安時代の遺構が確認されており、多くの遺構の検出が期待された。調査区内の遺構はそれほど密ではなかったものの、上記のような遺構が検出され、一定の成果を取ることができた。

本調査によって、横井・大木戸遺跡を面的に捉えることができ、本遺跡周辺も含め峡東地域における平安時代集落のあり方を考える上で大きな成果となったと考える。

上記のように発掘調査は5月上旬より開始し、順調に調査を進めることができたが、6月の梅雨は長梅雨となり調査終盤に悩まされることとなったが、笛吹川、重川によって形成された扇状地の地山土は、花崗岩類の砂質土であったため水はけがよく、雨が止むと即刻調査再開できたことは唯一の救いであった。

最後になりましたが、発掘調査、整理作業、報告書刊行に尽力いただきましたすべての方に御礼申し上げます。